Machine Translated by Google

はじめに - 真実の基礎

七つの偉大な真実

第 1 章 - 真実はどこで見つけられますか?

真実はどこで見つけられますか?

「騙されるのは好きですか?」という質問に直面したときに、「はい」と答える人がいるでしょうか。誰もが真実を知りたがります。人間がそれを求めるのは自然なことです。私たちは生まれたときから、それを知ろうと努めてきました。子供からお年寄りまで、中国人からアメリカ人、ブラジル人まで、誰もが同じ願いを持っています。それは、「真実を知りたい」ということです。それは動物が食べ物を求める動機と似ています。彼らは目を覚まし、彼女を探しに行きます。誰がつけたの ?簡単な例でこの質問に答えることができます。街を走っている車を見ると、それらはすべて 4 つの車輪を持っていることに気づきます。なぜ彼らはそれを持っているのでしょうか ?

メーカーがそのように計画し、製造したからです。したがって、私たちは私たちのケースを理解しています。すべての人間は真理を知りたいという欲求を持っています。なぜなら、創造者である神が真理を彼らの中に置いたからです。

神は、すべての人の欲望が、一人の存在、一人の人間によって満たされることを計画されました。イエスは、 「わたしは……真理である」 (ヨハネ14:6)と言われました。彼は真実です
人。したがって、神がすべての人に与えた真理を知りたいという願いは、キリストを知りたいという願いです。したがって、聖書は彼を「すべての国民の願い」と呼んでいます。
（ハガイ 2:7）。賢人は次のように書いています。そうです、彼はまったく望ましい方です」（歌 5:16）。しかし人々はそれを知りません。彼らは常に真実を探していますが、それが誰のものであるかは知りません。そこで神は、福音、つまり良いたよりを全世界に宣べ伝えるように命じ、「言葉は肉となって、私たちの間に宿った」と言われました。 （ヨハネ 1:14）。福音を宣べ伝えることは、「おい、あなたが探している人はすでにあなたのところに来ているよ！」と言うのと同じです。それは主イエス•キリストです。彼はこう言いました。「わたしのところに来る人は飢えません。わたしを信じる者は決して渇くことはない」（ヨハネ6:35）。全人類の真理への飢えを満たすことができるのは彼だけです。彼は「神から聞いた真理をあなたがたに告げた人」（ヨハネ8:40)です。

もしあなたがキリストを中心に据えていない宗教哲学の信奉者であれば、私たちがこのような考えを提示することに熱中しすぎていると思うかもしれません。

Machine Translated by Google

キリストと、私たちの最大のニーズを満たす彼の能力。しかし、神の働きを簡単に考察すれば、そうではないことが確かに分かるでしょう。洗礼者ヨハネはかつて、キリストがすべての国の願望であるかどうかについて疑問を抱きました。イエスは弟子たちをイエスのもとに遣わし、「あなたが来るべき人ですか、それとも他の人を探していますか？」と尋ねました。それに応えて、イエスは「彼らの病気、悪、悪霊の多くをすぐに癒してくださいました。そして多くの目の見えない人々に視力を与えました。
そこでイエスは答えて言われた、「行って、あなたが見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、らい病人は清められ、耳の聞こえない人は聞こえ、死者はよみがえらされ、貧しい人は福音を宣べ伝えられる。」わたしのうちに罪を犯さない人は幸いである」（ルカ 7:20-23）。イエスはどれほど多くの苦しみを軽減し、人々からどれほど多くの重荷を取り去ったことでしょう。かつて、会堂を出るとき、「大群衆がイエスに同行したので、イエスは彼ら全員をいやされました」(マタイ12:15)。

その街に住んでいた人たちにとって、何と忘れられない日となったことでしょう。もう誰も病院に行ったり薬に頼ったりする必要はありません。杖をついてよろよろ歩く人も、松葉杖で歩く人ももういませんでした。彼の喜びは人々が幸せになるのを見ることでした。この人の隣にいられるのはなんと素晴らしいことでしょう！そして、これらすべての素晴らしい業を行うために神は何を課されたのでしょうか？神にはそれができると信じさせてください。彼はこう言った、「信じる者にはすべてが可能である」（マルコ 9:23）。イエスを神からの祝福、愛、力の唯一の道であると信じた人は皆、恵みを受けました。

イエスの隣にいた人は誰でも、天が人々を祝福するために地上に降りてきたと感じました。イエスは人間でありながら、彼らの心配事や気遣いの重荷を自分自身に負ったときも、重荷を負っている様子は見られず、「すべて苦労している人、重荷を負っている人は、わたしのもとに来なさい。そうすれば休ませてあげます」（マタイ11章）と言われました。 :28)。最後に、聖書に記録されているように、イエスは私たちのために命を捧げ、私たちの罪と罪の重荷をご自身に負ってくださいました。ルカ 23:34)。これほど偉大な業をなし、これほど無私の愛を示したイエスに匹敵する人がいるでしょうか。事実を公平に評価する人は誰でも、「誰もいない」と言えるでしょう。これまでこの地球に住んだことのある人で、同じことをしようとした人は誰もいません。イエスの働きは、イエスが天から遣わされ、神に起源を持つ人間には知られていない愛を実証したという確信を私たちに与えてくれます。 「わたしを見た者は父を見たのだ」（ヨハネ14:9）。そして「神は愛です」。 「愛さない者は神を知りません」（私は

ヨハネ 4:8)。私たちは、すべての人間がこのような人をそばに置きたいと心から信じています。誠実かつ誠実に、無私無欲かつ利他的に自分を愛してくれる人です。あなたを助け、本当に祝福しようと心から願っている人です。利己的な目的を達成するために、あらゆる面から、さまざまな方法で、人々がお互いを物として利用しようとする世界では、誰もがイエスによって示された人格を持つ人と付き合いたいと切望しています。

人類に奉仕する人生

イエスを人々の望みとするすべての業の中で、その中の一つが際立っています。それは、カルバリの十字架で私たちに代わって死なれたイエスです。なぜイエスは犠牲になったのでしょうか？ 「それは、生涯を通じて死の恐怖によって奴隷にされていたすべての人々を、死を通して救い出すためでした。」（ヘブライ人への手紙 2:14)人間の最も深い恐怖は死です。

Machine Translated by Google

本文にあるように、それはすべての人に影響を与えます。そこに人間の不安の根源がある。そして、なぜそれが存在するのでしょうか？ 「死のとげは罪であり、罪の力は律法である」（ Iコリント15:56）。
この聖句は、人は神に対して罪を犯したため、死の恐怖が人の良心を「刺す」、つまり刺すという意味です。
そして、人に自分が罪を犯したことを気づかせるものは律法です。 「罪は律法を犯すことです」（ヨハネ第一 3:4）。
私たちは出エジプト記 20:3-17 に記されている神の律法の十戒について話しています。 「罪の報いは死である」（ローマ 6:23）。人間が死ぬのを恐れるのは、自分が罪人であり、宇宙の法則である十戒に違反しているからです。そして彼は死の恐怖の中で生涯奴隷にされることになる。しかし良い知らせは、イエスが代わりに死なれたということです。不正な人のための正義。彼の死は人間への罰を支払った、そして彼を信じることによって人間は生きるのである。彼は信仰によって罪から義と認められます。主とともにあるのは永遠の命と死の恐怖からの自由です。 「神の無償の賜物は、キリスト•イエスにおける永遠の命です」（ローマ 4:30）。

6:23）。そして「彼はすべての人のために死んだ」（ IIコリント5:14）。キリストにある命の賜物はすべての人に与えられています。このような理由から、彼はすべての国の願望でもあります。イエスを知る人は誰でも、イエスのうちに彼らがとても必要としていた救い主であり友人であることに気づくでしょう。魂の渇きを癒してくださるのはキリストだけです。そして彼はこう勧めます。そして望む者は命の水を自由に飲むことができるのです」（黙示録22:17）。

わたしたちのそばに

一般に、この世界で最も有名で望まれている人々は、プライバシーを楽しむために大衆から隠れる傾向があります。しかし、すべての国の願いは、天国に行った後も、毎日、誰もがアクセスできるようになりました。さらに、神は私たちが神を求めるのを待ちません。神は常に私たちのところに来て、私たちが神を受け入れるよう主張します。彼はこう約束しました。「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたたちとともにいる」（マタイ28:20）。

主とその救いは遠くないところにあります。 「主よ、あなたは近くにおられます」（詩 119:151）。
ある人はこう思うかもしれません。弟子たちはイエスを見ましたが、私たちは見ませんでした。 」一見欠点のように見えるものは、実は私たちにとって大きな喜びの源なのです。ここにはいない、目に見えるからこそ、イエスは弟子たちと一緒にいるときよりも近くに来てくださるのかもしれません。彼は私たちの中に生き続けることができるのです。
「キリストがわたしのうちに生きておられます」とパウロは言いました（ガラテヤ2:20）。聖徒たちと世界に現れた神秘は、「あなたがたの中にいるキリスト」（コロサイ 1:27)です。人間性によって制限されているキリストは、この地球上のどこにでもおられるわけではありません。したがって、彼が天国に行き、神から聖霊の油注ぎを受けたのは私たちの利益でした。天の油である霊が注がれると、キリストはそれを私たちに注ぎ、奉仕の天使たちを通してそれを送ってくださいました（使徒2:32、33、ヘブライ1:13）。天使は私たちの良心に語りかけ、私たちが最も必要とするときにイエスの導きを忠実に伝えます。このようにしてイエスの約束は成就します。誰かがわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人の家に入って彼と食事をし、彼もわたしと一緒に食事をするであろう」（黙示録3:20）。神が与えられた「イエス•キリストの啓示」は、「天使を通して」私たちに送られました（黙示録1:1）。

天使たちによってもたらされたイエスの導きに耳を傾けるとき、天使たちは、キリストが与えてくださった聖霊の一部で私たちを強め、私たちが罪を克服できるようにするよう命じられます。そして、私たちの行動や習慣が変わり始め、それが私たちの性格、つまり道徳的に言えば私たちが誰であるかに影響を与えます。は

Machine Translated by Google

高貴になると、私たちの性格は変わります。人々は、イエスの似姿が私たちの中に築かれていることに気づき始めます。私たちは、さまざまな状況で神が行動されたように行動し始めます。このようにしてキリストは私たちの内に生きておられます。パウロが書いた「キリストが私の内に生きておられる」という言葉には、この意味があります。

このように、天上のすべての天使の協力を含むこのプロセスによって、真理であるキリストが、かつて邪悪で罪深い人間の中に生き、彼らの心と思いを変えてくださるのです。十戒に含まれる真理が人生のあらゆる状況にどのように当てはまるかを教え、それに従って生きる力を与えてください。そして、私たちもイエスを受け入れるなら教えてください。

福音の良いたより

福音は、真理への渇きをキリストにあって癒すよう人々を招き、教えるメッセージです。それは神が人間の中に彼女を知りたいという願いを満たします。したがって、キリストが誰かに示されると、彼は感銘を受けて決断を下すことになります。彼女はイエスのうちに自分の魂の最愛の人、自分が必要としている人を認めるか、イエスを拒否して自分の良心を傷つけるかのどちらかです。そうは思われないかもしれませんが、人間がイエスを拒否することは真理を拒否することになるので難しいのです。そして、誰かが真実を受け入れなかったらどうなるでしょうか？それは常に意識に戻ってきて、「つついたり」したり、針で刺したり、突き刺したりします。あなたの中の誰かが「彼女はあなたが受け入れる必要があるものです。彼女はあなたが受け入れる必要があるものです」と言っているように感じます。なぜ拒否するのですか？（伝道者 12:11）。サウロは心の中で真実の針と戦った。彼はイエスとその追随者を拒絶し、イエスを詐欺師として扱いました。しかし、彼の良心はそうではないと言った。したがって、イエスが彼に自分自身を明らかにしたとき、彼はこう言いました、「サウル、サウル...あなたにとって、強姦に抵抗するのは難しいです。」

（使徒 9:4、5）。したがって、イエスを拒否するには、人は真理と戦う必要があるということになります。そうでなければ、あなたは彼を受け入れることになるでしょう。そして、もしあなたが神を受け入れ、信じ続けるなら、あなたは救われます。なぜなら、心から神を信じる者は皆救われるからです。「救われるためには何をしなければなりませんか？…主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます。」（使徒行伝16:30、31）。

「そして、これは永遠の命であり、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス•キリストを知るためです」（ヨハネ17:3)と書かれています。永遠の命は神とイエス•キリストを知ることから成ります。しかしイエスは、「わたしを見た者は父を見たのです」(ヨハネ14:9)と言われました。イエス•キリストを知る者は、御父を知ることになります。したがって、永遠の命とは、イエス•キリストを知ることです。なぜなら、イエス•キリストを知ることは、御父を知ることでもあるからです。そして、福音は、人々にキリストにおける真理を知るように勧めているのですが、実際、福音は、次のような方法で永遠の命を受けるよう勧めています。イエスを知ること、彼を知ることによって死から救われること。イエスは、「わたしは……真実である」と言われました。そしてまた、「そして、あなたは真実を知るでしょう、そして真実はあなたを自由にします...罪を犯す人は皆、罪の僕です...したがって、もし御子があなたを自由にすれば、あなたは本当に自由になるでしょう。」（ヨハネ 14:6; 8:32、34、36）。キリストを知ることによって、私たちは真に罪から解放されます。罪から解放されました。言い換えれば、私たちはキリストを知っているので、神の戒めに従うことになります。キリストに関する私たちの知識の程度は、キリストの律法に対する私たちの従順に比例します。このような、

Machine Translated by Google

真理であるキリストを知ることは、人を罪の非難と罪の汚染から解放します。人間を救われ、道徳的に勝利を収めた自由な存在にします。

永遠の命に向けて - 私たちの霊的な家の建設

一旦キリストを受け入れたら、私たちの道徳的向上は、「完全な人である神の御子についての認識に達し、キリストの身長を完全に知るようになるまで続けなければなりません。そうすれば、私たちはもはや右往左往する子供ではなくなります」あらゆる教義の風に翻弄され、また、狡猾さによって不正に欺く人々の欺瞞によっても翻弄されるのである。」（エペソ人への手紙 4:13、14）。

パウロは、私たちがキリストの背丈に合わせて成長することを、家を建てるという仕事に例えています。使徒と預言者の基礎の上に建てられ、イエス•キリストがその主要な礎石です。その中で建物全体が組み合わされて、主にある聖なる神殿へと成長し、あなたがたもその中で共に建てられ、御霊による神の住まいとなるのです」（エフェソス 2:19-22）。コリント人への手紙の中で、使徒はこの比較をさらに詳しく調べています。

「なぜなら、私たちは神との協力者だからです。あなたは神の農場、神の建物です。
私に与えられた神の恵みに従って、私は賢明な建築者としての基礎を築きました。そして別のものがそれに基づいて構築されます。しかし、各自がどのように構築するかを見てみましょう。というのは、イエス•キリストという、置かれた基礎以外に、誰も他の基礎を築くことはできないからです。
しかし、誰かがその土台の上に建てるものが、金、銀、宝石、木、干し草、わらであれば、それぞれの人の仕事が明らかになります。それは火によって明らかにされるので、その日がそれを証明するでしょう。そしてそれぞれの働きが何であれ、火そのものがそれを試すだろう。」コリント人への第一の手紙 3:9-13

この箇所で使徒パウロは教会を建物に例えています。彼はコリント人への手紙で、「あなた方は神の建物です」と書いています。そして、「イエス•キリスト」という土台を据えたと記されています（11節）。パウロは彼らに、「イエス•キリストと十字架につけられた方」を、世の罪を負う者として、人類の完全な救い主として説教し（Iコリント2:2)、コリントの人々は彼を受け入れました。このようにして、イエスは彼らの信仰の基礎として彼らの心の中に確立されました。

イエスは真理です（ヨハネ 14:6）。パウロは説教することによって、コリントの信者の心に真理を押し込みました。しかし、彼はまた、この基盤の上に「別のものが構築される」とも言いました。
別の福音の説教者、この場合は福音記者アポロは、手紙の第 1 章と第 2 章に見られるように、キリストの言葉からさらに多くの真理をコリント人に教えました。
したがって、アポロは「この基盤の上に建てられた」のです。福音を説く者の働きは、家を建てる人々の働きにたとえられました。リスナーの心に投げかけられたそれぞれの真実は、彼らの心の中に真実を構築するのに役立ちました。
すべての説教者は建設者です。

Machine Translated by Google

7つの柱

この比較は、福音の説教者によって教えられた真理が、信者の心の中にある「霊的な建物」の構築の一部を形成していることを示しています。真の説教者は自分自身について語るのではなく、キリストの霊によって霊感を受けているので、キリストご自身が私たちの霊的な家の建設者であると言うのは真実です。 「そして、モーセは神の家全体で、しもべとして忠実でした。 ...しかし、キリストは神の家で、御子として、忠実でした。わたしたちは誰の家ですか」 （ヘブライ人への手紙 3:5、6）。聖書は神を、私たちに指示する知恵そのものとして示しています。「しかし、あなたはキリスト•イエスにあって彼のものであり、私たちにとって神からの知恵となったのです…」 （ Iコリント 1:30）。知恵としてのイエスについて、箴言 9章1節はこう述べています。「知恵はその家を建て、その七本の柱を立てた」。箴言 9:1。

キリストは私たちの心の中に7つの真実の柱を築きます。私たちが神を自分の個人的な救い主として受け入れると、神は、神そのものであるという知恵として、私たちの心の柱となる真理を教えてくださいます。あなたの役割 ?家の柱と同じで、風水害で倒壊しないように、倒れないようにしっかりと保ちます。

イエスは、サタンが私たちの霊的な家を崩壊させるために利用する要素について言及されました。「そして、雨が降り、川が氾濫し、風が吹いてその家を打ちつけました」マタイ 7:25。ヨハネは、「あなたが見た水は……民族、群衆、国家、そして言語である」（黙示録17:15）と言われました。したがって、水は人々の迫害、嘲笑、悪影響を表しています。そして風に関してパウロはこう書いている。「それは、私たちがもはや幼い子供のように、人間のずる賢さや、誤謬に導くあらゆる教義の風に振り回されたり、振り回されたりすることがないようにするためである」 （エフェソス 4:14）。このように、教義の風と迫害と悪の影響の水は、私たちの霊的な家を破滅に導く可能性のある要素です。イエスの信仰の七つの柱を学び信じる人は不幸から守られるでしょう。

耐久性のある素材を使用した建物

パウロはコリント人への手紙の中で、福音の説教者全員が偉大な真理、つまり信仰の七つの柱を教えているわけではないことを示しています。むしろ、彼らはそれらを、水や誤謬の風の試練に耐えられない「木、干し草、わら」に匹敵する他の教義に置き換えます。使者と石工を比較して、彼はこう言います。「しかし、誰かが金、銀、宝石、木、干し草、わらを土台の上に建てるなら、各人の仕事は明らかになるでしょう。」 コリント人への手紙第一 3:12、13 いくつかのメッセージは次のようなものです。天の目には「金、銀、宝石」 。神の言葉に基づいた聖書の教義。その他は「木、干し草、わら」です。人間の戒めである教義。パウロはこう言います。それは火によって明らかにされるので、その日がそれを証明するでしょう。そして、それぞれの働きが何であれ、火そのものがそれを試すでしょう」（ Iコリント 3:13）。この火は、使者の説教の結果として信者たちの中に信仰が育まれたかどうかを証明するでしょう。ペテロが次のように述べたように、火は信仰を試すものです。

Machine Translated by Google

あなたたちの間では、あたかも何か特別なことがあなたたちに起こっているかのように、あなたたちを試みるために設計されています」（Iペテロ4 :12）。

教義の風と迫害の水がキリスト教徒に吹きかけられると、人間から教えを受けた人々は、木の干し草や切り株に例えられ、迷うことになるでしょう。一方、聖書の教義によって神の言葉の真理を養われている人は、学んだことと間違いとの対照に気づき、真理にしっかりと留まり続けることができます。柱で支えられた家と同じように、倒れることはありません。

実例

例として、誰かが「ただ信じれば、これからどのように行動しようと、すでにキリスト•イエスに救われている」というメッセージを教えとして受け取ったとします。彼はその中に安らぎ、人間が神に協力し、恐れおののきながら神の救いを達成する必要性について警告されることはなく、一方で神は彼の内で「意志し、行うように」働いておられます（ピリピ 2:12、13）。したがって、彼は神の力の助けを借りて、自分の性格上の欠陥に対して激しく戦うことはありません。以前は、困難や迫害が来ると、彼らはすぐに非難され、正しい道を放棄しました。しかし、彼はイエスを信じていると公言しているので、自分の救いは保証されていると今でも信じています。裁きの日には、彼は自分が間違っていたことが明らかになるだろう。手遅れになった彼は、聖なる都に書かれているように、 「汚れたものは決して入ることができず、忌まわしい行為や嘘を犯す者さえも入れず、子羊のいのちの書に書かれた者だけが入る」ことを知るでしょう。 （黙示録 21:27）。彼の精神的な故郷には聖書の真理の柱がありませんでした。だからこそ崩壊したのです。

したがって、私たちは、「それは救いの点ではない」という考えに基づいて、御言葉の真の教義を知ろうとすることをやめることができないことに気づきます。線路の 1 つを少し迂回すると、数キロ先に大きなギャップが生じます。そして聖書は、人間の教義の説教者の言葉に耳を貸さないようにと私たちに忠告しています。教義に留まる者は父と子の両方を持っています。誰かがあなたのところに来て、この教義を持ってこない場合は、その人を家に迎え入れたり、歓迎したりしないでください。彼を歓迎する者は彼の悪行の共犯者となるからである。」 IIヨハネ9-11。

勝敗を分ける7つの真実

ここで、箴言の本文に戻りましょう。「知恵は家を建て、七つの柱を示した。」箴言 9:1。イエスが私たちの心の中に記した真理の数は7つです。 8 つも 5 つもありません。 7 は何かの満ち足りた数です

Machine Translated by Google

聖書で完結しています。週は7日あります。黙示録に登場する封印の数は、ラッパが7つ、疫病が7つあるのと同じように、7つです。いつも7人いるよ。神は私たちが聖書の七つの偉大な真理、つまり信仰の七つの柱を知ることを望んでおられます。旧約聖書のサムソンの物語は、七つの柱がクリスチャンに与える力を示しています。彼の超自然的な強さの秘密は、彼が生まれながらにして神に奉献され、その決意のしるしとして髪を切らなかったという事実にあることはよく知られています。サムソンの髪には七つの三つ編みがありました。そして、彼がそれらを失ったとき、何が起こったのでしょうか ?聖書にはこう書かれています。「そこでデリラはサムソンを膝の上に寝かせ、男を呼んで頭の七つの三つ編みを剃らせた。彼女は彼を制圧し始めた。そして彼の力は彼から離れていった。」士師記 16:20。

この小さな本の中で、私たちは霊的生活において 7 つの知識の柱を持つことの重要性を理解しました。ぜひこのシリーズの他の本を読んで、1 冊ずつ理解してください。聖書の七大真理があなたの心に栄養を与えてくれますように。

神のお恵みがありますように。

ハイロ•カルヴァーリョ

第 2 章 - 最初の偉大な真実 - イエスは今どこにいるのでしょうか?

イエスは真理であるため、聖書の七つの偉大な真理はキリストとその働きを明らかにしています。

ペテロとヨハネがバプテスマのヨハネと一緒にいたとき、彼はイエスが通り過ぎるのを見て、「見よ、神の小羊だ」と言った。二人の弟子たちはイエスがこう言うのを聞いて、イエスに従いました。イエスは振り向いて、彼らがイエスについて来ているのを見て、彼らに言われた、「何を求めているのか」。そして彼らは言いました：「ラビ（マスターという意味)どこに住んでいますか？」そしてイエスは彼らに言った、「来て見なさい」。彼らはイエスがどこに住んでいるかを見に行って、その日イエスと一緒に過ごしました。」
（ヨハネ 1:35-39）。彼らはイエスのことを聞くだけでは満足しないでしょう。彼らは主を知りたかったのですが、そのための最良の方法は主と一緒にいることでした。それが理由です、

Machine Translated by Google

彼らは単刀直入に「どこに住んでいますか？」と尋ねました。信仰の柱である柱はキリストとその働きに関連しているため、「どこに住んでいますか?」という質問に答えるのは最初のものだけです。救い主を愛する真の弟子は皆、主のご自宅で親密な雰囲気の中で主を知りたいと願うでしょう。"どこに住んでいますか？"が最初の質問になります。そして、誠実にそうするすべての人に対して、イエスは過去に弟子たちにしたように、「来て見なさい」と答えられるでしょう。これは私たちがこれから学ぶ聖書の偉大な真理の最初のものです。

救い主は天に昇られる前に、「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたとともにいる」と約束されました（マタイ28:20）。実際、イエスは慰める者として、霊において常に私たちと共におられます。「私は父にお願いします。そうすれば、父はあなたに別の慰め主を与えてくださいます。真理の御霊が永遠にあなたとともにおられるようにしてください...私はあなたたちを孤児として残しません、私はあなたのところに行きます...世界あなたはもう私を見ませんが、あなたは私を見るでしょう」（ヨハネ14：16-19）。今日に至るまで、私たちは主が私たちの心に来られるのを見ます。なぜなら、慰め主はご自身だからです。しかし、神は個人的に私たちと共におられるわけではないので、私たちは信仰の目で見ます。霊の中に存在することは、実際に存在することと同じではありません。しかし、今日、私たちはどこで主を直接見られるのでしょうか？歴史と聖書は、その疑問に答える圧倒的な証拠を与えてくれます。しかし、彼らはまた、この探求において、誠実な人はキリストの言葉を十分に理解していないために失望する可能性があることも教えています。

失望した人間の期待

イエスは地上にいる間、人の子は苦しみ、死に、三日目に復活することが必要であると何度も繰り返しました。しかし、弟子たちはその言葉に耳を傾けませんでした。彼らはイエスのいる場所にいたかったのです。しかし、カルバリの後、彼らは主を見失いました。彼らはまるで十字架について何も教わらなかったかのように、とてもがっかりしました。彼らは復活の朝までカルバリの信仰によってイエスに従いませんでした。もし彼らがキリストの言葉を理解した上で、救い主が死に対する栄光に満ちた勝利を収められるのを見るために墓で当番をしていたなら、どれほど素晴らしいだろうかと考えてください。しかし、彼らの理解の欠如により、この恵まれた経験が奪われました。

「かつてあったものは、これからもどうなるのか。太陽の下に新しいものはない」（伝道者 1:9）。したがって、終わりの日には、キリストを見つけ、キリストが直接どこにおられるかを知りたいと心から願っていた人々も失望に直面するであろうことを私たちが理解するのは自然なことです。
しかし、彼らが粘り強く探し続けると、イエスを見つけることができました。現代史のどこにそのような動きが見られるでしょうか？記録によると、18 世紀にその中心がアメリカ合衆国にあったのは 1 つだけです。ある男性は、聖書を注意深く研究した結果、すぐにイエスに直接会うことができるという結論に達しました。彼らの研究は、さまざまな宗教宗派の他の何人かの研究者の研究によって裏付けられ、彼らは同様の結論を提示しました。つまり、イエスは数年以内に二度目に地球に戻ってくるということです。

良いたよりを発表し、イベントの準備をする運動はすぐに広がりました。

Machine Translated by Google

藁の火。 「神を畏れ、神に栄光を帰せよ。神の裁きの時が来たからである」 (黙示録14:7)という言葉が響きました。彼らを有罪に導く預言はこう述べていました。そうすれば聖所は清められるであろう」 （ダニエル書 8:14）。当時の共通の理解は、神の聖域は地球であるということでした。

したがって、彼らは、 「聖所は清められる」という言葉は、イエスが間もなくご自分のものを探しに来て、火で地球を清めることを意味していると理解しました。この目的のために、彼らは生活のすべてを導き、その日には準備が整っているようにしました。

二千三百の午後と朝

「その時、私は聖人が話すのを聞きました。すると別の聖人が、話した彼に言いました。聖域と軍隊が踏みにじられるために引き渡されるまで、絶え間ない犠牲と壊滅的な罪のビジョンはどれくらい続くのでしょうか？そして彼は私にこう言いました。「夕方と朝は二千三百まで。そうすれば聖所は清められるであろう」 （ダニエル書 8:13、14）。

天使は、罪が蔓延し、神の真の僕である聖所と軍隊が踏みにじられる時代を指摘しました。この言葉は、疑いもなく私たちを中世へと導きます。次に、ある人が神の代わりに身を置き、地上におけるキリストの代理、つまり代理の称号を引き受けました。神の真の聖所は、地上におけるこの人の教会の聖所に取って代わられました。聖書はこう述べています。「神と人間との間には、イエス•キリストという一人の仲介者がおられる」(Iテモテ2:5)。しかし、この男はまた、他の人たち、つまりマリアと聖人たちの仲介を確立しようとしました。神の律法を確立する代わりに、律法違反を確立し、神の戒めではなく教会の教義への従順を人々に課しました。この戒めには、「自分のために彫刻した像を作ってはならない」（出エジプト記 20:4)と書かれていますが、教会は像の崇拝を認めていました。ルターと他のプロテスタントは、教会が推進する真理からの多くの逸脱を非難しました。しかし、最も印象的だったのは、神の軍隊である神の僕たちを踏みにじり、拷問部屋、かがり火、断頭台、地下牢で彼らを殺害するという彼の態度でした。

「宗教的権力が現実の権力と混同されていた時代に、教皇グレゴリウス9世は4月20日、 1233年から、 2枚のチラシを編集しましたそれは異端審問の再開を意味します。その後何世紀にもわたって、彼女は異端を広めた数人の敵を裁判にかけ、無罪または有罪となり、国家（当時は一般的であった「死刑」が適用された)に引き渡された。 」出典: http://pt.wikipedia.org/wiki/Inquisi%C3%A7%C3%A3o - 2007 年 9 月 27 日にアクセス (強調)。

「異端」、つまり教会が受け入れなかった教義とは何でしょうか?神の言葉の明確な教え：「義人は信仰によって生きる」。そして、行いや秘跡なしで「恵みによってあなたは救われます」（ヘブライ 10:38; エフェソス 2:8、および聖書で教えられている他の真理。中世の教皇は公然と神の律法に違反し、それを変えました。彼は光を、暗闇、そして

Machine Translated by Google

闇、光。彼はキリストの聖所を教会の聖所に置き換え、キリストのとりなしを自分の聖所に置き換え、イエスの犠牲をミサの犠牲に置き換え、その中でキリストが再び犠牲にされたことを確認しました。そして彼は聖書の研究者たち、キリストの真の兵士たちに死刑を宣告した。このようにして、「絶え間ない犠牲と壊滅的な罪の幻が成就し、聖所と軍隊が踏みにじられるために引き渡される」 （ダニエル書 8:13)という言葉が成就しました。しかし、この道徳的、精神的な暗闇の時代が終わった後、聖域は浄化されるだろうと預言は述べています。

「その幻影はいつまで続くのか…？」そして彼は私にこう言いました。「夕方と朝は二千三百まで。そうすれば聖所は清められるであろう」 （ダニエル書 8:14）。

1798年にナポレオン•ボナパルトの軍隊がローマに侵攻したとき、教皇権力は致命傷を負った。その後、彼らは教皇ピウス6世を投獄し、追放し、いくつかの情報源によると、後に斬首したという。彼の覇権は終わった。

聖書で予告されている聖所が清められる時が近づいています。実際、当時、多くの人がこの聖句を研究することに感動し、特にウィリアム•ミラーによって行われた研究に重点を置きました。ミラーは非常に正確に、彼の結論が反駁できないほどの証拠に基づいて成就の時期を決定しました。当時の最も偉大な知識人によって。彼の研究は、聖書そのものを明らかにする方法に基づいており、したがって聖書の一貫性が保たれています。

二千三百の夕と朝の幻は、ダニエル書 8 章で次のように説明されていないことが分かりましたか。それで私は立ち上がって王の仕事をしました。私はそのビジョンに驚きましたが、それを理解できる人は誰もいませんでした。」 （ダニエル 8:26、27）。 9章で預言者は次のように報告しています。数年後、「アハシュエロスの子ダリウスの最初の年に…私がまだ祈りを捧げていたとき、最初に幻の中で見たガブリエルという男が、すぐに飛んできて、午後の犠牲の時間に私に感動しました。そして彼は私に指示し、話しかけてこう言いました、「ダニエル、今私はあなたにその意味を理解させるために出てきました。」

あなたの嘆願の初めに命令が来ました、そして私はあなたにそれを宣言するために来ました、なぜならあなたはとても愛されているからです。したがって、言葉を理解し、ビジョンを理解してください。」 （ダニエル9 :1、21-23）。
天使が幻を明らかにし、第 8 章で受けた使命を完了する時が来ました。 「ガブリエルよ、この人に幻を理解させなさい」 (ダニエル 8:16)。ダニエル書の最初から第 8 章まで、彼が理解できなかったと報告している唯一の幻は、二千三百の夕と朝の幻でした。したがって、天使が明らかにすることができた唯一のビジョンはこれです。

70週間

天使はこう言い始めます。 「あなたの民とあなたの聖なる都市には、罪を終わらせ、罪を終わらせ、不法を償い、永遠の義をもたらし、封印するために70週間の時間が定められています。」幻と預言、そして至聖所に油を注ぎます。知って、理解してください。エルサレムを回復し建設する命令が発せられてから、メシアである君が降臨するまで、七週間と六十二週間です。」 （ダニエル書 9:24、25）。彼はまず、午後と午前、つまり 2300 日という期間の一部を説明します。ダニエルが属していたイスラエルは「あなたの民には七十週間が命じられている」。法令と訳された用語が原文です。

Machine Translated by Google

「チャタック」は文字通り「切る」という意味です。 70 週間は、合計 2300 日から区切られた期間です。期間途中でポイントが表示されなかったので
70 週間の始まりについては、2300 日から数えて最初の 70 週間が始まりとみなされます。

70 週 x 7 日 = 490 日

聖書は、象徴的な預言の中で、1 日が 1 年を表していると教えています。「あなたがこの地を偵察した日数に応じて、1 日が 1 年を表す 40 日、あなたは自分の咎を 40 年耐えることになるでしょう」（民数記 6:3）。 14:34) 。したがって、時間は490年になります。以下は、わかりやすくするために図で示したものです。

2300 午後と午前 = 2300 年

|---------- ----------|

70週間 = 490年、ユダヤ人には短縮される

|----------|

70 週間を合計期間の最初の部分と考えると、カウントの開始点も 2300 日になります。

2300 の午後と午前はいつ始まりますか?

「エルサレムを修復し建設せよという命令以来、知っていて理解している」
（ダニエル書 9:25）。これがカウントの開始点です。エルサレム建設には3つの法令がありました。最初の二人、キュロスとダリウスは都市の再建を命じた。しかし、その預言は、独立した政府の回復と都市の建設という二重の目的を持つ命令を示していました。これは、エズラが報告しているように、少し後の第 7 章でアルタクセルクセスによって与えられました。

「これは、アルタクセルクセス王が主の言葉と戒め、そしてイスラエルに対する主の法令の書記官である祭司エズラに与えた手紙の写しである。王の中の王アルタクセルクセスから、律法の書記官である祭司エズラに宛てたものである。 」天の神よ、平和、完璧です !私の王国では、イスラエルの人々とその祭司のうち、あなたと一緒にエルサレムに行きたい人は誰でも、行かなければならないと私が命じました。あなたは、王とその七人の顧問官から、あなたの手の中にあるあなたの神の律法に従って、ユダとエルサレムで調査するよう命じられているからです。そしてその銀と金を手に入れるために

Machine Translated by Google

王とその顧問たちはエルサレムに住むイスラエルの神に自発的に献金した。そして、王とその顧問たちが自発的にエルサレムに住むイスラエルの神に与えた銀と金のすべて…そしてアルタクセルクセス王、私自身が、川の向こうにいるすべての財務官たちに、すべてのものを与えると命じました。天の神の律法の書記である司祭エズラは、あなたにお願いします。早く行いましょう...命じられたことは何であれ、天の神の戒めに従い、家のために早く行いますように。天の神」（エズラ記 7:12-16、21、23）。

これはエルサレムの一部、この場合は神殿を建設する命令です。そして、政府の回復を命じる部分はさらに続きにあります。「そして、エズラよ、あなたは、あなたの手の中にあるあなたの神の知恵に従って、川の向こうにいるすべての人々を裁くために総督と裁判官を任命します。あなたの神の律法を知っているすべての人に、そしてそれを知らない人たちにあなたはそれを知らせてくださいます。そして、あなたの神の律法と王の律法を守らない者には、死、追放、財産への罰金、投獄のいずれであっても、ただちに正義が下されるであろう。」（エズラ 7:25、26）。この法令により、エズラは神の法に基づいて政府を樹立することが認められました。これによりイスラエル政府の自治が回復されました。この法令は預言を成就させた。歴史によれば、この命令は紀元前 458 年に発布されましたが、成就されたのは紀元前 457 年、より正確にはイスラエルの地の秋、つまり 9 月から 10 月ごろに行われました。この日付は神学者たちから大いに疑問視されていたが、エジプトのエレファンティノスのパピルスが発見され、この年が布告の年であることが確認されたことで、この論争は致命的な打撃を受けた。 70週の数えが始まり、午後と午前が2300週になったのはその時でした。

2300 午後と午前 = 2300 年

|---------- ----------|

70週間 = 490年、ユダヤ人には短縮される

|----------|

457a.C.

62週間

預言の説明を続けて、天使はこう言いました。

「エルサレムを回復し建設せよという命令が発せられてから、メシア君が降臨するまで、七週間と三十分と二週間」（ダニエル書9:25）。

457 年からメシア、つまりキリストが登場するまでの 62 週間の期間になります。
聖書の他のバージョンでは、メシアではなく「油注がれた」という言葉が使われています。

Machine Translated by Google

「知って、理解してください。油そそがれた者、君主にエルサレムを修復し建設せよという命令が出されてから、七週間と六十二週間あります。」（ダニエル書 9:25 〜）
改訂および更新されたアルメイダ版）。

この言葉を理解するのは難しくありません。旧約聖書には、聖霊を表す油が人々に注がれた場面が何度か出てきます。「神はナザレのイエスに聖霊と力を注がれました」（使徒10:38）。「イエスがバプテスマを受けると、すぐに水から上がって来られた。すると、見よ、天が開かれ、神の霊が鳩のように降ってきてイエスの上に来るのが見えた。」（マタイ 3:16）。したがって、「油注がれた」という言葉によって、預言の週はイエスのバプテスマの時を示していました。

7週間 + 62週間 = 69週間

69 週間 X 1 週間あたり 7 日 = 483 日

予言では: 483 日 = 483 年。

紀元前457年からイエスの洗礼まで483年。
グラフに表すと、次のようになります。

483年

|----------|

457a.C. 27°C

計算するときは、457 + 27 = 484 年なので、計算を間違えたと思うかもしれません。
日付を数えるとき、ゼロ (0) という年は存在しないことを覚えておく必要があることがわかりました。次のように数えます: 紀元前 2 年、紀元前 1 年、西暦 1 年、西暦 2 年。 (ゼロなし)。タイムラインにゼロがあった場合、457 年から開始して 483 年を追加すると、到着します。
で：

483 – 457 = 26。

ただし、ゼロがないため、カウントは 1 年進みます (26 + 1 = 27BC)。さて、数学についてあまり心配することなく、ただ神の言葉を信じれば、預言がどのように文字どおり成就したかも分かるでしょう。紀元前 27 年、天使によれば、王子は油そそがれるはずです。油注ぎはオリーブオイルで行われ、聖霊の注ぎの象徴でした。そして物語は、イエスがバプテスマを受けたことを伝えています。

Machine Translated by Google

したがって、紀元前27年に油そそがれました。これは、70週間の預言に示されている時期と正確に一致します。約500年前に神が予言したことは厳密に成就した。私たちの神は素晴らしいです！

先週

「知って、理解してください。油そそがれた者、君主にエルサレムを修復し建設せよという命令が出されてから、七週間と六十二週間あります。」（ダニエル書9:25）。 7 (7) + 62 (62) を合計すると 69 週になります。 70 人、あと 1 人です。なぜ彼は最後のものを分離したのですか？これは予言の保証印のようなものだからです。

天使は先週についてこう言いました。そして週の半ばには、いけにえと肉の捧げ物をやめさせるであろう」（ダニエル書9:27）。王子であるイエスがコンサートを行うことになりました。パウロはイエスを「より良い契約の仲介者」と指摘しています（ヘブライ人への手紙 8:6）。そして彼は神と人間の間の唯一の仲介者です。「神と人間の間には…一人の仲介者、イエス•キリストがいます」（ Iテモテ２：５）。

週の半ばで、神は犠牲を中止させられました。これはヘブライ語の聖所で行われる犠牲を指します。イエスが宣教を始めようとしたとき、バプテスマのヨハネはイエスを指さして、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」と言った。
（ヨハネ 1:29）。彼は真の犠牲者でした。動物のそれらは、罪の代価として死ぬために子羊を与えるという神の約束を人々の心の中に生き続けるためだけに制定されました。御子が十字架の祭壇で殺されたとき、動物の犠牲はもはや継続する理由がなくなりました。すでに果たされた約束を象徴する儀式を行う必要はもうありませんでした。

天使はダニエルに次のような言葉でこのことを予告しました。「そして週の半ばには犠牲をやめるでしょう」。

70 週のうちの最後の週は西暦 27 年に始まり、1 週間は 7 日間です。そして、これまで見てきたように、預言においては、1 日は 1 年に相当します。したがって、先週の半分は 3 日半、または 3 年半に相当します。西暦31年に戻ります。歴史は、イエスがまさにこの年にカルバリの十字架で死んだことを確認しています。天使の預言は定めの時に成就し、十字架はその正確さを裏付けています。

3年半 半週

|----------|

27°C 31°C

キリストの洗礼 キリストの死

Machine Translated by Google

食事の捧げ物も中止されますが(ダニエル9:27)、パンとブドウジュースの捧げ物に付けられた名前で、これもキリストを表していました。イエスは最後の晩餐をしようとしたとき、それらをご自身の象徴と呼びました。パンに関しては、「彼はそれを裂いて、『これはあなたのためのわたしのからだです』と言った」（ Iコリント11:24）。そして、ブドウジュースのことになると、「彼は杯を取り、『この杯はわたしの血における新しい契約である』と言いました」 （ Iコリント1:11）。
11:25）。それらは来るべき救い主を象徴していました。しかし今、彼はすでに来ていました。それ以来、犠牲の記憶は、イエスが死の前に制定した聖晩餐の儀式を通して行われるようになりました。それはもはやヘブライの聖域の犠牲によるものではありません。イエスが十字架で死なれたとき、「聖所の幕が上から下まで真っ二つに裂かれた」のはこのためです（マタイ 27:51）。祭司たちは動物の血をこの幕に振りかけました。「雄牛は主の前で屠られなければなりません。それから油そそがれた祭司は雄牛の血の一部を会見の天幕に持ち込むでしょう。そして祭司はその血に指を浸し、それを主の前、幕の前に七回振りかけなければならない」（レビ記4:15-17）。見えざる手によるベールの引き裂きは、動物の犠牲の血はもはや受け入れられないことを天が示したものでした。「御子イエス•キリストの血は、私たちをすべての罪から清めてくださいます」（ヨハネ第一 1:9）。パウロは、イエスが御父にこう言われたと述べています。今彼は言いました：私はあなたのご意志を行うためにここにいます。神は最初のものを取り去って、二番目のものを立てられるのです」（ヘブル10:8、9）。ヘブライ人の聖所とその奉仕は取り去られ、天の聖所の奉仕が確立されました。そこでは、キリストが動物の犠牲ではなく、罪人のために流された血の功績を神に差し出すことになりました。 「聖所への道はまだ発見されておらず、最初の幕屋はまだ立っていた...

しかし、大祭司キリストが来られたとき、手で作られたものではなく、つまりこの被造物でもなく、ヤギや子牛の血でもなく、ご自身の血によって作られた、より大きく、より完全な幕屋によって、一度その幕屋の中に入りました。聖なる場所」（ヘブライ人への手紙 9:8、11、12）。

70週間の終わり

これまで見てきたように、70 週間は 490 年に相当します。テキストには、彼らが決意したと書かれていることに注意してください…「あなたの街について」。ダニエルはユダヤ人でした。彼の都市はエルサレムでした。定められた時の終わりに、特にユダヤ人に与えられた期間は終わり、福音の音信はエルサレムから追放されます。

70年代の最後の週はイエスのバプテスマで始まります。彼は 3 年半説教を続け、西暦 31 年の週の半ばに亡くなりました。 イエスは宣教中に弟子たちに福音を告げ知らせるよう命じたとき、こう言いました。イスラエルの家」（マタイ 10:6）。この命令は預言の言葉と一致していました。彼らは先週の出来事であり、ユダヤ人にとっては過去7年間の隔たりがあった。まだ彼らに特別な方法で福音が伝えられる時期でした。彼らは地上で神に選ばれた人々でした。しかし、復活後、イエスは弟子たちに、すぐにメッセージの宣教は彼らだけに限定されるものではなくなると告げました。そうすればあなた方はエルサレム、ユダヤとサマリアの全土、そして地の果てに至るまでわたしの証人となるであろう。」 （使徒 1:8）。世界に福音を宣べ伝える出発点はステパノの死でした。 「そこで彼らはスティーブンを石で打ちました。

Machine Translated by Google

彼は祈りながら言った、「主イエスよ、私の霊を受けてください。」そしてひざまずいて、大声で叫びました、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」そう言って彼は眠ってしまった…。
その日、エルサレムにあった教会に対して大規模な迫害が起こりました。そして使徒を除く全員がユダヤとサマリアの地方に散り散りになった……散り散りになった者たちはどこへでも行って御言葉を宣べ伝えた。」 (使徒 7:59; 8:1,4)。
ステパノは西暦 34 年に亡くなり、ちょうどダニエル書 9 章で預言されている 490 年、つまり 70 週間が完了したとき、福音の説教者たちはユダヤ人自身によってエルサレムから追放されました。こうして、彼らが特別な民族として分け隔てられた時代は終わった。予言は成就した。ユダヤ人の時代は神の側の恣意的な命令によってではなく、ユダヤ人自身の選択と行動によって終わったことに注意すべきです。そして、彼らに向けて行われ、拒否されたその招待は、地球のあらゆる場所に広がりました。数年後、パウロは福音が「天の下のあらゆる生き物に宣べ伝えられた」(コロサイ1:23)と報告しました。

70週間 (490年)

|---------- ----------|

〜の死亡を命じる　　イエスの油注ぎ

アルタクセルクセスの　　カルバリー•スティーブンの洗礼で

|---------- --------|----------|----------|

457a.C.　　27°C　　31°C　　34°C

これまでのところ、預言は文字通り成就しています。これにより、時間に関する解釈が正しいという確信が得られます。したがって、私たちは2300の夕と朝が最終的に成就する時期を確信することができます。

午後と午前中は最大 2300 回...

70 週間、つまり預言の 490 年が経過した後、2300 年が終わるまでは 1810 年が残されています。

2300 – 490 = 1810 年。

Machine Translated by Google

70 週間は西暦 34 年に終了したため、2,300 回の午後と午前は次のように終了します。

34°C + 1810 = 1844d.C.

預言は、時の成就に何が起こるかを指摘しています。そうすれば聖所は清められるであろう」 （ダニエル書 8:14）：

の政令　　そして聖域

アルタクセルクセスは23:00夕方と朝まで…浄化されます

|---------- --------|

457a.C.　　1844 年

すでに述べたように、預言が成就した当時、この預言を学んだ人々は、聖域が地球であることを理解していました。したがって、彼らのために、イエスは指定された時間に彼女を火で清めるために彼女のところに戻ってくるべきです。彼らはこの地上で直接イエスにお会いできることを期待していました。何千年も前に弟子たちが尋ねた「あなたはどこに住んでいますか？」という質問に対して、彼らは「間もなく、1844年に、あなたはこの地上に住むことになります」と答えました。しかし、弟子たちと同じように、彼らも失望へと向かっていきました。彼の信仰は厳しく試されることになる。弟子たちは信仰によって十字架までイエスに従いませんでした。彼らの望みは、イエスがローマ人のくびきを打ち破り、この世の王としてイスラエルの王座に座されるのを見ることでした。同様に、キリストの到来、つまり降臨を待っていた信者たち（そのため「アドベンチスト」という名前が付けられています）は、真の聖所への信仰によってキリストに従いませんでした。

これまで見てきたことから、彼らは時間を数えたことは正しかった。 2300 回の午後と午前は 1844 年に実際に満たされました。しかし、彼らはマスターがどこにいるのか、真の聖域がどこにあるのかを理解していませんでした。

ヘブライ人への手紙では、イエスが「人ではなく主が設立された聖所、そして真の幕屋の奉仕者」であることが明らかにされています。 「キリストは手で造られた聖所には入られませんでした…ではなく、天そのものに入り、今、私たちのために神の御前に現われました。」（ヘブライ人への手紙 8:2; 9:24）イエスが奉仕する聖所は人間の手によって作られたものではないので、この地上のものではありません。イエスは天国そのものに入りました。だから私たちはそこが聖域であることを理解しています。 「聖所は清められる」という言葉は、この天の聖所が清められることを指します。 1844年以降、終わりの日の信者たちが尋ねた「どこに住んでいますか？」という質問は、イエスご自身からの言葉で答えられています。「大祭司キリストが来られ、 ...一度聖所に入りました」 （ヘブライ 9:11、12）。彼の働きは終わりの時まで続くものとして表現されています。ダニエル書は、イエスが二度目に地上に来て、それを子供たちに与えるために王国を受け取る場所であることを示しています。聖所は神の御座がある場所です(黙示録4:1、2)。

Machine Translated by Google

預言者は、イエスが「日の古人」と呼ばれる永遠の神の御座に行き、王国を受け入れる瞬間を幻視で見ました。天の雲は人の子のような者であり、日の老いた者のもとに来て、彼を彼の近くに連れて行った。そして彼には支配権と名誉と王国が与えられ、すべての民族、国家、言語が彼に仕えることになった. ;彼の支配は過ぎ去ることのない永遠の支配であり、彼の王国は滅ぼされない唯一のものです。」 （ダニエル 7:12、13）。

私たちは、イエスが王国を受け取った後、聖徒たちを探し出し、その相続財産を彼らと分かち合うために二度目に地上に来られることを知っています。したがって、イエスは御父の手から王国を受け取るまで聖所に留まり、今日そこに住んでいることがわかります。私たちが信仰と祈りによって主を観想し、主の個人的な臨在を喜ぶためには、そこに行かなければなりません。真の信仰は神の言葉を聞くことによって生まれます（ローマ 4:30）。
10:17）。救いの計画が進むにつれて、私たちは聖所について聖書に与えられている啓示と、そこでのイエスの働きを知らなければなりません。したがって、私たちは地上の他の誰よりも神との親密な交わりを持つことになります。なぜなら、私たちは信仰によって、かつて12人の弟子たちがそうであったように、神がいるところに神とともにいるからです。
キリスト教の世界では、神は天国、つまり地球と同じかそれ以上の場所にいると言っていますが、神の僕たちは神の住所を知っています。どこに住んでいますか？ 「聖域で」と彼らは聞く。次の本では、イエスが住んでいる場所と、そこで私たちのためにイエスが行っている働きについて学びます。私たちがすぐに天国でご一緒になれるよう、神が今日もどのように働いてくださっているかを私たちは見ることになるでしょう。私たちはマスターのすぐ近くを歩く特権に恵まれます。一緒に行こう？

第 3 章 - 第 2 の偉大な真実: の家
イエス•キリスト – 天の聖所

イエスは十字架で死んだ後、金曜日の午後から日曜日の朝までの3日間を墓の中で過ごしました。それから彼は再び起き上がり、天に昇り、戻ってきました。「40日間彼らに見られ、神の王国について話しました...」そして、「彼らが彼を見ると、彼は高いところに持ち上げられ、そして...」雲は彼を受け入れ、彼らの目から彼を隠しました。そして、イエスが昇られると彼らが天を見上げていると、見よ、白い服を着た二人の男が彼らのそばに立って、彼らに言った、「ガリラヤの人たちよ、なぜあなたたちは天を見上げて立っているのですか？」あなたから天に上げられたこのイエスは、あなたが天国に入るのを見たのと同じように来られます。」使徒 1:1-4、9-11。

イエスは天に到着し、「それゆえ、神の右に高められる…主はこう言われた。…私の右に座れ」使徒 2:32-34。 「わたしは克服し、父とともに御座に座りました」（黙示録3:21）。パウロは次のように明確にしています。

Machine Translated by Google

人間ではなく主が建てられた聖所と真の幕屋の大臣、陛下。」 （ヘブライ 8:1、2）。イエスは天の御父とともに座し、「聖所の奉仕者」になりました。それは人間によって造られたものではなく、「真の幕屋」と呼ばれるものであり、「人間ではなく主が設立された」ものです。
イエスは「天の聖所で父の右に」おられます。イエスが地上に来られる何世紀も前に、主はモーセにイスラエルの聖所を建てるよう命じられました。これは天にあるオリジナルのコピーであり、それが模範としてイエスに示されました。「モーセは神から警告を受け、幕屋は完成しようとしていた。 「ほら、山で示されたパターンに従ってすべてをしなさい。」と言われたからです。 （ヘブル 8:5）。地上の聖所は一種のモデルであり、天上の真の聖所のより小さなモデルであり、救いの計画を人に教えるために人間の手によって作られた神のコピーでした。キリストは天に昇られた後、「手で作られたものではなく、つまりこの世の創造物ではない、最も偉大で最も完全な幕屋」（ヘブライ人への手紙9:11)に入りました。したがって、地上の聖所を学ぶことによって、私たちは天の聖所を知ることができます。

聖書は地上の聖所について次のように描写しています。第二の幕屋の後ろには至聖所と呼ばれる幕屋があり、そこには香のための金の祭壇と、完全に金で覆われた契約の箱があり、その中にはマナが入った金の壷があり、アロンの杖が栄えていました。契約の表。そしてその上には栄光のケルビムがその影とともに慈悲の座を覆いました。

ただし、これらのことについては、今は詳しく話しません。」ヘブライ人への手紙 9:1-5。

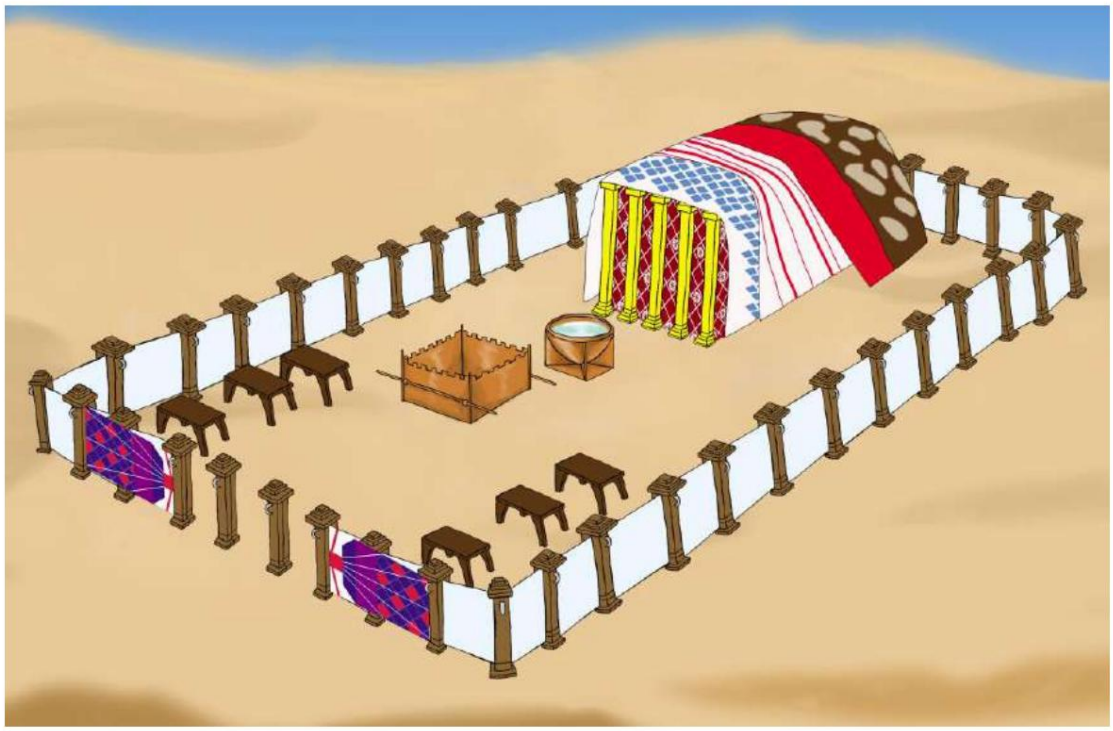

図: 聖域を背景にしたモーセの幕屋

Machine Translated by Google

聖域の最初の区画には次のものがありました。

-燭台（2節） - 7つに枝分かれした燭台で、両端には油で動くランプが付いていました。

-テーブルと、その上に置かれたショーブレッド（2節）。

- 出エジプト記には、香の祭壇もあったと書かれています。「そして、あなたは香をたくための祭壇を作ります...そして、それをあかしの箱の前にある幕の前に置きます。」(出エジプト記30:1、6) 。

ここは地上の聖域の「聖なる」区画でした。 2番目のものは「至聖なる聖所」、または最も神聖なものと呼ばれていました。最初のコンパートメントと 2 番目のコンパートメントを区切るには、「第 2 のベール」と呼ばれるカーテンがありました。 「第二の幕の向こうには至聖所と呼ばれる幕屋があった」（ヘブル9:3）。下の図は、聖なる場所とその家具の配置を示しています。

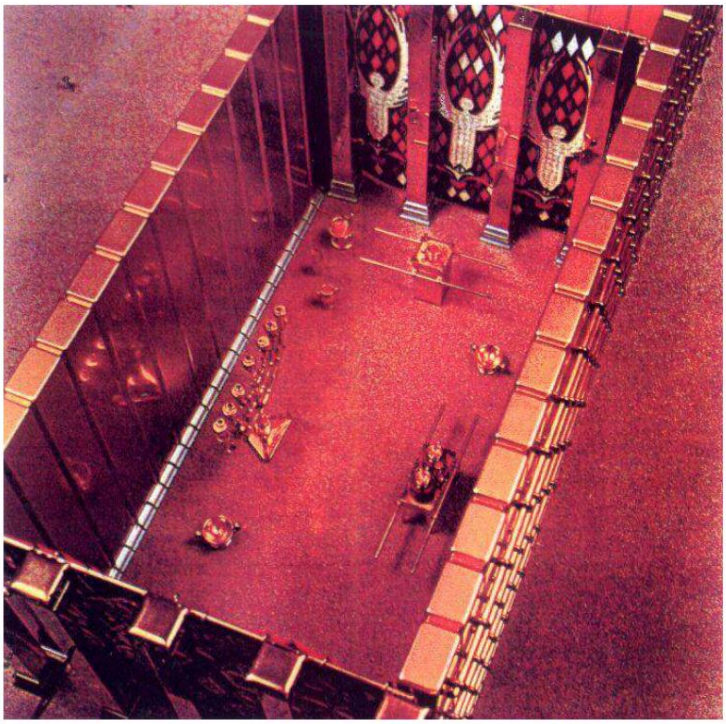

図 1 – 聖域の「聖なる」場所のレプリカの写真。背景には、神聖な場所と最も神聖な場所を隔てるカーテンが見えます。目の前には香壇。右側にはショーブレッドが置かれたテーブル。そして左側には7つのランプが付いたシャンデリア。

注: 聖域家具の重要性のより詳細な説明は、本書の付録 1 に記載されています。

2番目のベールの後ろには最も神聖な区画があり、そこには「金の香炉と、周囲を金で覆われた契約の箱があり、その中には

Machine Translated by Google

そこにはマナが入った金の器、芽が出たアロンの杖、そして契約の台がありました。そして箱の上には栄光のケルビムがあり、慈悲の座を覆い隠していた」ヘブル 9:4,5。

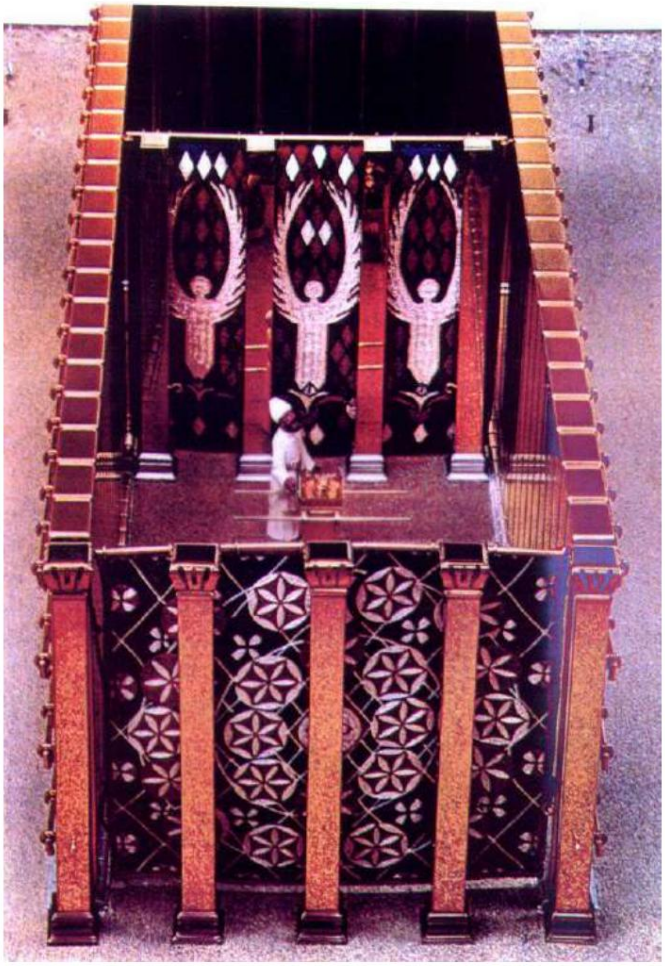

図 2 – 「聖なる」場所と「最も聖なる」場所を分ける 2 番目のベールの前、香壇の隣の司祭。

キリストは、地上の聖所よりも「大きく」、「より完全な」真の聖所で奉仕するために天に行かれました。それは「手で作ったもの、つまりこの世のものではない」からです。イエスは「人ではなく主が建てられた真の幕屋」です（ヘブライ人への手紙9:11、8:2）。そこではイエスが父の右に座しておられました。イスラエルの典型的な聖所には「贈り物をささげる祭司」がおり、「彼らは天的なものの模範および影としての役割を果たしています」（ヘブライ 8:4、5）。地上におけるヘブライ人の祭司の奉仕は、天におけるキリストの奉仕を表していました。そして彼らは、モーセの律法で命じられているように、罪人たちに好意的に仕えました。したがって有罪になります。あるいは、自分が犯した罪が知られるなら、その人は、自分が犯した罪のために、無傷の雌ヤギを捧げ物として持って来なければならない。...しかし、もし自分の捧げ物として、

Machine Translated by Google

罪のためのいけにえとして子羊を、傷のないものとして持ってくるであろう。そして彼は罪のためのいけにえの頭に手を置き、燔祭が屠られる場所で罪のためのいけにえとしてその首を刎ねる。それから祭司は罪のためのいけにえの血の一部を指で取り、全焼のいけにえの祭壇の角の上に置きます。そうすれば、彼の血のすべてが祭壇の底にこぼれるでしょう。そして、人が和解のいけにえの小羊の脂肪を取り除くように、彼はその脂肪をすべて取り除きます。祭司はそれを祭壇の上、主への火によるささげ物の上で燃やしなければならない。それで祭司は彼女を通して彼女の罪を償い、彼女の罪は赦されるでしょう。」（レビ記4:27、28、33-35）。

罪人は自分の罪の代価として動物を捧げなければなりません。彼は「捧げ物の頭に手を置き」(33節)、自分の罪を告白し、それを彼女に移しました。それから彼は「彼女の喉を切り裂いた」。罪を抱えて死んだ小羊は、カルバリの十字架という真の祭壇で殺されて、私たちの罪を自ら負うキリストを表しています。毛刈り者たちよ、彼は口を開かなかった…彼の魂が罪の償いをされるとき…私のしもべである義人は多くの人を義とするだろう、なぜなら彼は彼らの咎を負うからである。」（イザヤ 53:6、7、10、11）。犠牲にされた動物は「傷のないもの」（28節）でなければなりません。なぜなら、それは罪を犯さなかったキリストを表すからです。「神は、罪を知らなかった方を、私たちのために罪とされたのです」（IIコリント5:21）。罪人は自分の罪によって神の子の死の罪を犯したことを認識して、犠牲者の「喉を切り」ました。私たちの罪がイエスを殺したのは、手足に釘が打たれたためではなく、苦しみ、罪の重さのためでした。詩編作者は、十字架上のキリストの思いを次のように予告しました。「わたしは水のように注ぎ出した……わたしの心は蝋のようで、わたしの中で溶けてしまった。」（詩 22:14）。したがって、私たちもユダヤ人たちと同じように神の殺害の罪を犯しています。

Machine Translated by Google

図3 – 動物が犠牲にされた外の中庭（聖書では「アトリウム」と呼ばれる）にある犠牲の祭壇を含む地上の幕屋の外観。聖なる区画と至聖なる区画を備えた「会衆の天幕」が背景に見えます。

この象徴的な儀式の目的は、私たちの代わりに死ぬことによって私たちに対するイエスの愛と、独り子の命を犠牲にして私たちの罪を償ってくださった神の愛に、崇拝者の信仰を向けることでした。私たちは神を愛していましたが、それは神が私たちを愛し、私たちの罪のなだめの供え物として御子を送ってくださったことです。」「そして私たちは神の愛を知っており、それを信じています。」（ヨハネ第一 4:10、16）。罪人を赦すこの愛を信仰によって観想することは、崇拝者の人生を変え、人生と調和して生きるよう導くという目的を持っていました。これにより、魂から利己主義が追放され、人間がキリストのように生きるよう動機づけられます。そして彼はすべての人のために死んだ、それは生きている人々がもはや自分のために生きるのではなく、彼らのために死んで復活した彼のために生きるためである。

キリストは新しい生き物です。古いものは過ぎ去りました。見よ、すべてが再び行われた。」
「愛する人たち、神が私たちをこれほど愛してくださったのなら、私たちも互いに愛し合うべきです」（Iヨハネ4:11、IIコリント5:14、15、17）。この新しい経験において、キリストへの信仰を通して神の愛の中に留まることで、礼拝者の生活は神の律法と調和することになります。そして神の戒めは重荷ではありません。」（ヨハネ第一 4:3）。罪人は、キリストが生きたようにこの地上で生きる新しい人生を始めます。そして、彼が留まることを選択する限り、彼は神の律法について知っているすべてのことと完全に調和するでしょう。十戒の文字を満たすことは神の愛の中を歩むことです。そして、何よりも神を愛し、自分自身のように隣人を愛する人は、すべての法の基礎である原則に従っています。パウロは次のように書いています。もし他に戒めがあるとすれば、それはすべてこの言葉に集約されます。「隣人を自分のように愛さなければならない」（ローマ13:9）。

さて、ヘブライ語の聖域に戻ります。レビ記で確立された儀式に従って、罪人がキリストとの真の経験を楽しむことが神の目的でした。
戒めに従うこと。したがって、儀式は福音を図で説教することでした。今日私たちが新約聖書と旧約聖書を読むことによって十字架の犠牲と救いの計画について学んだことは、イスラエル人の崇拝者の象徴として例示されました。

レビ記に定められた一連の罪の赦しの儀式は、私たちに代わってイエスが行った働きが十字架で終わったわけではないことをイスラエル人に、そして今日の私たちに理解させました。彼らは主の戒めに反して、してはならないことをする。子牛は主の前で屠られる。それから油そそがれた祭司は雄牛の血の一部を会見の天幕に持ち込むでしょう。そして祭司はその血に指を浸し、それを主の前、幕の前に七回振りかける。」レビ記 4:13、15-17。司祭は犠牲者の血を取り、聖所と至聖所を分ける聖域の第二の幕にそれを振りかけた。このようにして、犠牲者に対して罪人によって告白された罪は聖域に移されました。次の図は、

Machine Translated by Google

司祭は聖所内、血が振りかけられた第二の幕の近くに位置しました。

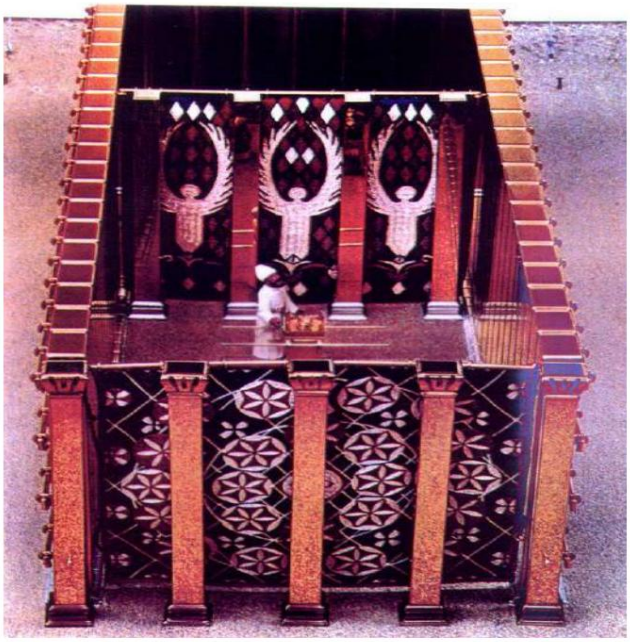

図 4 – 香壇の隣、2 番目のベールの前に位置する司祭

儀式であらかじめ定められたことを成就し、イエスは天の聖所で罪人を助ける司祭としての働きを開始し、とりなし手としての役割を果たし始めました。当時のパウロは、 「神と人間との間には仲介者、すなわち人間イエス•キリストがおられる」 (Iテモテ2:5)と書いています。 「というのは、すべての大祭司は人間の中から選ばれ、神に関する事柄において人間のために任命されている。それは、罪のために贈り物やいけにえをささげ、無知な者や誤った者たちに優しい同情心を抱くためである。なぜなら彼自身が弱さに囲まれているからである。 ……キリストもまた……神によって大祭司に召されたのである」 （ヘブライ人への手紙 5:1、2、5、10）。

罪を第二のベールに運ぶ働きは、聖域の「聖なる」区画で行われました。司祭はカーテンに近づき、その血をカーテンに振りかけました。これは天国でも同様です。キリストは復活した後、天の聖所の「聖」な区画で奉仕を始めました。ヨハネは、「聖なる」場所にある地上の聖所の燭台に代表される、七つの金の燭台の隣に彼を見た。そして振り返ると、 7つの金の燭台が見えました。そして、7つの燭台の真ん中に、人の子のような燭台があります」アポック。1:10.12.13。

Machine Translated by Google

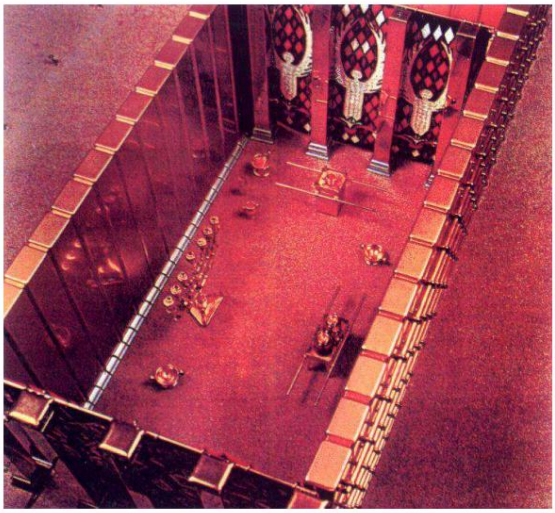

図 5 – 燭台 (燭台) は聖域の神聖な場所にありました (図の左側)

司祭が告白した罪の血を聖所に取り込み、第二の幕にそれを振りかけたのと同じように、イエスは天の聖所に入ると、悔い改めた罪人たちのために、神に犠牲の功績を捧げ始めました。罪は司祭の働きによって聖所の「聖なる」区画に移されました。現実の救いの計画でも同じことが起こるでしょう。許しは、天の聖所で人間が告白した罪と並んで記録されることになる。聖書は、人間はそれぞれ、良いことも悪いことも自分の行いが記録された本を持っていることを明らかにしています。「裁きが下され、本は開かれた」

(ダニエル 7:10)。 「そして死者たちは、聖書に書かれていることによって裁かれた」
彼らの作品によれば、本を出版します。」 （黙示録20:12）。 「見よ、これはわたしの前に書き記されている……あなたの咎とあなたの先祖たちの咎が一緒に記されている、と主は言われる」
（イザヤ 65:5、6）。 「主は見守り、聞いておられる。そして、主を畏れる者と主の御名を覚えている者のために、彼の前に記念碑が書かれている」（マタイ3:16）。許しはこれらの本に記録されています。しかし、罪はすぐに消えるわけではありません。地上の聖所では、司祭が「贖い」と呼ばれる業を行った後にのみ、最終的な罪の赦しが得られました。

「そして祭司は罪のためのいけにえの血を指で取り、祭壇の角の上に置きます...そうすれば祭司は彼の罪について彼のために贖いをしなければなりません、そしてそれは彼を赦されます。 」レビ記 4:25、26)。
(キング•ジェームス版 -
英語）。

これもキリストの働きを象徴するものでした。イエスが贖いの働きを行うとき、罪の最終的な赦しが得られます。それまでは、全員の罪が記録に残ります。そして、神はいつこの重要な働きを行うのでしょうか ?どこ ?どのように実施されますか?
このシリーズの次の本で説明します。

Machine Translated by Google

第 4 巻 - 3 番目の偉大な真実: イエスは今、私に代わって何をしてくれていますか?

償い

「それから主はモーセに言われた、『あなたの兄弟アロンに、いつでも聖所、幕の中、箱舟の上にある慈悲の座の前に入らないように言いなさい。……これをもってアロンは聖所に入る。贖いのための雄牛を持って』 ...そして、油そそがれ、父親に代わって神権を執行するために聖別された祭司がその贖罪を行うものとする。 ...そしてこれは、あなたがたにとって、イスラエルの子らのために贖罪を行うための永遠の規定となるであろう。年に一度、彼らのすべての罪を償うのです」 （レビ記 16:2、3、32、34）。

大祭司は、贖罪の日にのみ、幕の内側にある至聖所に入るべきです。この用語は罪と関係しています。なぜなら、私たちが読んでいるように、大祭司は自分のすべての罪を償わなければならなかったからです。同じ章には、この働きがどのような内容であったかについての記述が見られます。「そこで彼は、イスラエルの子らの汚れと彼らのすべての罪に応じて、聖所の罪を償うであろう…そして彼は清めるであろう」それはイスラエルの子らの汚れによるものである」（レビ記16:16、19）。
一年中毎日、罪人は罪のために犠牲を捧げ、犠牲者の血を通して象徴的に聖域に移されました。彼は受けた罪で汚れていました。そして、 「年に一度」 （34節）、罪の償い、つまり聖所の「清め」が行われました。名前が示すように、この日、聖所は罪から清められました。

この儀式は、その日に自分の魂を苦しめず、贖いの業の恩恵を受ける準備をしていた者は人々から排除されるだろうと教えた。あなたの神よ。その日に悲しまない魂は皆、その民から切り離されるからである」（レビ23:28、29）。これは、罪を消す機会の時間がこの日で終わったことを示しています。二度目のチャンスはなかった。贖罪は、罪人に代わって大祭司が行った最後の仕事でした。

ヘブライの宗教年は、救いの計画におけるキリストの働きを表していました。地上の神殿が年に一度清められたのと同じように、天の聖所も贖いの計画中に一度だけ清められます。そして、地上で行われた例に倣い、イエスはこの働きを開始するために、天の聖所の「聖なる」区画を離れ、「最も聖なる」区画へ向かいました。これはキリストが人間のために成し遂げられた最後のことである。恵みと許しの扉が人類に対して永遠に閉ざされるのは、償いの時である。洪水の前に、ノアの箱舟の扉は閉じられ、内側の人々と外側の人々の運命が封印されました。このような

Machine Translated by Google

それはまた、償いの中にあるだろう。神が知っている時代には、長い間軽蔑されてきた慈悲は、もはや罪深い人々に懇願することはないであろう。
人間に与えられた猶予の期間は終わり、報復的な裁きの期間が始まります。その後、黙示録の最後の七つの災いが解き放たれますが、これは人類が経験したことのないほど恐ろしい災難です。

イエスがいつ贖いの働きを始めるのかを知ることは、私たちにとって非常に興味深いことです。そうすれば、イエスがいつ至聖所に入られるのかが分かるからです。また、救いの計画の最終段階がすでに始まっているかどうか、そして恵みの時の終わりが近づいているかどうかもわかります。第 2 巻で学んだ預言には、「二千三百の夕と朝が来るまで、そして聖所は清められるであろう」（ダニエル書 8:14)とありました。これまで見てきたように、それは 1844 年 10 月 22 日に成就しました。イエスが聖所の浄化、つまり贖いの働きを始めたのはこの日でした。それが最も聖なる場所で行われるように、私たちはイエスがこの日にそこに入られたことを知っています。

神の民の浄化

典型的な儀式では、イスラエル人は贖いの日にすべての罪から清められました。そうすれば、あなたは主の前ですべての罪から清められるでしょう。」（レビ記 16:30）。その年に告白した罪はその日まで聖所に保管されました。それから、大祭司は決意どおり、「聖所と会見の天幕と祭壇を償い終え」て、ヤギに罪を負わせました。そしてアロンは生きているヤギの頭に両手を置き、その上でイスラエルの子らのすべての咎と、彼らのすべての罪に応じたすべての罪を告白しなければならない。そしてそれをヤギの頭に乗せ、その目的のために任命された人の手によって荒野に送り込む。そうすれば、ヤギは孤独な土地ですべての咎を負うことになります。そうすれば男はヤギを荒野に送り込むだろう。」

（レビ記 16:20-22）。罪は聖所から取り出され、ヤギの上に置かれました。
こうして聖所は清くなり、イスラエル人の崇拝者たちは自分たちの罪が消え去ったと確信しました。このサービスは「現代の寓意」でした。
しかし、来るべき善いことの大祭司であるキリストが、手で造られたものではなく、つまりこの被造物でもなく、ヤギや子牛の血でもなく、ご自身の血によって造られた、より大きく、より完全な幕屋によって来られたとき、彼は一度聖所に入った」（ヘブル9:9、11、12）。彼は真のイスラエル人全員の罪を償うでしょう。そして、ここで混乱しないようにしましょう。聖書は、キリストの霊によって導かれることを許可し、キリストの影響に服従する人々が今日イスラエル人およびユダヤ人とみなされると教えています。
「イスラエル出身者全員がイスラエル人というわけではありません。また、彼らはアブラハムの子孫であるため、全員が子供であるわけではありません。」「というのは、彼は外見上ユダヤ人ではないし、また、外見上はユダヤ人で割礼を受けているわけでもないからである。しかし、彼は内なるユダヤ人であり、割礼は文字ではなく心、霊におけるものであり、その賛美は人からではなく神から来るのです。」（ロマ 9:6、7; 2:28、29）。贖いの日の恩恵を受けるのは、霊に導かれた彼らです。彼らは教会に入ったことがないかもしれません。しかし、彼らが良心の声、つまりキリストの声を霊によって聞いて従ったなら、彼らはキリストの者として数えられます。それはパウロがローマ人への手紙で次のように言っているとおりです。

Machine Translated by Google

わたしの福音によれば、神がイエス•キリストによって人を裁かれる日には、その人の心に書かれた律法、その良心と思いが、人を告発するか擁護するかを証しするのである」（ローマ2 :14-16）。

典型的な儀式では、償いの儀式の日はイスラエル人とイスラエルの民に加わった外国人のみのために執り行われました。これは、偉大な救いの計画において、かつて神の霊の導きに服従した者だけが、大いなる贖罪の日に自分たちの訴訟を検討されることを意味します。邪悪な者の場合については、別の機会に別途検討します。キリストの再臨後（黙示録 20:11-15 参照）。

工事代金比例支払い

典型的な儀式に戻ると、罪を負わされたヤギは犠牲にされませんでした。すると人はやぎを荒野に送り込むであろう」（レビ記16:22）。したがって、彼は私たちのために死んだのではなく、私たちの罪の罰を負ってくれる誰かを代表しなければなりません。黙示録はその謎を解き明かします。ヨハネは、サタンの象徴である赤いを見た(黙示録12:9)と報告しています。「そして、別のしるしが天に見られました。見よ、それは大きな赤いでした」 (黙示録12:3)。聖書では、赤は罪の象徴です。「たとえあなたの罪が……深紅のように赤いとしても」（イザヤ書 1:18）。したがって、赤い竜は罪を負ったサタンを表します。したがって、彼はスケープゴートです。イエスは大祭司としての働きの中で、最終的にご自分に対する聖徒たちの罪を告白します。彼は人々を欺き、神の性質を偽り、十戒に違反するように人々を導きました。

しかし、彼らは救いのために御子を犠牲として示された神の愛を見て、神の真の性格を知り、神の律法に対する反逆を悔い改めました。彼らは自分の罪を告白し、従順に歩みました。そして、もし彼らが神の真のご性質を事前に知っていたら、決して罪を犯さなかったであろうことが証明されます。したがって、あなたの罪の真の犯人はサタンです。

罪が天の聖域から取り除かれると、それらは正当にサタンに課せられ、サタンはその罪に応じて火の湖の罰を支払わなければなりません。
これは、私たちがサタンの死によって救われるという意味ではありません。 「罪の対価は死」であるため、イエスは私たちの身代わりとなり、私たちの代わりに死んでくださいました（ローマ 4:13）。
6:23）。しかし、神の正義は、各人が「その行いに応じて」報われることを要求します(黙示録22:12)。したがって、ネロは、神が提供した救いを受け入れなかったにもかかわらず、それほど多くの人を殺害しなかった普通の人よりも厳しい罰を受けなければなりません。同様に、改宗する前にキリスト教徒を迫害し、殺害し、冒涜を強要したサウルの罪は、キリストを逮捕した暴徒の一員、マルクスの耳を切り落としたペテロの罪よりも重大であった。

二人とも罪を犯しましたが、一方はキリストを擁護することによって罪を犯しましたが、もう一方はキリストを迫害し滅ぼそうとすることによって罪を犯しました。結局、二人とも神の恵みを受け入れて救われたことが分かりました。しかし、それでも、仕事に見合った報酬が支払われなければなりません。一方では、両方とも死ななければならない場合、他方では、サウルはペテロよりも長く火の中で焼かれるでしょう - 彼の働きに比例して。この比例ペナルティは、誰であっても

Machine Translated by Google

サタンと対峙することになる。救いのための犠牲はキリストの死でした。聖徒たちの邪悪な行いの厳しさに比例した代償がサタンによって支払われることになる。

上記は、邪悪な行いは非難の火の燃料であるという聖書の啓示に基づいています。確かに、それは火によって発見されるので、その日がそれを宣言するでしょう。そして火はそれぞれの仕事が何であるかを証明するだろう...誰かの仕事が燃やされれば、その人は不利益を被るだろう。」邪悪な者の罪は、彼らを火の中で燃やし続ける燃料となるでしょう。燃料がなくなると死んで灰になってしまいます。したがって、悪魔はより長く燃え続けるでしょう。しかし、最終的にはすべてが「灰」になります（ Iコリント 3:12、13、マラヤ 4:1-3）。

永遠の火？

聖書は、悪魔が今日すでに地獄と呼ばれる炎に満ちた場所にいるとは述べていません。それは将来、彼が罰を受ける時を示しています。「守りのケルブよ、私はあなたを火の石の中で滅ぼします」（エゼキエル28:16）。そうすれば彼は火傷を負うだろう。神はサタンが滅ぼされるこの日について、18節でこう述べています。それでわたしはあなたがたの中から火を出してあなたを焼き尽くし、あなたを見たすべての人の目の前であなたを地の灰に変えた。」

28:18）。悪魔自身が将来のみ焼かれることを考えると、今日地獄で焼かれる人はいないことがわかります。火の湖の刑は最終判決後に執行される。イエスはこう言われました。「そして、人の子が栄光のうちに来て、すべての天使たちも彼と一緒に来るとき、彼は栄光の王座に座るでしょう。そしてすべての国民が神の前に集められ、神は羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らを一つ一つ分けられるであろう。そして彼は羊を右手に置き、ヤギを左手に置きます...それから彼は左手にいる者たちにも言います：呪われた者よ、私から離れて、悪魔とその天使のために用意された永遠の火の中へ。」（マタイ 25:31-33、41）。ヨハネは、将来同じ光景を思いながら、こう言いました。「そして、私は大きな白い玉座と、そこに座っておられる方を見た。その御前から地も天も逃げ去り、彼らの居場所はどこにも見つからなかった。そして、私は死人が大なり小なり玉座の前に立っているのを見た、そして本が開かれた。そしてもう一つの本が開かれました、それは人生の本です。そして死者たちは、その書物に書かれていること、その行いに応じて裁かれた。そして海はその中にいた死者を放棄した。そして死と地獄はその中にいた死者を放棄した。そして彼らはそれぞれその行いに応じて裁かれ、命の書に記されていない者は火の湖に投げ込まれた」（黙示録20:11-15）。「そして、死と地獄が火の湖に投げ込まれました。

これは第二の死、火の湖である。」（黙示録 20:14 - 改訂および更新されたアメリカ訳）。注：火の湖は第二の死に相当します。したがって、そこに投げ込まれた人は死ぬでしょう。そのとき、邪悪な者たちは「まるで最初から存在しなかったかのようになる」
(両方。1:16)。

典型的な儀式で行われたように、司祭がヤギの上で罪を告白する償いの場面に戻り、大祭司であるキリストは聖域を出ます。

Machine Translated by Google

あなたの罪を神と共に負い、それをサタンに告白するでしょう。そうすれば、聖徒たちの罪は天の聖所の記録から永久に消去されるでしょう。しかし主は、Iコリント3章16節で、私たちは「神の聖所」であると言われます。そして、罪が聖域から消去されると、私たちの記憶からも消去されます。私たちはもはや罪を覚えていません。また、神は彼らを私たちの記憶にもたらすこともありません。「そして、私が彼らの罪を取り除くとき、これが彼らとの私の契約になる」と神は約束されたからです。

「これが、その日の後にわたしがイスラエルの家と結ぶ契約である、と主は言われる。わたしはわたしの律法を彼らの理解に入れ、彼らの心に書き記す。そして私は彼らの神となり、彼らは私の民となるでしょう...私は彼らの咎と罪と罪を憐れみます、私はもう思い出しません。」

（ロマ 11:27; ヘブライ 8:10、12）。罪の完全な赦しが与えられるでしょう。

決定的な許し

多くの人は、最終的な罪の赦しはカルバリの十字架で与えられたと教えています。
こうして彼らは、イエスを救い主として受け入れた後、どんなに邪悪な行いをしたとしても、天国が彼らの家であると群衆に信じ込ませます。この欺瞞の結果として、教会内では不法行為と偽善が生地の中の酵母菌のように働き、説教壇での神の律法の高揚によって罪が叱責されることがなくなり、教会の道徳的状態はますます悪化します。しかし聖書は,最終的な許しは贖いの業の終わりにのみ与えられると教えています。「祭司がその人の罪を償うでしょう。そうすればそれは許されるでしょう」。（レビ記 4:26）。キリストから直接真理を学んだキリストご自身の使徒たちは、究極の許しは将来、償いの日に得られるものであると教えました。パウロは信仰による義について説明し、「神がご自分の血による信仰を通してなだめの物として定められたキリスト•イエスにある贖いを通して、神の恵みによって無償で義とされるのです」(ローマ3:24、25)と書いています。パウロはここで聖所の儀式について言及しました。これには、「祭司が彼らのために贖いをし、彼らの罪は赦されるであろう」と規定されています。（レビ記 4:20）。そうすれば罪は記録簿から消去され、赦しは最終的なものとなるでしょう。詩篇作者はこう言いました。あなたの多くの慈悲に従って、私の罪を消し去ってください。」（詩 51:1）。罪は十字架によってではなく、キリストの司祭の務めによって行われるなだめの働きによって決定的に消去されます。償いの日には、なだめが行われました。この名前は、ヘブライ人の聖所で、契約の箱の上、覆いをしている天使の翼の下にある自由な空間である慈悲の座で行われるためです。実際には、それは神の玉座を表しています。聖書はこう教えています。「あなたの兄弟アロンに、いつでも聖所、幕の中、箱舟の上にある憐れみの座の前に入らないように言いなさい。」（レビ記16:2）。

Machine Translated by Google

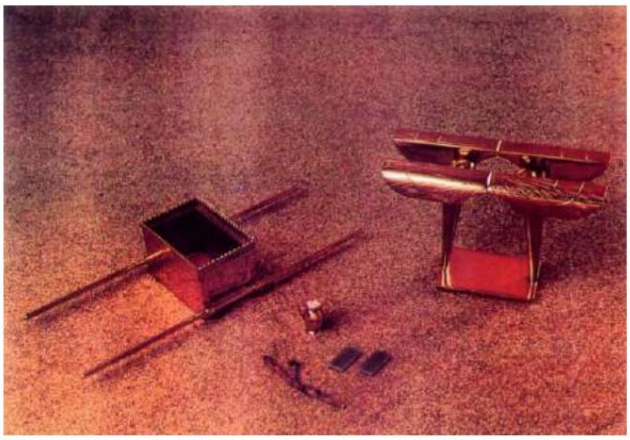

図 1 – 契約の箱とその内容物。慈悲の座は、箱舟の蓋とそれを覆う天使の翼の間の空間であり、神の栄光であるシェキーナが現された場所です。 – 所有財産がどこにあるかを示す指示を出します。

宥めは、人間の罪が決定的に消去されるように、人間の罪の許しを求める執り成しの仕事です。イスラエルの人々が金の子牛を崇拝するモーセの行為に驚いたとき、モーセは彼らにこう言いました。しかし今、私は主のもとに上ります。おそらく私はあなたの罪を償うでしょう。それでモーセは主に立ち返って言った、「さて、この民は自分たちのために金の神々を作ったという大きな罪を犯した。」したがって、今は彼らの罪を赦してください。そうでないなら、あなたが書いた本から私を消してください。」 （出32:30-32）。

私たちの大祭司であるイエスは、最も聖なる場所に入った後、なだめをし、彼の民に最終的な許しを懇願するでしょう。パウロはこの働きについて次のように書いています。「神がご自分の血に対する信仰を通してなだめの品として定められたキリスト•イエスにある贖いを通して、神の恵みによって無償で義とされるのです」（ローマ 3:24、25）。
その時でさえ、彼は将来、信者たちに決定的な赦し、罪の消去が与えられるだろうと説いていました。使徒ヨハネもまた、なだめの業を通して将来の赦しを説きました。「ここに愛があるのは、私たちが神を愛したということではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のなだめの身として御子を遣わされたということです。」 （ヨハネ第一 4:10）。

パウロは、使徒の時代の信者は信じた瞬間に赦し（義認）の祝福を受けたが、最終的な赦しは数世紀後の贖罪で得られることになると説明しました。この真実を説明するために、彼はサラがイサクを妊娠するずっと前に「多くの国民の父」と呼ばれたアブラハムの例を引用し、次のように述べています。それは、私たち全員の父であるアブラハムの信仰です（「私はあなたを多くの国の父とした」と書かれています）、彼が信じた彼の前で...死者を生き返らせ、物事を呼び起こす神それはすでに存在しているかのようではありません。」 （ロマ 4:17）。未来を読む神にとって、アブラハムは約束以来すでに信じる者の父でした。同様に、人は約束への信仰を通して、実際に赦しを受け取るずっと前から、その祝福を深く考えることができます。イエスを受け入れて以来、彼は罪の意識から解放され、律法の前では無実であることに気づきました。贖いの働きが始まった1844年以前に信仰を持った人々は、この信仰を持って亡くなった。

Machine Translated by Google

最後の世代

イエスがなだめの儀式を完了しようとしている時に生きている人は、「生きているうちに」決定的な赦しの祝福を受けるでしょう。もしイエスが天で記録された彼らの罪を消し、彼らが地上で罪を犯し続けたとしたら、イエスは再び彼らのために執り成しをして罪を消すために彼らの事件に立ち返らなければならないでしょう。そしてそれは悪循環になります - 男は汚れます、そしてイエスはきれいになります。したがって、この世代の罪人が生きている限り、イエスは最も聖なる場所に留まり、彼らの罪を絶えず消し去らなければならないでしょう。
しかしイエスは、最も聖なる者たちを離れ、教会を探すために地上に来ると約束されました。 「わたしは再び来て、あなたをわたしのもとに連れて行きます」と彼は言いました（ヨハネ14:3）。そうすれば、罪を消し去る働きは終わらなければなりません。したがって、罪を犯さなくなるところまで到達する人々のグループが存在するはずです。預言者ヨハネは幻の中でこの集団を見た、「そして、見ますと、小羊がシオンの山に立っているのが見えました。そして、小羊と一緒に十四万四千人がいて、その額には小羊の名とその父の名が書かれていました。これらの者たちは、小羊の行くところどこにでも従う者たちである…彼らの口には偽りは見られなかった。彼らには罪がないからである」 （黙示録 14:1、4）。彼らは父の名前を持っています。これは、子供たちが生まれたときに地上の両親の性格特性を持っているのと同じように、彼らも天の父の性格を持っていることを意味します。彼らは小羊の行くところどこへでもついて行きます –

彼らは信仰によって、自分たちのために屠られた小羊に従い、至聖所に入ったからです。そこで彼らは、イエスの血の功績によって、彼らに決定的な罪の赦しを与え、彼らを良心から清めるというイエスの働きを熟考しました。彼らはイエスと協力して贖いをし、信仰によって罪の情熱とその中に働く肉と戦い、完全に清められました。したがって、この中心者と4万4,000人は、イエスの再臨を目にする世代に属しており、彼らはそのために備えられているのです。罪がなければ、仲介者なしでも聖なる神の御前で生きることができます。

キリストが聖所を出て地上に来られるとき、罪人のためにとりなすために御父の前にいられないとき、彼らは罪のない状態でキリストを待ちます。彼らは生ける聖徒たちの純粋な教会となり、死を見ることなく天国に移される準備ができています。大きな雷鳴が鳴り響きました。「ハレルヤ！」今のところ、主、全能の神が統治しておられます。小羊の結婚が到来し、彼の妻が準備を整えたのですから、喜び、喜び、神に栄光を帰しましょう。そして彼女には、清潔で明るい上質の亜麻布を着ることが与えられました。亜麻布は聖徒たちの義だからである」（黙示録 19:6-8）。

償いの時に救われるのは14万4千人だけではありません。聖書は、多くの人が終末の時に救われて死ぬだろうと宣言しています。そうです、御霊は言われます、彼らがその労苦から休み、彼らの業が彼らに続くようにと。」（黙示録14:13）。しかし、救われた人々のうち、14万4,000人は父の体験をすることになります - 彼らは決して死ぬことはありません - したがって、彼らの額には父の名前が刻まれます。

神は私たちの記憶から罪を消してくださるでしょう

Machine Translated by Google

贖いの働きによって、人々は罪から清められました。救いの計画においても同様です。イエスはなだめを行います。とりなし者として、イエスはご自分の血の功績を通して、信者に対する決定的な許しを神に求めます。神はそれを許し、信者の罪は天国の聖域と彼らの良心の両方から消し去られます。ヘブライ人への手紙は、これが祭司の血を振りかける行為によって例示された霊的真理であると説明しています。肉体の清め、ましてや永遠の御霊によって傷のないご自身を神にささげたキリストの血は、生ける神に仕えるために死んだ行いからあなたの良心を清めてくれるでしょうか？」（ヘブライ 9:13、14）。「というのは、法律は将来の良いことの影であり、物事の正確な像ではないので、毎年同じ犠牲を捧げ続けても、法に来る人たちを完全にすることは決してできないからです。そうでなければ、彼らは自分自身をささげるのをやめていたでしょう。なぜなら、ささげた人たちを一度清めてしまうと、彼らは二度と罪を意識しないからです。」（ヘブライ人への手紙10:1、2）。

罪を消すことと聖所を浄化することは一つの働きです。そしてそれには神の側の許しの宣言だけでなく、人間の心と良心から罪を取り除くことも含まれます。これは、私たちのために天国でなだめが行われると、私たちはもはや自分が犯した罪を思い出すことができないことを意味します。実際、聖書は神ご自身が彼らを忘れると宣言しています。そしてわたしは決して彼らの罪と咎を思い出すことはないだろう」（ヘブライ人への手紙10:16、17）。

もう一度やりたいという欲求はない

「もし誰かがキリストのうちにあるなら、その人は新しく創造された者です。古いものは過ぎ去ったのです。見よ、すべてが新しくなった…神は…イエス•キリストを通して私たちをご自身と和解させてくださった。」（IIコリント5:17、18）。人間を無罪にするためには、イエスは彼らが赦されたのと同じ罪を再び犯さないようにしなければなりません。したがって、神の許しは、過ちを犯した人の正当性を法的に宣言することに限定されるものではなく、その人が罪を犯すのをやめるようにその人に権力を与えることも含まれます。だからこそパウロは、福音は「信じる者すべてを救いに導く神の力」であると宣言しています(ローマ1:16)。ヨハネも同様に、「イエスを受け入れたすべての人、すなわち信じる者には、神の子となる力をお与えになった。」（ヨハネ1:12)と述べています。なぜなら、彼の種は彼の中に残っているからです。そして彼は神から生まれたので、罪を犯すことはできません。この中に神の子たちが現れるのです」（ Iヨハネ3:8、9）。たとえ罪や誘惑が水の上を歩くのと同じように克服するのが難しいとしても、ペテロがイエスを見ながら海の上を歩いたように、信仰によって人は簡単にそれを克服することができます。信仰の視線をイエスに向け続ける限り、人は罪を犯しません。それは、彼の種である聖霊が彼の内に留まっているからです。

そして、キリストには天と地におけるすべての権威が与えられているので（マタイ 28:18）、神ご自身の無限の力を自由に使えるのです。そして彼はそれを罪深い人間に伝え、彼が勝つことができるようにします。人間がこの力を一度受け取れば、無限の神がサタンや人間自身に打ち勝つのと同じくらい、罪を犯さないことは簡単です。神はそれらを克服することができます

Machine Translated by Google

湖に小石を投げ込むのと同じくらい簡単です。同じように、イエスに頼る人々の人生において罪は簡単に克服されます。

これは、人間が再び堕落する可能性はないということを意味するのでしょうか？それは、人間がイエスの信仰から目を背けることを選択できるからです。ペドロはそうして沈み始めた。このままでは溺れてしまうだろう。しかし、沈み込みながら、彼は再び救い主を見つめ、救いを求めました。彼の嘆願はすぐに聞き入れられた。そこでイエスは彼に、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのですか」と言われました。（マット。14:31）。霊的生活でも同じことが起こります。イエスの信仰から目をそらすことを選択し、救い主、救い主の功績、戒め、主の神性、人類家族への愛以外のことに心を奪われ、人は沈み始めます。そして気づいたとき、彼はイエスに助けを求めます。このとき、ペテロに宛てられた次の言葉はペテロにも当てはまります。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。彼らは、信仰が救い主を見つめ、聖書を読んで救い主を熟考する結果であることを示しています。イエスは信仰の創始者です（ヘブライ 12:2）。神を見ている間だけ、人はこの信仰を抱くことができます。神から目を離し、神なしでいようとする人は、まったく信仰を持っていません。「わたしなしではあなたは何もできない」とイエスは言いました(ヨハネ15:5)。ペテロはイエスから目を離し、彼の信仰は揺らぎました。そして、同じことをする人たちも疑うでしょう。一方、主に目を向ける者は混乱することはありません。「私の羊は私の声を聞きます。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従っている…誰も彼らをわたしの手から奪うことはできない」（ヨハネ10:27、28）。信仰によってイエスをしっかりと見つめる者を、たった一つの罪を犯すように導くことは、地上の力のすべてが団結したわけではありませんが、誰にもできません。

贖いの働きにおいて、イエスは罪を消し去り、信仰によって神の力を手に入れた人々を清めます。

レビ族の儀式では、贖いの業の終わりに大祭司が出て行って民を祝福することが規定されていた。そして彼は罪のためのいけにえ、燔祭、和解のいけにえをささげて下って行った。それからモーセとアロンは会見の天幕に入った。それから彼らは出て行って人々を祝福しました。そして主の栄光がすべての民に現れた。」（レビ記 9:22、23）。同様に、イエスは贖いの働きを終えると、民を不滅で祝福するために出て行かれるでしょう。「人の子は御使いたちとともに父の栄光のうちに来るからです。そうすれば、彼は自分の行いに応じてすべての人に与えます。」（マタイ 16:27）。「主ご自身が叫び声と大天使の声と神のラッパの音とともに天から降って来られます。そして、キリストにあって死んだ人々が最初によみがえります。そのとき、生きて残っている私たちも、彼らとともに雲に引き上げられ、空中で主に会い、常に主とともにいることになります。」（Iテサロニケ4:16、17）。「死者は朽ちない者としてよみがえらされ、わたしたちは変えられる。それは……死すべきものに不死性をまとわせるのが相応しいからである。」（Iコリント 15:51-54）。

捜査上の判決

Machine Translated by Google

信者の罪を消す前に、本当に誰が最後まで信仰を持ち続けたのかを確認する必要があります。なぜなら、救い主を知り、その恵みを軽蔑し、救い主を見捨てた人々の罪を消し去るのは無意味だからです。 「もし正しい人が自分の義から離れて不法を犯し、悪人が行うすべての忌まわしい行為に従っているとしたら、彼は生きられるでしょうか？彼が行ったすべての正義は記憶に残らないでしょう。彼が犯した罪と、犯した罪の中で、彼は死ぬであろう。」 （エゼキエル書 18:24）。したがって、聖所を浄化する仕事は、かつて改宗したすべての人々の人生を調査することに関連しています。法廷があり、イエスが私たちの弁護人です。「もし誰かが罪を犯したとしても、私たちには義人である父なるイエス•キリストが弁護人になります。そして彼は私たちの罪に対するなだめの物であり、私たちだけの罪ではなく、全世界の罪に対するものでもあります。」 （ヨハネ第一 2:1、2）。

ヨハネは、イエスはなだめの者である一方、私たちの弁護者でもあると説明しました。彼は1844 年に天の聖所の贖罪の座で贖いを始めました。そして裁きが始まりました。

私たちが最終的な罪の赦しを受けるためには、法廷で無罪判決を受けなければなりません。典型的な儀式では、誰もが贖いの業の恩恵を受けたわけではありません。なぜなら、同じ日に、苦しまなかったすべての魂は、その民から切り離される（排除される）からである。」 （レビ記 23:29）。同じように、キリストもまた、贖いの働きにおいて、キリストへの奉仕に加わった者たち、キリストの同労者となった者たち、「命の書に名前が記されている」すべての人々の帳簿を調べる働きをなさるであろう。 4:3 ）、どの人が罪を完全に赦されて宥めの恩恵を受けるに値するかを知るためです。聖所の「天秤で量られて」「足りないと分かった」（ダニエル5:27）者は皆排除されます。ダニエルは幻の中で、天国の法廷が座って捜査法廷の仕事を始めるのを見た。

「玉座が設置され、古代の者が座るまで、私は見続けました。彼の衣服は雪のように白く、彼の頭の髪はきれいな羊毛のようでした。彼の玉座、炎の炎、そして炎を燃やす車輪。火の川が彼の前から流れ出ました。何千人もの人々が主に仕え、何百万人もの人々が主の前に立った。判決が下され、本が開かれた。」 （ダニエル 7:9、10）。永遠に重要で興味深い場面が預言者の目の前を通過しました。聖書はこう述べています。これはすべての人の義務だからです。神はあらゆる業、あらゆる秘密の事柄、それが善であろうと悪であろうと、裁きを受けるからである。」 （伝道 12:13、14）。ここから、すべての個人のすべての作品が評価されることがわかります。そしてその評価は表面的なものではなく、「隠されているすべてのものさえも」正義の基準と比較されるでしょう。

「神はイエス•キリストを通して人間の秘密を裁きます」、そして「律法を守らずに罪を犯した者も皆滅びます。そして、律法の下で罪を犯した者は皆、律法によって裁かれることになります。律法を聞く者は神の前に義ではないが、律法を行う者は義とされるからである。」 （ロマ 2:16、12、13）。

Machine Translated by Google

義とされる（赦される)か非難されるために、すべての人の行いが比較される義の基準は、神の聖法である十戒です。
考え、意図と動機、言葉と行動、すべてが徹底的に調査されます。なぜなら、「主は人間が見るようには見ていないからです。」人間は目の前のものを見るが、主は心を見るからだ。」（ Iサムエル16:7）。

私たちのすべての作品は、知られているものも隠れたものも、忠実に本に記録されています。詩篇作者はこう言いました。私の涙をあなたの瓶に入れてください。あなたの本には載っていないのですか？」（詩 56:8）。「あなたの目は私の形のない体をご覧になり、あなたの書にはこれらすべてのことが書かれており、それは日々形成されていました。」（詩139：16）。「ですから、主が来られるまでは、何事も前に裁いてはなりません。主は闇の隠された事柄を明らかにし、心の思いを明らかにしてくださるのです」（ Iコリント 4:5）。良い行いも悪い行いも同様に記録されます。そして、主を恐れる者たちと主の御名を覚えている者たちのために、彼の前に記念碑が書かれている。」（悪い。

3:16); 「見よ、これはわたしの前に書き記されている……あなたの咎と、あなたの先祖たちの咎が共に記されている、と主は言われる」（イザヤ65:5、6）。

判決の中で、イエス•キリストはご自身を人間の弁護人であると述べられています。そして彼は私たちの罪のためのなだめの物であり、私たちだけの罪ではなく、全世界の罪のためでもあります。」（ヨハネ第一 2:1、2）。サタンは彼らが犯した罪を告発するために法廷に現れ、彼らの非難を求めます。「悪魔とサタンと呼ばれた偉大な竜、古代の蛇…私たちの兄弟を告発する者…私たちの神の前に告発した日そして夜。」（黙示録 12:10）。イエスを個人的な救い主として受け入れた人たちでさえ罪を犯したのは事実です。したがって、彼らは法廷で、とりなし手兼弁護人としてのイエスの働きによってのみ無罪とされることができます。私たちに代わって私たちの顔。神のものです。」「それゆえに、神はまた、神のもとに来る人々を徹底的に救うこともでき、常に彼らのために執り成しのために生きておられるのです。」（ヘブル 9:24; 7:25）。

キリストのとりなしの働きから恩恵を受けるために、信者は自分の罪を告白し、捨てなければなりません。しかし、告白してそれらを捨てる者は慈悲を得るであろう。」（箴言 28:13）。
判決の際に、ある人が「悔い改めず赦されない罪を犯し、それが記録の書に残っている」場合、その人の名前は命の書から削除され、その人の善行の記録は神の記念書から消去されます。主はモーセに言われた、『わたしに対して罪を犯した者をすべてわたしの書から消し去る』(出エジプト記32:33)。（『大論争』、390 ページ - Editora Advertência Final)。ある日イエスを自分の個人的な救い主として受け入れ、その後完全にイエスを捨て、神の言葉の警告やアドバイスを無視し、主の御心を考慮せずに自分の好きなように生きた人は赦されません。「しかし、義人が義から離れて不法行為を行い、悪人が行うすべての忌まわしい行為に従っているとしたら、彼は生きるでしょうか。あなたのすべての

Machine Translated by Google

彼が行った正義は記憶に残らないだろう。彼が犯した罪と、犯した罪の中で、彼は死ぬであろう。」（エゼキエル書 18:24）。

多くの人は、一度イエスを受け入れてしまえば、将来の人生がどのようなものであっても、天国が彼らの家になると理解して、偽りの安全の中で休んでいます。これまで見てきたように、神の言葉はそのようには言っていません。救われるためには、キリストへの信仰を抱くだけでなく、最後まで信仰を持ち続けることが重要です。使徒パウロは次のように書きました。「神のご意志を行った後に約束を受けるためには、あなたには忍耐が必要です。なぜなら、まだ少し時間はあるし、これから来ることは必ず来るし、遅れることはないからです。しかし義人は信仰によって生きる。そしてもし彼が身を引いたら、私の魂は彼を喜ばないでしょう。しかし、私たちは滅びに行く者ではなく、魂の保存のために信じる者です。」（ヘブライ 10:36-39）。無実の救い主が十字架上で払った犠牲の偉大さを考えると、神が提示された救いの条件が不合理なものであると考えることはできません。イスラエルの家よ、さあ聞け、わたしの道は正しいではないか。あなたのやり方は歪んでいませんか？義人が自分の義から離れて不法行為を犯した場合、そのために死ぬことになります。彼は犯した咎のゆえに死ぬであろう。しかし、悪人がその悪から立ち直り、正義と正義を実践するなら、その魂は生き続けるでしょう。というのは、自分が犯したすべての罪を思い直して立ち返る者は、必ず生きるであって、死ぬことはないからである。しかし、イスラエルの家は、「主の道は正しくない」と言います。イスラエルの家よ、わたしのやり方は正しくないのか？そして、あなたのやり方は曲がっていませんか？それゆえ、わたしはあなたたちを、それぞれのやり方に従って裁こう、イスラエルの家よ、と主なる神は言われる。あらゆる罪から立ち去り、不法行為があなたのつまずきとなることはありません。あなたが犯したすべての罪を自分自身から捨て去り、自分の中に新しい心と新しい霊を創造しなさい。イスラエルの家よ、なぜあなたがたは死ななければならないのですか？わたしは死ぬ者の死を喜ばないからである、と主エホバは言われる。したがって、回心して生きなさい。」（エゼキエル書 18:25-32）。

自分の罪を真に悔い改め、信仰によって贖いの犠牲としてキリストの血を主張した人は皆、天の書に名前の横に赦しが記されています。彼らはキリストの義にあずかる者となり、その性格が神の律法と調和しているとみなされるため、彼らの罪は消え去られ、永遠の命を受けるに値するとみなされるのです。あなたの罪は消し去られます。「私、私自身、私自身のためにあなたの罪を消し去るのは私です、そして私はあなたの罪を覚えていません。」（イザヤ 43:25）。イエスはこう言われました。「勝利する者は白い衣を着ることになる。わたしは決して彼の名前を命の書から消すつもりはない。それどころか、わたしは父とその天使たちの前で彼の名を告白します。」（黙示録 3:5）。「ですから、人々の前でわたしを告白する者は誰でも、わたしも天におられるわたしの父の前で告白します。しかし、人々の前でわたしを否認する者は、わたしも天におられるわたしの父の前で否認するであろう。」（マタ 10:32、33）。

裁判で無罪を勝ち取られる人たちはどんな経験をするのでしょうか？

「聖書に従って、隣人を自分のように愛さなければならないという王法を実践すれば、うまくいくでしょう。しかし、人を尊重するなら、あなたは罪を犯し、違反者として法によって非難されます。すべての法律を守る者にとって、

Machine Translated by Google

一点でつまずいたのは全員のせいになった。というのは、「姦淫してはならない」と言う者は、「人を殺してはならない」とも言ったのである。したがって、姦淫を犯さずに殺人を犯した場合、あなたは法律違反者になります。あなたは自由の法則によって裁かれるべきなので、このように話し、このように行動してください。なぜなら、慈悲を示さなかった者には裁きが容赦なく下されるからである。そして慈悲は裁きに勝利します。

兄弟たち、もし誰かが自分には信仰があるが行いはないと言うなら、何の役に立つでしょうか？
信仰はあなたを救うことができますか？そして、兄弟や姉妹が裸で毎日の食べ物に欠けていて、あなたたちの誰かが彼らに、「安らかに行きなさい、暖かくて満足していなさい。体に必要なものを与えないのに、それが何の役に立つでしょうか？
同様に、信仰も、行いがなければ、それ自体が死んでいるのです。」（ヤコブ 2:8-17）。キリストへの真の信仰は、キリストを信者の心にもたらし、キリストが地上にいたときに行ったのと同じ良い行いを生み出すように導きます。それは、自分の考え、動機、目的、言葉、行動を神の言葉と比較し、その教えに従うように導きます。神の聖霊を通して、信者は変えられ、聖書の教えに日々服従します。この経験につながらない信仰告白は人を救うことはできません。聖書によれば、真の信仰とは「愛によって働く信仰」（ガラテヤ 5:6）、つまり、律法の基準と調和して人間が良い行いを生み出すように導く信仰です。「ここに聖徒たちの忍耐がある。ここには神の戒めとイエスの信仰を守る人々がいます。」（アポック。

14:12）。「なぜなら、私たちが神の戒めを守ることこそが神の愛だからです。そして神の戒めは重荷ではありません。」（ヨハネ第一 5:3）。"おお !私はあなたの律法をどれほど愛していることでしょう。それは私の一日中瞑想です！」「私の神よ、私は喜んであなたのご意志を行います。そう、あなたの律法は私の心の中にあります。」（詩 119:97; 40:8）。

真の信仰は、誠実な信者を内外の敵との日々の戦いに導きます。どちらも、私たちが神の言葉に命じられたとおりに行動するという神の望みに反するものです。しかし、「彼の戒めは永遠の命です」(ヨハネ 12:50)。神の律法は私たちに永遠の命と正しい行ないの道を示していますが、高慢、利己主義、虚栄心などの内なる情熱、そして邪悪な天使やキリストに従わない人々が、私たちに従順の道を捨てて従順を続けるよう圧力をかけます。違反。キリストが御父に何度も祈ったのと同じような苦闘をしながら、救い主の力によって、私たちは正しい道を歩み続けることができるでしょう。しかしそうすることで、私たちは裁きにおいて承認され、永遠の命にふさわしいとみなされる人格を築いていくことになります。、それは、欲望を通じて、世界に存在します。」「世にあるすべてのもの、肉の欲望、目の欲望、そして人生の誇りは、父からではなく、世から出ているからです。そして世界とその欲望は過ぎ去ります。しかし、神のご意志を行う者は永遠に残ります。」（ペテロ第二 1:4; ヨハネ第一 2:16、17）。「勝利する者は白いローブを着ることになる、そして私は彼の名前を命の書から消し去らない。そうすれば、わたしは父とその天使たちの前であなたの名前を告白します。」（黙示録 3:5）。

法廷ではどのような事件が考慮されますか?

聖書はこう述べています。しかし、信じない者は神の独り子の名を信じないので、すでに罪に定められています。」（ヨハネ3:18）

Machine Translated by Google

したがって、捜査判決で考慮されるのは、イエスを信じた人々のみです。彼らの名前は「ブック•オブ•ライフ」という本に書かれています。しかし、これは、かつて手を挙げて口で「私は信じます」と言った人全員がそこに挙げられているという意味ではありません。聖書は、「人は心で義を信じる」(ローマ10:10)と宣言しています。イエスが聖霊によって心を新たにすることを許した人だけが数えられます。 「人は……御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができない」（ヨハネ3:5）。これらはアイドル状態のままではありません。御霊は彼らをキリストの王国のために働くように導きます。このように、この本には、神への奉仕に参加したすべての人の名前が書かれています。他の同僚たち、彼らの名前は人生の本に載っています。」（フィリピ 4:3）。

天国の法廷は、命の書に名前が書かれている人々の訴訟のみを評価し、判決はその名前がそこに残るのか、それとも取り消し線で消されるのかを検証することを目的としている。白いローブを着て、人生の書から彼の名前を消したりはしない。そうすれば、わたしは父とその天使たちの前であなたの名前を告白します。」（黙示録 3:5）。御言葉は、聖なる都、新しいエルサレムには「小羊のいのちの書に記されている者だけ」が入ることを明らかにしています（黙示録21:27）。そして、名前に取り消し線が引かれている人々について、聖書は彼らにどのような判決が下されるかを明らかにしています。「命の書に記されていない者は、火の湖に投げ込まれた。」

（黙示録20:15）。

二度目のチャンスはあるでしょうか？

聖書は、二度目のチャンスはないと教えています。 「人間には、一度死ぬことと、死後に裁きを受けることが定まっている」（ヘブル書9:27）。私たちが永遠の運命を決めるのはこの人生です。死後に二度目のチャンスはありません。

全人類の永遠の運命におけるこの裁きの重要性を考慮すると、神が彼らにその時を警告し、望む者全員に備えることができるメッセージを送るのは理にかなっているだろう。神の言葉を学ぶと、神がそうされたことがわかります。このメッセージは、黙示録に記されている三人の天使を通して送られたものであることがわかります。

「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た。そして彼は永遠の福音を持っており、それを地上に住む者たち、すべての国、同族、言語、民族に宣べ伝え、大声でこう言った」 ……来るべき神の裁きの時だ……」 （黙示録 14:6、7）。

この福音は、黙示録 14 章に登場する三人の天使のメッセージ、および上記の聖句に続く聖句を通じて人々に伝えられます。それは人間に送られる最後で最も重要なメッセージです。なぜなら、私たちの永遠の運命はそれを受け入れるか拒否するかによって決まるからです。イエスは聖域から、ご自身の血で買い取った人々がメッセージを受け取る様子を強い関心をもって見守っています。私たちは、このシリーズの次の本「最後のメッセージ」で彼女を知り、研究する予定です。ぜひこちらも読んでみてください。神が今後もあなたを読書と学習に導いてくださいますように。

Machine Translated by Google

ハイロ・カルヴァーリョ牧師。

第 5 巻: 4 番目の偉大な真実: 三人の天使のメッセージ

「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た。そして彼は、地上に住む者たち、すべての国民、同族、言語の人々、そして人々に永遠の福音を告げ知らせ、大声でこう言った、「恐れよ」。神よ、彼に栄光を与えてください。神の裁きの時が来たからである。そして天と地と海と水の泉を造られた方を崇拝しなさい。

第二の天使が彼に続いて言った、「大いなるバビロンは倒れた、倒れた、そのせいですべての国々が彼女の淫行の怒りのぶどう酒を飲まされたのである。」そして、第三の天使が彼らに続いて、大声で言いました、「もし誰かがその獣とその像を崇拝し、額や手にその刻印を受けたなら、その人も用意されている神の怒りのワインを飲むでしょう」混じりけのない、神の怒りの杯の中で。そして彼は聖なる天使たちの前と小羊の前で火と硫黄で苦しめられるだろう。彼の苦しみの煙は永遠に永遠に続く。そして、昼も夜も、獣とその像を崇拝する者たち、またその名のしるしを受け取る者たちには休息がありません。ここに聖徒たちの忍耐がある。ここには神の戒めとイエスの信仰を守る人々がいます。」（黙示録 14:6-12）。

ヨハネは、これら 3 つのメッセージが発表された後に成就する次の出来事はキリストの再臨であり、その時キリストは忠実な信者たちを集めに来るだろうと見ました。頭には金の冠をかぶせ、手には鋭い鎌を持った人の子のように。そして、別の天使が神殿から出てきて、雲の上に座っている彼に向かって大声で叫びました：「鎌を持ってきて、刈り取りなさい！」そして刈り取る時が来た、大地の収穫は熟したのだ！」

（黙示録 14:14、15）。「収穫は世の終わりです」（マタイ13:39）。したがって、三人の天使のメッセージは、キリストの再臨の前に人間に送られる最後となる。それが、最初の天使が「神の裁きの時が来た」と告げる理由です。どのように準備すればよいでしょうか？「神を畏れ、神に栄光を帰せよ。神の裁きの時が来たからである。」そして、これは何を意味するのでしょうか？

神を恐れる

「恐れる」とは神を「恐れる」という意味ではありません。「主を畏れることは知恵の始まりである」（詩111:10）。それはネガティブなことではなく、良いことであり崇高なことです。 •

Machine Translated by Google

人は主の愛に感謝するとき、主を畏れます。無力な者の祈りを明らかにし、その祈りに応え、その祈りを軽蔑してはならない。これは将来の世代のために書かれるでしょう。そうすれば創造された民は主を賛美するでしょう。」（詩 103:12-18）。神への畏れは、金持ちが「ありがとう！」と言うような、神の愛に対する形式的で無関心な感謝の表現ではありません。ホテルの受付係がドアを開けてくれます。本文にあるように、主を畏れる民は「主を讃美する」のです。神を恩人として見るので、あなたの心は神に対する喜びと感謝でいっぱいになるでしょう。主への畏れには、イエスが嵐を静めたときの次の記述に示されているように、主の力と権威を熟考するとき、主に対する「深い尊敬と畏敬の念」も含まれます。私たちが滅びることは気にしないのですか？そして彼は目を覚まして風を叱責し、海に向かって言いました：「静かに、静かに」。そして風も静まり、とても静かになりました。そして彼は彼に言いました：「なぜそんなに恥ずかしがり屋なのですか？」まだ信仰がないのですか？そこで彼らは大きな恐怖を感じて互いに言った、「しかし、風や海さえも彼に従うというのは、一体何者なのだろうか？」（マルコ 4:38-41）。

神を畏れるということは、神が私たちのためにしてくださったことすべてに深く感謝すること、心から神を尊敬し崇めること、さらには神の善良さと正義を、神が認めない業を忌み嫌うほどに認識することです。「主を恐れることは悪を憎むことである。」「主を畏れることによって、人は悪から遠ざかるのです。」(Prov.
8:13; 16:6）。神は罪を憎まれます。したがって、神を畏れる人は罪を憎み、神の律法を愛します。律法、戒めは、他者への愛という永遠で完全な原則に基づいています。「他者を愛する者は律法を全うしたのです。確かに、あなたは姦淫を犯してはならない、殺してはならない、盗んではならず、偽証をしてはならず、貪ってはならない。
他にも戒めはありますが、すべてはこの言葉に要約されています。「隣人を自分のように愛さなければなりません…そうすれば、律法の実現は愛になります。」（ローマ13:8-10）。
このように、神を畏れる人は隣人を愛します。しかし、あなたはあなたの神を恐れるであろう」（レビ記25:17）。

神への畏れが包含するすべてのことを考慮すると、私たちにとっての疑問は、「どうすれば神へのそのような畏れを抱くことができるのでしょうか?」ということです。私たちの心がそれを生み出すことができないことは明らかです。しかし、裁きに備えてそれを持っておく必要があります。そうでなければ、私たちは道に迷ってしまいます。それではどうすればいいでしょうか？神は、それを所有する人間、つまりエッサイの子ダビデの子孫であるイエスの模範を見るよう私たちに勧めています。……そして彼は主を畏れることを喜ぶだろう」（イザヤ11:1、3）。聖書は、人々はイエスを見ることによって神への畏れで満たされたと教えています。私たちが今見たことを思い出してください。「彼は目を覚ますと、風を叱責し、海に向かって言いました。「じっとしていなさい、じっとしていなさい。」すると風も静まり、とても静かになった…そして彼らは大きな恐怖を感じた。」「そして彼らは恐れ、そして驚き、互いに言い合った、『風や水さえも命令し、彼に従うとは、この人は誰なのか』と。」（ルカ 8:25）。弟子たちはイエスと一緒に暮らしていたので恐怖でいっぱいでした。私たちにもこの特権があります。

「見よ、わたしはいつもあなたとともにいる」と彼は言われた、「世の終わりまで」
（マタイ 28:20）。

Machine Translated by Google

私たちは主を直接見ることはできませんが、霊において主は私たちとともにおられ、鏡を向けると太陽の光を受けるように、私たちは信仰によって主の栄光を見ることができると約束してくださいました。精神;そして主の御霊のあるところには自由があります。しかし、わたしたちはみな、主の栄光を鏡に映すように顔を開けて見ながら、まさに主の御霊によって、栄光から栄光へと、同じ姿に変えられていくのです」（IIコリント３：１７、１８）。私たちが理解できるように、御霊において神を熟考するということは、神の言葉である聖書を読むことを意味します。なぜなら、神の言葉は霊だからです。「霊は命を与えるものです…私があなたに話す言葉は霊であり、命です」（ヨハネ6: 63）。

キリストの言葉の研究を通してキリストとの交わりを維持する人は誰でも神を畏れるでしょう。これは、私たちが単なる読者ではなく、聖書の真理の実践者である場合にのみ可能になります。イエスの教えに従いたくない人々は立ち去りました。 「弟子たちの多くは引き返して、もはやイエスとともに歩まなくなった。そこでイエスは十二人に言われた、『あなたたちも去っていくのか。』そこでシモン•ペテロは言った、「主よ、誰のところへ行きましょうか。」あなたは永遠の命の言葉を持っており、私たちはあなたが神の子キリストであることを知り、信じてきました。」 （ヨハネ 6:66-69）。

神に栄光を帰しましょう

裁きに備えて神に栄光を与えることも含まれます。神は「大いなる栄光」を持っておられます(IIペテロ1:17)。したがって、神に栄光を与えることは、正当に神に属するものを引き渡すことです。 「力ある者の子らよ、主に捧げよ、栄光と力を主に捧げよ。御名にふさわしい栄光を主に与えてください」（詩29:1、2）。しかし、これは単に「神に栄光あれ！」と言う以上の意味を持ちます。これが間違っているというわけではありません。天使たち自身が「いと高きところにある神に栄光あれ」と言いましたが、私たちも同じようにすべきです（ルカ 16:30）。

2:14）。しかし、この表現は、口の言うことを感じる心から出て神を讃えるものではありますが、この言葉の意味全体を要約しているわけではありません。 「わが子よ、イスラエルの神、主に栄光を帰し、その御前で告白してください。そして、あなたが何をしたか、私に隠さないでください。するとアカンはヨシュアに答えて言った、「確かに私はイスラエルの神、主に対して罪を犯し、これこれということをしました」（ヨシュア記７：１９）。神に栄光を帰すということは、自分が悪いことをしたと告白することを意味します。それは神が正しく、私たちが間違っていることを認識することです。神は私たちの罪の責任を全く負っておられず、私たちを誤謬に導くような状況を演出することに少しも加担しなかったということです。 「誘惑されたとき、『私は神に誘惑されたのだ、私は神に誘惑されたのだ』とは誰も言いません。なぜなら、神は悪に誘惑されることがなく、誰も誘惑しないからです。しかし、だれもが自分の欲望に惹かれ、誘惑されるとき、誘惑に遭うのです」（ヤコブ 1:14）。栄光を与えるには、罪、つまり神の律法に対する違反を告白することが含まれます。 「罪を犯す者は律法を犯しているのです。罪は律法を犯すことなのです」（ヨハネ第一 3:4）。

しかし、神に栄光を帰すということは、単なる形式的で表面的な罪の認識ではありません。
多くの男性は、自分の目標を達成するために、いわゆる「中傷」をします。それは、他人を満足させ、彼らの側に悔い改めと変化と道があったという印象を与えるための、外面的な誤りの告白です。国民の信頼を取り戻すために行われる。しかしそれは、神に不名誉を与え、他人を傷つけたことに対する深い悲しみと、その結果として犯した過ちに対する後悔から来るものではありません。このような告白は、不本意ながら行われることがよくあります。犯人が別の方法で目的を達成できたとしたら、

Machine Translated by Google

いずれにせよ、私は自白はしません。これがあっちゃんの告白だった。彼は告白をしている間でさえ、「良いバビロニアの外套」と呼ばれるものを隠して神から盗みました(ヨシュア記7:21)。彼は自分の罪の結果である物を憎みませんでした。以前は、まだ憧れていました。本当に悔い改めた人は、不従順の代償として得た外套を嫌悪するでしょう。あっちゃんの場合はそうではありませんでした。彼は自分のしたことを人々の前で報告しました。それは、もはやそれを隠す方法がなかったからです。数百万のイスラエル人の間で家族ごとに綿密な調査が行われた結果、彼は誤って発見されたのです。しかし、イエスはその言葉によって、自分の心が罪の結果を憎んでいないことを示しました。彼はそれを後悔していませんでした。聖書には、悪人たちは「主に栄光を与えなかったことを悔い改めた」（黙示録16:9)と書かれています。

神に栄光を帰す告白は、真に悔い改めた心から出ます。
ダビデはこのような性質のものでした。「神よ、あなたの慈しみに従って私を憐れんでください。あなたの多くの慈悲に従って、私の罪を消し去ってください。私の咎から私を徹底的に洗い、私の罪から私を清めてください。なぜなら、私は自分の罪を知っており、私の罪は常に私の前にあるからです。あなたに対して、あなたに対してのみ、私は罪を犯し、あなたの目に悪とされることを行いました。それは、あなたが話すときに義とされ、裁くときに清くされるためです...見よ、あなたは自分の心の奥底で真実を愛しています...おお神よ、私の救いの神よ、私を血の犯罪から救い出してください。そうすれば私の舌はあなたの義を高く評価します。主よ、開いてください、私の唇、そして私の口はあなたの賛美を歌います。あなたは犠牲を喜ばないからです。そうでなければ、私は彼らを犠牲にします。あなたは全焼のいけにえを喜ばない。神への犠牲は砕かれた精神です。神よ、あなたは打ち砕かれ悔い改めた心を軽蔑しません。」（詩 51:1-17）。正直に言うと、私たちはそのような悔い改めや告白をすることはできないと結論付けています。しかし、私たちが本当に望むなら、それらは神によって与えられます。「私たちの先祖の神は、あなたが殺したイエスをよみがえらせました…神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、右手でイエスを王子、救い主に高めました。」

（使徒 5:30、31）。そして、「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方であり、私たちの罪を赦し、あらゆる不義から私たちをきよめてくださいます」（Iヨハネ1:9）。神によって清められれば、私たちは神のようになるので、裁きに対する備えが整います。「審判の日に、私たちは自信を持ちましょう。神がそうであるように、私たちもこの世にいるのです」（ヨハネ第一 4:17）。

ここで私たちは、神に栄光を帰すことの最大の意味は何か、それは、私たちがこの地上に生きている間、性質において神に似ていることである、ということを理解する点に達します。私たちの模範であるイエスは御父にこう言われました。「わたしは、あなたがわたしに与えてくださった仕事を終えて、地上であなたの栄光を現しました。」（ヨハネ 17:4）。「ですから、食べるにしても、飲むにしても、何をするにしても、すべてを神の栄光のために行いなさい。ユダヤ人、ギリシャ人、あるいは神の教会のいずれにも不快感を与えないように行動してください。それは、私が自分の利益を求めるのではなく、多くの人々が救われるように、あらゆることにおいてすべての人を喜ばせるのと同じです」（iコリント10:31-33）。「あなたは世の光です…あなたの光を人々の前で輝かせてください。そうすれば、人々はあなたの良い行いを見て、天におられるあなたの父に栄光を帰すことができます。」（マタ 5:14、16）。

創造主を崇拝する

Machine Translated by Google

最初の天使のメッセージは続けてこう述べています。「天と地と海と水の泉を造られた方を崇拝しなさい」（黙示録14:7）。これは男性に対する偶像崇拝を放棄するよう直接訴えています。最初の戒めで神はこう言われます。「あなたがたはわたしのほかに他の神を持ってはならない」(出エジプト記20:3)。詩編作者はこう述べています。「ああ、来て、礼拝し、ひれ伏しましょう。私たちを創造された主の前にひざまずきましょう。彼は私たちの神だからです」（詩 95:6、7）。そして「天にも地にも（多くの神や多くの主がいるように)神と呼ばれる人もいますが、私たちにとって神はただ一人、父です。」 （ Iコリント8:6）。神はただ一人、父であられ、天の住人たちは彼についてこう言います：「あなたは万物を創造されました、そしてあなたの意志によってそれらは存在し、創造されました。」（黙示録4:11）

黙示録 14 章のメッセージは、世界に主を崇拝するよう呼びかけています。

「すべてを支配する唯一の神であり、すべての父である」（エペソ人への手紙 4:6）。聖書は、私たちは罪を犯さずにイエスを崇拝できると教えています（マタイ 14:33; 28:9）。しかし、本文にあるように、御父は「すべての上におられる」のです。したがって、崇拝はイエスに対するものですが、最高の崇拝は御父に対するものです。黙示録には、小羊には「感謝と栄誉と栄光と力が世々限りなく」与えられなければならないと書かれています(黙示録5:14)。
しかしイエスご自身は、「父はわたしよりも偉大である」(ヨハネ14:28)と言われました。聖書は、イエスが御父に賛美の歌を歌ったと報告していますが、御父が御子に賛美歌を歌ったことは一度もありません(マタイ26:30)。イエスが「わたしは父とともに御座に座った」と述べられたことから、神が御子に御子と同じ栄光と栄誉を与えられたことは確かです。
（黙示録 3:21）。神は御子に高い地位を与えられました。 「神は彼を高く評価し、あらゆる名前に勝る名前を彼に与えました。イエスの御名によって、天にある者も、地にある者も、地の下にある者も、すべての膝をかがめ、すべての舌がイエス•キリストが主であることを告白し、父なる神の栄光を讃えなさい」（ピリピ2:9-11） ）。

彼には神ですから、そうする権利がありました。そして神は、「すべての人が父を敬うように子を敬うようにと期待されています。子を敬わない者は、子を遣わした父を敬うことはありません」（ヨハネ5:23）。しかし、これによって御子としての神の立場が変わるわけではありません。息子は父に従順です。しかし、彼が「すべてのものは神に従う」と言うとき、すべてのものを神に従わせた者が例外であることは明らかです。そして、万物が神に服従するとき、御子ご自身もまた、万物をご自分の下に置いた神に服従するであろう、それは神がすべてにおいてすべてであられるためである。」 （ iコリント 15:25-28）。

キリストは地上に来て初めて神の子になったわけではありません。永遠の昔からずっと前のことだ。私たちは、子が父に従順であり、父から学んでいることを知っています。
遠い昔、御子が御父と共に天地創造に携わったとき、御子はこう言いました。「その時、私は御父と共にいて、御弟子でした」 （箴言 8:30）。したがって、イエスは文字通り神の生まれた子です。 「神の子」とは受肉時の称号ではなく、イエスがどのような方であるかを表現したものです。彼は遠い過去、永遠の昔に生まれました。彼は地球に来たときも息子であり続けましたが、方法は異なりました。

この真理はヘブライ人への手紙で教えられています。パウロは神の言葉について次のように述べています。そしてもう一度、「私は彼の父になり、彼は私の息子になるでしょうか？」 （ヘブライ人への手紙 1:5）。 2 つの異なる瞬間が報告されています。

Machine Translated by Google

１ – キリストが永遠に生まれたとき、 「あなたは私の子です。今日、私はあなたを作りました。」

2 – キリストが受肉して地球に来られたとき、 「私は彼の父となり、彼は私の父となるでしょう」
息子"

ヘブライ人への手紙はまた、復活したイエスが死者の中から初子として天の門を通って再び入る第三の瞬間についても語っています。彼"

（ヘブライ人への手紙 1:6）。 「長子」とは「最初に生まれた者」を意味し、たとえ別の形（復活した人として）であっても、イエスが引き続き御子であることを示しています。

本題に戻ると、キリストは永遠の昔から神の子であったことがわかります。私たちが両親の子供であるのと同じ意味で、イエスは御子です。聖書の中でキリストを子（生みの者）として指定するのに使用されているのと同じ用語が、人の子らにも使用されています。「アブラハムはイサクを生み、イサクはヤコブを生みました」（マタイ 1:2）。そして神はキリストを生みました。神の事柄は単純に理解されます。

ここで、「創造された」主体と生成された息子との違いを明確に区別する価値があります。大きな違いがあります。人間は、神の道徳的像に従って、神の肉体に似せて造られました（創世記 1:26; コロサイ 3:10）。しかし、御子は正確な物理的形状に従って生成され、無限の神の道徳的イメージを表現しています（ピリピ 2:6; ヘブライ 1:3）。すべての理性的な生き物と同様、人間は完璧な人格を形成するために創造されました。宇宙の第一次生物である天使たちも同様でした。「人間は創造者よりも純粋でしょうか？見よ、彼は自分の僕たちを信頼しておらず、自分の天使たちを愚かであると見なしている」（ヨブ記4:17、18）。しかし、キリストは「天使たちよりも優れた名を受け継いだので、天使たちよりもはるかに優れた者とされました」(ヘブライ人への手紙1:4)。彼は父と同じ性格を受け継ぎ、聖書では性格は名前によって表されます。典型的な例は、「詐欺師」を意味する「Jacó」という名前です。

彼の名前は、彼が父親を騙して長子の権利の祝福を受けさせた性格の欠陥を表していました。

肉体、性格、権威に関して、御父に対する御子の立場は同等でした（フィリピ 2:6; ヘブライ 1:3）。しかし、イエスご自身が「わたしは神の子である」(ヨハネ10:36)と述べられたように、これがイエスを神にするわけではありません。そして彼は父が唯一の神であると断言しました。「父よ…これは永遠の命です。彼らがあなたを唯一の真の神として知るためです。」（ヨハネ17:3）。そして、この言葉は、イエスが人間として地上に留まっている間だけ真実ではありませんでした。イエスが天に昇られてから何年も経ってから、イエスは使徒パウロに霊感を与えて次のように書かせました。 ）。そして、これは孤立した発言ではありませんでした。つまり、パウロだけでなく、他の使徒たちにも何度か繰り返しました。「すべてを支配するのは、すべての神であり父である唯一の神です。」（エペソ人への手紙 4:6）。 「神は一人であり、神と人との間の仲介者も一人である、それが人であるキリスト•イエスだからです」（ Iテモテ２ ：５ ）。 「恵み、憐れみ、平安は、父なる神と父の御子イエス•キリストからのものです」（ IIヨハネ1:3）。

Machine Translated by Google

「三位一体」と呼ばれる神が存在したという自分たちの意見を証明するために、何世紀も後に聖書の翻訳に追加された文章を利用する人もいます。
これらの追加は、翻訳者自身によって「補間」と呼ばれています。聖書学者は、「三位一体」という言葉がその本全体でさえ言及されていないことを知っています。聖書の中で明らかにされていない神が真実であるとは想像するのが困難です。
そうではない。歴史は、三位一体の神の起源は聖書ではなく、バベルの塔の建設者にあることを明らかにしています。「クシュはニムロデを生み、ニムロデは地上で最初に権力を握った…彼の王国の始まりはバベルであった。」 。バベルの記述は次のとおりです。「今、地球全体が 1 つの言語と 1 つの言語を持っていました。そして人々が東に向かって移動すると、シナルの地に谷を見つけました。そして彼らはそこに住んだ。彼らは互いに言いました、「さあ、レンガを作ってよく燃やしましょう」。レンガは石として、アスファルトはモルタルとして機能しました。そして彼らは言った、「自分たちで都市を建て、その頂上が天に届くような塔を建てて、全地に散り散りにならないように、名を残しましょう。」それから主は下って来て、人の子らが建てている都市と塔を見ました。 「見よ、人々は一つであり、彼らは皆一つの言語を持っている。そしてこれが彼らがやり始めることです。これからは、彼らがやろうとしていることすべてに制限はなくなります。さあ、下に行って、そこで彼らの言語を混乱させて、お互いの言語が理解できないようにしましょう。そこで主は彼らをそこから全地に散らされました。そして彼らは都市建設をやめた。したがって、その名前はバベルと呼ばれました。なぜなら、主はそこで全地球の言語を混乱させ、そこから主は彼らを全地球の表面に散らしたからです。」 (創世記 10:9-12; 11:1-8)。

ニムロデはバベルの指導者、頭でした。彼の名前はヘブライ語の「マラド」に由来しており、「反逆者」または「反逆した」を意味します。創造主はノアに「増えて地に満ちよ」と言われました（創世記9:1）。ニムロデの命令は、神の命令に反して、「私たちが天に届くような都市と塔を建て、全地に散り散りにならないように、名声を上げようではないか」というものだった。ニムロデの物語にはいくつかのバージョンがあり、それらはすべて次のようなものに似ています。ニムロデは非常に邪悪で不敬虔だったので、自分の母親であるセミラミスと結婚し、彼女との間にタンムズという名前の息子がいました。彼の死後、ニムロドの霊が昇天して太陽神になったという伝説が作られました。ブリタニカ百科事典， 1946年版にはさらに， 「ニムロデは真の救世主として崇拝されるようになった」と述べられています。

セミラミスは後に月の女神とみなされ、その息子は救いの神とみなされました。したがって、ニムロッド、セミラミス、タンムズの肉体を離れた霊が神に変えられたとして、星の崇拝が設立されました。異教の宗教において人間が神に変えられる過程は、後に「神化」を意味する「神格化」と呼ばれるようになりました。創世記は、異教の崇拝者全員が塔の建設に関わっていたとき、主が全地球の言語を混乱させ、そこから主が彼らを全地球の表面に散らしたと報告しています。ニムロッド、セミラミス、タンムズの崇拝者は地球の隅々にまで広がりました。そして彼らは、三人の崇拝システム（したがって「三位一体」）と神殿（ジッグラトとピラミッド）の建設に関する知識を持ち帰りました。考古学者たちが地球のさまざまな場所で、明らかに互いにつながりのない人々によって建てられた、同じ比率のピラミッドを発見したのはそのためです。これは、三位一体や星の崇拝が事実上すべての古代異教文明で実践されていたことを考古学的記録が証明している理由でもあります。非キリスト教の研究者にとっては謎に見えることが、聖書を信じる者にとっては明らかになります。

Machine Translated by Google

これは、彼ら全員が共通の祖先、つまり洪水後のバベルの建設者を持っていたためです。そして、本題に戻りますが、これが、多くの言語で、その日が奉献された星の名前にちなんで命名される理由でもあります。
彼らの宗教は同じ起源を持っています。いくつかの例を見てみましょう。

日曜日：

- 英語では、日曜日は Sunday です: Sun = 太陽。日=日。日曜日 = 太陽の日。

- ドイツ語では、Suntag: Sun – Sol です。タグ = 日;

- 等

月曜日：

- 英語で: 月曜日: mon = 月。日=日。月曜日 = 月の日。

-など

物語によれば、ニムロデは亡くなり、彼の妻セミラミスはカルト的な売春婦でした。宗教的な「努力」の結果、彼女は妊娠し、息子をもうけました。そして彼女は、太陽神となったニムロド自身によって受精したと主張した。息子は12月25日に生まれ、タンムズと名付けられ、当時の異教徒からも尊敬されました。それ以来、この日はタンムズの誕生として祝われるようになり、ニムロド（太陽神)崇拝の一部となりました。初日は丸一日太陽崇拝に捧げられ、週の最初の日であり、一年の最初の日でもありました。ポルトガル語で週の最初の日を表す「ドミンゴ」という言葉はラテン語に由来し、「主なる神、太陽の日」を意味します。偽りの神「バアルは、聖書の中で何度も言及されていますが、『偉大な狩人』ニムロデの別名にすぎません（創世記 10:9）」 出典: The Silence of Educators ST.バレンタインデー。今日スペイン語で「オクタバ•デ•ナビダ」と呼ばれる一年の最初の日も、太陽神を崇拝する宗教儀式が捧げられました。

母親と息子のタムズについても、物語は次のように語っています。

「タムズは幼い頃、森で狩りをしていたとき、野生の豚に殺されました。その後、セミラミスは彼の宗教に奉仕するすべての女性たちとともに、40日間泣きながら断食し、バビロニアの伝説によれば、その終わりにタンムズは生き返ったという。これは母親の力の証明でした。彼女は「天の女王」または「母なる女神」という称号で崇拝されるようになりました。この宗教の象徴は、「母と子の神秘」として知られる、子供を腕に抱いた母親の像でした。」出典: http://solascriptura-tt.org/seitas/Romanismo/Nacoes-NimrodeSemiramisMariaBabelBabilonia-Trois.htm - 2009 年 9 月 11 日にアクセス。

Machine Translated by Google

その後、タンムズの儀式が確立されました。話によれば、タンムズの遺体はバラバラに切断され、各部位に送られたという。その後、母親のセミラミスさんは、遺体を組み立てて息子を復活させるため、あらゆる場所の捜索を命じた。捜索は40日間続いた。最後には欠片が欠けているのが見つかり、それは川に投げ込まれたものと思われた。そこでも捜索が命じられ、そこから多くの魚が採取され、この伝統はカトリック教会にも採用されました。 40日間が四旬節となり、いわゆる「受難」の金曜日に魚を食べる日が、40日間にわたるタンムズの遺体捜索が終わったのと同じ日に行われた。伝説によると、捜索期間の終わりに、ようやく死者の遺体を復元することができたという。そのとき母親は、体を温めて元気を取り戻すために、一日中彼の上に横たわっていたでしょう。この終わりに彼は彼を復活させたでしょう。その後、売春の儀式を伴う復活と豊饒崇拝の祭典が行われました。ウサギと卵は多産の象徴として採用され、イースターにチョコレートの卵を食べる伝統が生まれました。これらすべてはタンムズの異教崇拝、異教の宗教から来たものです。

「バビロニアの伝説によると、タンムズは生き返ったそうです。これは母親の力の証明でした。彼女は「天の女王」または「母なる女神」という称号で崇拝されるようになりました。この宗教の象徴は、「母と子の神秘」として知られる、子供を腕に抱いた母親の像でした。

この宗教はすぐに世界中に広がりました。名前は言語によって異なりましたが、母親と息子の崇拝は同じでした。

アシュタロットとバアル　フェニキアへ。

イシュタルとかイナンナとか　アッシリアで

イシスとオシリス　エジプトで。

アフロディーテとエロス　ギリシャで。

ローマのヴィーナスとキューピッド。

メディア•ペルシア人がバビロンを支配したとき、そこの祭司たちは小アジアのペルガモンに定住しました。ペルガモンは母と息子の崇拝の中心地となった。それから彼はヴィーナスとキューピッドという名前でローマに連れて行かれました。」

出典: http://solascriptura-tt.org/seitas/Romanismo/Nacoes-NimrodeSemiramisMariaBabelBabilonia-Trois.htm - 2009 年 9 月 11 日にアクセス。

ニムロド、タンムズ、セミラミスの三人は、それぞれの異教の人々で異なる名前で崇拝され始めました。一人目は太陽神、二人目は神の母、そして三人目は息子の神、タンムズであり、救い主の神とも呼ばれます。エジプトでは彼らはこうでした

Machine Translated by Google

オロス、イシス、オシリス。この概念は異教ローマ帝国まで残り、異教とキリスト教が帝国内で共存し始めました。コンスタンティウス皇帝は、政府を引き継ぐ前、まだマクシミリアンと競争していたときに、もし自分が引き継いだなら帝国を「キリスト教」に変えると国民に約束した。彼は彼なりのやり方で約束を守りました。彼は、単に聖書に基づくキリスト教を国教として宣言するのではなく、キリスト教徒と異教徒という帝国の両派を融合させることで、その両方を喜ばせようとしました。彼は空のビジョンを見た、その中で太陽が十字の雲に覆われているのを見た、と主張し、「これをすれば勝てる」というメッセージを理解したと述べた。したがって、彼は両方の崇拝の概念と形式を統合しようとしました。それまでキリスト教徒は、聖書の教えとイエスの教えに従って安息日を守っていました。彼は習慣に従って安息日に会堂に入った」（ルカ4:16）。

コンスタンティンは変化を起こした。彼は西暦 321 年に、「すべての人が太陽の尊い日を崇拝する」、つまり異教徒の崇拝の日である日曜日を遵守することを布告しました。彼の影響により、聖書のキリスト教と異教の混合が続きました。像の崇拝が制定され、第二戒によって禁止されていましたが、異教徒によって広く行われていました。画像には聖書にちなんだ新しい名前が付けられました。

たとえば、木星の像は使徒ペテロに名前が変更されました。現在、それはローマのバチカン市国にあります。それは木星の角を持つ同じ異教の像ですが、名前はペテロです。異教徒の間で非常に人気があった母と子の崇拝は、後に別の名前で更新されました。教皇の回勅を参照してください。

「天使の受胎告知において、処女マリアは心と体に神の言葉を受け入れ、この世に命をもたらしました。したがって、彼女は神の真の母であり救い主として認められ、尊敬されています。」 -- Lumen Gentium、番号 53 - Edições Paulinas。頭の周りに太陽があり、息子を腕に抱いているメアリーの画像を配置してください

コンスタンティヌスによって促進された変化に戻る: 予想通り、キリスト教の一神教は放棄されました。キリストと使徒のキリスト教は、一人の神、一人の人間、父を認めました（ Iコリント 8:6）。異教は三位一体を崇拝しました。両方のニーズを満たすために、2 回の評議会の結果、「三位一体」の神が教会の信条の中で公式に定められました。彼は、教会の中にさえ異教の哲学に汚染された聖職者がすでに存在していたという事実を利用し、特に異教の三位一体の概念を持ち込んだアレクサンドリア出身の聖職者が、父と子と神の名において洗礼を受けるよう男性に命じたという事実を利用した。聖霊、そして三人のうち一人の神を礼拝します。これらは真の信者には受け入れられませんでした。真の信者は西暦65年頃に使徒パウロから次のように警告されていました。そして、あなたがたの中から、ひねくれたことを言って弟子たちを引き離す者たちが現れるであろう。」 （使徒 20:29、30）。しかし、皇帝の支持を受けて異教徒が勢力を伸ばした。三位一体は教会の信仰として公式に認められました。そして、像と同様に、異教の神々にも聖書の名前が付けられました。西暦 325 年、コンスタンティヌス帝の指導のもと、ニカイア公会議はイエスを「神」とみなすと定めました。つまり、それはもはや1つではなく、2つでした。数年後、コンスタンティノープル（西暦 381 年）で行われた 2 回目の公会議では、聖霊が 3 番目の「神」であると定義されました。つまり、エジプトのオルス、イシス、オシリスから、今の帝国は

Machine Translated by Google

キリスト教化されたローマ人には、人間の評議会によって発明された、キリスト教化された異教の三位一体である「父、子、聖霊」が存在しました。帝国公認のキリスト教は、その起源を裏切る名前を獲得しました。

カトリック、普遍を意味する - ローマ（世界)帝国の公式教会

使徒的。元のキリスト教に関連したあらゆる変化にもかかわらず、その起源は使徒にあると言われているためです。

ローマ– ローマ帝国の宗教であったように

このように、教会は、神への反逆者であるニムロデに端を発する異教を真のキリスト教と結びつけるコンスタンティヌス帝の努力から誕生しました。宗教の問題における虚偽と真実の結合の成果は、ローマ•カトリックの使徒でした。そして彼はニカイアとコンスタンティノープルの公会議で創造された「三位一体」の神を崇拝しました。新しい神の崇拝、新しい安息の日、そしてあらゆる形態のキリスト教化された異教の崇拝を支持する聖書的根拠が欠如していました。歴史は、新興宗教の指導者たちが「証拠の提出」の専門家になったことを示しています。土曜日から日曜日への変化を証明するために「エルサレムの天から落ちた」と言われる巻物を提示することから、人々がこの日に働くために特別に呪われているという噂を広めることまで。そして彼らは聖書の翻訳を変えることさえ恐れませんでした。聖職者の要請を受けて、ルターと同時代の聖書翻訳者エラスムスは、ヨハネ第一 5章7節の括弧内の文章を自分の著作に追加しました。

「というのは、[天には父、御言葉、聖霊という三つの証人がおり、この三つは一つである。そして地上で証言するのは 3 人です] :御霊、水、血、そしてその 3 人は 1 つの目的において一致しています。」

しかし、今日に至るまで、この事件を非難する正直な人々がまだいます。 1999 年版の改訂最新版の翻訳者は、これらの節内の括弧「[__]」の間にあるテキストは原文に属していないことを告白しています。このバージョンの注釈 (363 ページ – 新約聖書) には次のように書かれています。

「f 5.8括弧内のテキストはいくつかの原稿に表示されていません。」

これは西暦 1500 年より前のどの写本にも登場せず、オリジナルに属していないため、登場するはずもありません。それは男性によって作成され、追加されました。そして今日では、それが原文に属しているかのように、何の説明もなく、いわゆる「現代」または「エキュメニカル」聖書のいくつかに組み込まれています。洗礼に言及した文書さえも免れませんでした。今日に至るまで、本文批評は、ニカイア公会議中に生きていたカイサリアのエウセビオスのいくつかの著作を記録しており、その中で彼はマタイ 28 章 19 節の本文について次のようにコメントしています。 」。エウゼビオは、当時の聖書で読んだテキストをそのまま転写しました。彼は当時最大の図書館の責任者だったという話があります。そこにはマタイ書の写本の最大のコレクションが自由にありました。さて、興味深いことに、

Machine Translated by Google

ニカイア公会議後のエウセビオスの著作には、 「行って弟子を作りなさい…父と子と聖霊の名において彼らにバプテスマを授けなさい」という別のバージョンが記されている。ニカイア公会議は、三位一体に対する異教の信仰がキリスト教に導入された2回のうちの最初の公会議であることを思い出してください。評議会の人々によって決定されたことに沿って、エウセビオスは聖書の著作の転写さえ変更しました。実際、聖書の間違いを正すために、ほとんど超人的な努力が払われました。そのため、今日、マタイ 28 章 19 節の古代写本に忠実な聖書のバージョンを見つけるのは困難です。しかし神は、真理の証しをせずにご自身のことを放っておかれませんでした。聖書自体、使徒行伝には、ペテロが誰の名前でバプテスマを命じたかを明らかにする豊富な証拠があり、そのスピーチは神に祝福され、一日で 3000 人以上の人々がキリスト教の信仰に従うように導かれたものです。

「悔い改めて、罪の赦しのためにイエス•キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、聖霊の賜物を受けるでしょう。」 （使徒言行録2:38）

他の聖句は、正しい洗礼がイエスの名によるものであることを裏付けています。 「そして、アポロがコリントにいたとき、パウロは上部地域をすべて通ってエフェソスに来て、そこで何人かの弟子たちを見つけて、彼らに言った。「あなたがたは、あなたがたに聖霊を受けましたか。」信じましたか？彼らは彼に言った、「聖霊が存在するということを私たちはまだ聞いていません。」それから彼は彼らに、「あなたはどのような方法でイエス•キリストのバプテスマを受けましたか?」と尋ねました。そして聞いた人たちは主イエスの名によって洗礼を受けました。そしてパウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が彼らの上に臨んだ。そして彼らは異言を話し、預言したのです」（使徒19:1-5）。

自分たちの理論を聖書に裏付けさせようとする人々の努力は、ヨハネ第一とマタイのテキストに限定されません。他の 5 つの聖書本文にも偏った翻訳の証拠があります。これらはもともと聖書全体と完全に調和していました。しかし、原文どおりではなく、当時の理論を裏付ける形で翻訳されているため、読者はイエス•キリストが「御子なる神」、つまり「三位一体の二番目の人」であると理解することになります。 、彼らが私たちに信じて欲しいように。これらのテキストは、『Editora Advertência Final』の「しかし、私たちにとって唯一の神、父なる神が存在する」という本の中で、広範にコメントされ、真実と比較されています。このトピックについてさらに詳しく知りたい場合は、一読をお勧めします。

最初の天使のメッセージに戻ると、そこに含まれている「それを造られた方を崇拝しなさい」 （黙示録 14:7）という命令は、私たちが父なる神を崇拝するための命令であると結論付けられます。神。私たちは使徒教会の宣言を繰り返します。「天であろうと地であろうと（多くの神や多くの主がいるように）神と呼ばれる人もいますが、それでも私たちにとっては唯一の神、父がおられるのです。」 （1）コリント 8:6）。

Machine Translated by Google

しかしこの聖句は、私たちが主の安息の日を尊重するようにという主なる神の望みも暗示しています。メッセージのテキストは戒めとほぼ同じです。

黙示録 14:7: 「そして、天と地と海と水の泉を造られた方を崇拝しなさい。」

第四戒：「安息日を聖く守るために、安息日を覚えなさい。……主は六日間で天と地と海とその中にあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。」出20:8、11）。

最初の天使のメッセージは、世界が第四戒の安息日を守るよう求める神からの呼びかけです。私たちの周りを見回せば、そのメッセージがどのように時間内に届いたかがわかります。今日、ほぼ世界的にもう一つの日が神聖視されています。それは日曜日です。神は人々が再びご自分に従うことを望んでいます。 「あなたの神、主が命じられたとおり、安息日を守りなさい」（申命記5:12）。多くの人が信じていることとは異なり、イエスは安息日を廃止したり変更したりはしませんでした。また、新しい契約は彼を尊重する義務を除外しませんでした。神は、安息日は永遠のしるしであると述べられました（出エジプト記 31:15-17）。そして彼は、新しい契約の中で、律法の他の戒めとともに、これを私たちの心に書き記すだろうと言いました（ヘブライ 4:13）。

10:16）。これを証明する聖書の証拠については、このコレクションの第 6 巻で詳しく説明します。

第二の天使からのメッセージ

「すると、別の天使がついてきて、『彼は倒れた！』と言った。」すべての国に彼女の淫行の怒りのワインを飲ませたあの偉大な都市、バビロンは崩壊した！」 （黙示録 14:8）。

歴史によれば、古代都市バビロンは紀元前 531 年にメディア人とペルシア人によって征服されました。古代においてさえ完全に破壊され、再び再建されることはありませんでした。その遺跡は現在のイラクの領土にあります。ヨハネが「バビロンは倒れた！」という言葉を聞いたとき、彼の名前を冠した文字通りの都市はもはや存在していませんでした。したがって、その警告が彼女について言及したものであることを理解するのは意味がありません。このメッセージには霊的な意味があることを理解する必要がありました。 「バビロン」とは、古代都市のシステムを再現したシステムを指す必要がありました。

古代バビロンは君主制政府であり、その国王である民間指導者は宗教上の最高権威でもありました。これが、ダニエル書の物語が私たちに示していることです。「ネブカドネザル王は、高さ60キュビト、幅6キュビトの金の像を作りました。バビロン州のドゥラの野で育てました。そしてネブカドネザル王は太守たちに集まるよう命じた...そして全員

Machine Translated by Google

諸州の総督たちは、ネブカドネザル王が立てた像の奉献に来ることになった。それから太守と地方の総督たちはネブカドネザル王が立てた像を聖別するために集まり、ネブカドネザル王が立てた像の前に立った。そして、使者は大声で宣言した。「おお、民族、国家、あらゆる言語の人々よ、あなたたちに命じられています。角笛の音、笛の音、そしてあらゆる種類の音楽を聞くと、あなたたちは倒れてしまいます。」ネブカドネザル王が立てた黄金の像を崇拝します。そして、ひれ伏して彼女を崇拝しない者は、すぐに燃える炉に投げ込まれるでしょう。」 (ダニエル 3:1-6)。

バビロンの王は、異議を唱えることなく従わなければならない宗教と教義、教えを定義する責任がありました。彼は地上における神の代表者として認められていました。すでに学んだように、バベルから来たバビロニア人は三位一体を崇拝し、週の最初の日を礼拝に捧げました。これが彼らの宗教の基礎でした。 「バビロンは崩壊した」という黙示録のメッセージは、その宗教形態を再現するあらゆるシステムに当てはまります。黙示録は、象徴的な言葉で、教会がバビロニアのカルトを復活させる働きの主人公であることを指摘しています。読む前に、聖書では女性は教会を意味し、キリストは夫にたとえられているということを思い出してください(エペソ 5:24、25)。

「私は獣の上に座っている女性を見ました...彼女の額には名前が書かれていました：神秘、大いなるバビロン、売春婦と地上の忌まわしいものの母。」 （黙示録 17:3、5）。

自らを「母」と呼び、バビロニアの礼拝形態を再現した教会。今日私たちは「聖母教会」という言葉を聞きます。マドレはスペイン語で「母」。この同じ教会は、週の最初の日を礼拝のために特別に設けると宣言しています。また、三位一体への崇拝も命じています。そしてその指導者は「教義」を宣言し、信者はそれに疑問を持たずに従わなければならないと命令する。また、バビロニア人と同様に、彫刻像の崇拝を制裁しています。ここはカトリック教会です。第二の天使のメッセージは、疑いもなく主に彼女に当てはまります。彼女は「偉大なバビロン」であり、キリスト教世界全体にバビロニアの礼拝のモデルと形式を導入する責任のある教会です。しかし、公平を期すために、私たちは彼女が唯一の人ではなかったことを指摘します。多くの、実際には他の公式に確立されたキリスト教の宗派のほとんどすべてが、バビロニアのカルトの一部を採用しました。圧倒的多数の教会は日曜日を礼拝の日、または三位一体を崇拝する日として宣言しています。真の神とその安息日は忘れられています。したがって、彼らがバビロンと霊的なつながりがあることは否定できません。そして、彼らが堕落したと言うのも同様に真実です。

結論： 「バビロンは倒れた、倒れた」というメッセージは彼らにも当てはまります。

神がその言語においていかに完璧であるかに注目してください。本文中に「崩壊」という言葉が2 回出てきますが、これはまさに、それが複数の教会の崩壊を指していることに注意深い研究者に気づかせるためです。なぜなら、教会が崩壊し、すでに崩壊したのに再び崩壊したと言っても意味がありません。したがって、 「バビロンは崩壊した」というメッセージは、

Machine Translated by Google

堕落したプロテスタント教会 - 古代バビロンの教会と共通の教義を持つすべての教会。

ここで括弧を付けるのが適切です。この時点で、一部の読者は、この本の目的が教会を批判すること、つまり悪口を言うことであると考える可能性があります。しかし、それだけではありません。その目的は、神が終わりの日に残された真理を私たちに理解させることです。神は御言葉の中で教会の誤りとその結果としての教会の崩壊を非難していることが分かりました。この方法によってのみ、人々を間違った道から導き、正しい道に導くことができます。もしあなたが地獄に向かっていることを知らないのであれば、神はできるだけ早く警告する必要があります。したがって、私たちパブリッシャーは次のいずれかを選択する必要があります。

１ - 「それは物議を醸す話題であり、論争を引き起こす可能性がある」という事実を言い訳として、単にその話題に言及せず、神の啓示を無視する。

2 - 神の啓示を人々に示し、神の意志を実現し、結果は神に委ねます。

私は 2 番目のオプションを選択します。あなたも？

第二の天使が指摘した時代とは、バビロンが「すべての国々にその淫行の怒りのぶどう酒を飲ませた」時代のことです。今日はそんなことは言えません。中国や他の異教諸国は依然としてカトリックの教義を無視しているようだ。しかし、聖書の啓示が正しければ、この順序が変わることになるでしょう。すべての国は依然として教皇と教義に降伏するだろう。これをどうやって知ることができるのでしょうか?単純。聖書では、飲み物は教義を表していました。使徒ペテロはこう勧めています。「生まれ変わった子どものように、偽造品ではなく、適切な乳を望みなさい。そうすれば、それによって成長することができます。」（ペテロ第一 2:2)イエスは、「わたしが与える水を飲む者は決して渇くことがありません。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水が湧き出るからです」（ヨハネ4:14)と言われました。イエスは、ご自分の教義を学生の心で受け入れる必要がある人々を教えたいとき、次のように言われました。「誰も新しいぶどう酒を古い革袋に入れません。そうしないと、新しいぶどう酒が革袋を破って、ぶどう酒がこぼれ、革袋がダメになってしまいます。」（ルカ 5:27)それでワインは

バビロンによってすべての国々に与えられたのがその教義です。それは「彼女の淫行のワイン」と呼ばれており、この教会が採用し教えている人間の教義を通じて、この教会がキリストと聖書で教えられているキリストの真理を裏切っていることを意味します。

ワインは同時に怒りのワインでもあります。無数のたき火、ギロチン、その他の拷問器具が使用されたという物語は、カトリックの司祭たちが教義に反対するすべての人々に対して示した怒りを描写しています。ローマは変わっていない。

今日では、無力なところにも寛容です。しかし、彼女が再び権力を掌握すれば、「異端者」に対して過去と同等、あるいはそれ以上の残虐行為が行われることになるだろう。彼の罪は、彼自身の良心の確信に従ったことです。預言によると、バビロンは

Machine Translated by Google

将来、すべての国民に淫行の怒りのぶどう酒を飲ませます。簡単に言えば、カトリック教会は地球上のすべての国のすべての政府にその教義を受け入れさせ、人々に押し付けるでしょう。日曜日の休みの遵守や罪深い人間の魂の不滅などの教えは広く普及するでしょう。

キリストに反対する普遍的な宗教が存在するでしょう。これは黙示録の第二天使が示した時です。人間の教義に従うか、それとも他の世界に対してキリストの側に立つか、これは各人間が下さなければならない決断になります。しかし、真実に対して配置された地球上のすべての力に立ち向かうために、一人で取り残される人は誰もいません。この危機の時代に、真実の側に立ちたいと願うすべての人を助けるために、強力な天使が派遣されます。あなたのメッセージは地球全体に届き、正しい側にしっかりと立ちたい人たちに力を与えるでしょう。それは、地や地獄の力が彼らを揺るがすことを防ぐでしょう。これは第三の天使からのメッセージです。

第三の天使のメッセージ

「そして、第三の天使が彼らを追って、大声で言った、「もし誰かがその獣とその像を崇拝し、額や手にその刻印を受けるなら、その人もまた神の怒りのワインを飲むでしょう。神の怒りの杯の中で、混合物なしで準備されているのが発見されました。そして彼は聖なる天使たちの前と小羊の前で火と硫黄で苦しめられるだろう。彼の苦しみの煙は永遠に永遠に続く。そして、獣とその像を崇拝する者には昼も夜も休むことがなく、またその名のしるしを受け取る者も同様である。ここに聖徒たちの忍耐、神の戒めとイエスの信仰を守る者の忍耐がある。」黙示録 14:6-12。

この警告は、天から人々に送られる最も恐ろしい脅威です。論調の重みは、右派の側に立つのが非常に簡単で、選択を誤った言い訳ができないことを示唆している。しかし、地球上で最も偉大な権力者たちが間違った側にいるとしたら、どうしてこんなことがあり得るでしょうか？それは、神に従う側を選ぶ人には無限の力が与えられるからです。これは、第三の天使が「大きな声」で言っているという事実により、テキストに現れています。すでに見たように、これは神の聖霊の力に満たされて話すことを意味します(ルカ1:41、42)。神はメッセージを受け取る人々に聖霊という力を与えてくださいます。使徒はかつてこう言いました、「もしあなたが御霊に導かれているなら、あなたは律法の下にはない」(エペソ5:18)。これらの意味についてはほとんど理解されていません
言葉。

神の法則は、人、星、自然の要素、動物、魚、鳥を支配します。私たちはその主体として、自然の限界にさらされています。私たちは過去に戻ったり、雲の上を歩いたり、最も近い星を訪れたり、火の中に手を入れても怪我をすることはありません。自然法則に逆らうことは死に遭遇することを意味します。この中で、すべての自然法則は十戒に由来するものであるため、最大の法則である十戒に違反した場合の平等な結果を誰もが教えられます。しかし、御霊に導かれる者は律法を「越える」のです。通常では不可能なことを、聖霊に満たされた人々が成し遂げたのです。使徒パウロは蛇に噛まれましたが、怪我はありませんでした。フィリポは地球上のある場所から別の場所へ移送されました。ここに消えて、あそこに現れた。ヨシュアは太陽と月に静止するように命じました。

Machine Translated by Google

一日は24時間よりずっと長く続きました。使徒ペテロとパウロは死からよみがえりました。
イエスは水の上を歩き、ペテロを招きました。ペテロも同じようにしました。ダニエルの 3 人の友人は燃える炉の中に入りました。炉は非常に熱かったので、火の中に投げ込んだ人は死亡しました。そして、彼らの頭には髪の毛一本も焼けていませんでした。預言者エリシャを逮捕しに来たシリア軍全員の目が見えなくなったため、エリシャは彼らをイスラエルの王のもとに連行しました。そしてエリシャは捕らえられませんでした。自然法則を考慮すると、これらすべてのことは事実上不可能です。しかし、神の霊を受けた人々はこれらの働きを実行しました。そして今もそれは変わりません。聖霊に満たされれば、人間は衛星追跡システム、レーダー、スキャナーから見えなくなることができ、気づかれずに血を貪る人間や人間の軍隊の列を越えることができ、爆弾の地雷原でも怪我をすることなく通過できるようになる。ある部分から別の部分に移すこともできます。これらすべては神の目的を達成するため、人間の教義に混じることのない王国の真の福音をすべての国に告げ知らせるためです。詩篇 91 篇の約束は、彼らの人生で実現します。「千人があなたの側に倒れ、一万人があなたの右に倒れるでしょう。しかし、あなたは打たれることはありません」。人間がこれらすべてのことをできるようにする御霊は、信仰によって受け取られます（ガラテヤ 3:14）。イエスはこう言われました。信じる者にはすべてのことが可能です」（マルコ9:27）。したがって、神を信じて神の御霊を受け取る人々に対して神が何ができるかを考えると、正しい側に立つことは実に簡単であり、間違った側にとどまる言い訳はありません。たとえ地球上のすべての力が団結して私たちに対抗したとしても、私たちは勝つことができます。真実は、信者たちが1世紀の使徒のように苦しむかもしれないということです。多くの人が殉教するかもしれない。つまり、神が彼らに「キリストの名のために苦しむことがどれほど重要であるか」（使徒行伝9:16）を示さなければならないことを理解している場合です。しかし神にとって、私たちを危険な状況から救い出すことは、地面に石を投げるのと同じくらい簡単なことなのです。そして、私たちが神の戒めに従うことや、私たちを妨げようとするすべての人の行動を阻止できるようにすることも、神にとっては同じくらい簡単です。 「神にとって不可能なことは何もありません」（ルカ 1:37）。そして私たちは不可能が起こるのを見るでしょう。私たちが必要なのは、神が約束を守ってくださるという信仰を持つことだけです。

しかし、「でも私には信仰がない」と言う人もいるでしょう。それはニュースではありません。
自分自身に自信を持っている人はいません。 「信仰は…あなた自身から来るものではありません。それは神の賜物です」(エペソ2:8)。
神の賜物はすべてイエスによって与えられました（ IIコリント 1:19、20）。そしてイエスご自身がすでに私たちに与えられています(ヨハネ3:16)。そうすれば、彼を受け入れる人は誰でも信仰を受け取り、それを通して御霊を受けるでしょう。そして、聖霊によって、私たちが話しているすべての働きを実行してくださいます。したがって、あなたは地球の有力者たちから何も恐れることはありません。

繰り返しますが、私たちが御霊を受けているという事実は、私たちが二度といかなる苦しみも経験しないという意味ではありません。神はその知恵によって、私たちが苦しみを通じて完全になるように設計されました。イエスは、「子であったにもかかわらず、苦しみを通して従順を学びました」（ヘブライ人への手紙 5:8）。したがって、イエスに従う者たちも同様の経験をする必要があるでしょう。使徒たちは何度も鞭で打たれ、逮捕され、死刑を宣告されて地上を歩き回り、ある場所から別の場所へ迫害されました。何世紀にもわたって、多くの人がイエスのために命を捧げました。神の賢明な摂理において、神は彼らを救い出すのではなく、むしろ彼らの模範が他の多くの人々への証しと励ましとなるように彼らを可能にしました。殉教者の血は天国への魂の収穫に水を注ぐ種でした。しかし聖書は、信者たちが信仰によって「火の力を消し」さえしたことを明らかにしています(ヘブライ11:34)。これは次の事実を説明します

Machine Translated by Google

歌って死ぬ。聖霊が彼らに「麻酔」の役割を果たし、彼らはイエスの最後の瞬間を証しすることができました。したがって、私たちは次のように結論付けます。なぜなら、死も、生も、天使も、支配者も、権力も、今あるものも、これから来るものも、高さも、深さも、他のいかなる被造物も、私たちを愛から引き離すことはできないと私は確信しているからです。私たちの主キリスト•イエスのうちにおられる神よ！」（ローマ人への手紙 8:37-39）。

第三の天使のメッセージは、神からのそのような偉大な救いを拒否する人々に当然のこととして訪れるであろう恐ろしい結末を告げています。神の怒りの杯で混合されずに準備された神の怒りのワインを飲む。そして彼は聖なる天使たちの前と小羊の前で火と硫黄で責め苦を受けるであろう」（黙示録14:9、10）。神の怒りは七つの災いが降り注ぐことで完成します。「私は天でもう一つの偉大で驚くべきしるしを見た。最後の七つの災いを負う七人の天使だった。彼らの中で神の怒りが完成したからである。」（黙示録15:1）。これらは地球上で訪れるであろう最も恐ろしい惨劇です。大竜巻や津波など、神の怒りの杯に比べればほんの一滴に過ぎません。悪の業に対する支払いの遅れは、裁きの厳しさによって埋め合わせられるだろう。神は今日行われているあらゆる不正や悪を見ていないわけではないことが実証されるでしょう。そして、第七の災いの際に、怒りのぶどう酒が注がれるだろう。そして神はバビロンのことを思い出し、その怒りの憤りを表すぶどう酒の杯を与えてくださった。そして、大いなる雹が天から人間の上に降った。石の重さは一タラント[重さ約34キロ]だった。そして人々は雹の疫病のせいで神を冒涜した、なぜなら彼らの疫病は非常に大きかったからである。」（黙示録 16:17-21）。

獣の従者に対する罰は、石の雨の降る程度で終わるわけではありません。第二の結果が指摘されています。彼は聖なる天使たちの前と小羊の前で火と硫黄で苦しめられるでしょう。多くの邪悪な人々は石で打たれて死に、生き残った人々はその後間もなく起こるキリストの再臨の時に命を失うことになります(黙示録19:21)。このことは、黙示録 19 章の象徴的な言葉で裏付けられています。「私は、獣と、地の王たちと、その軍隊が、馬に乗っている者とその軍隊に対して戦争をするために集まっているのを見た。そして、獣は捕らえられ、偽預言者も一緒に捕らえられ、残りの者たちは、馬に座った者の口から出た剣で殺された。」（黙示録 19:19-21)その口から鋭い剣が出てきたのはイエスです（黙示録 1:13-16）。イエスが馬に乗って地上に来られるのは、イエスの再臨を象徴するものです。「神の口の剣」によって死ぬ者は、この時に滅びる邪悪な者です。そうすれば地球は空っぽになります。預言者は次のように述べています。「空と天とには光がなかった。……わたしが見ると、人はおらず、空の鳥はすべて逃げ去った。」（エレミヤ 4:23-25)義なる死者たちは復活し、生きている者たちとともにキリストとともに天に引き上げられるでしょう。生きている悪人は死ぬでしょう。そして邪悪な死人は再びよみがえることはありません。彼らには「第二の復活」が用意されており、有罪判決を受け、火の湖の刑罰を受けることになる。したがって、イエスは次のように言われます。「最初の復活にあずかった人は幸いであり、聖です。

Machine Translated by Google

第二の死はこれらに対して何の力も持たないが、彼らは神とキリストの祭司となり、千年間神とともに統治するであろう。」（黙示録 20:6）。

聖書は、イエスが二度目に来られてから千年後に、悪人たちが復活し、最後の宣告を受けるために集められると教えています。それから彼らは火の湖で焼かれます。「私は大きな白い玉座とその上に座っておられる方を見た。その御前から地も天も逃げ去った。そして彼らのための場所は見つからなかった。そして、私は死人が大なり小なり玉座の前に立っているのを見た、そして本が開かれた。そして、別の本、それは命の本が開かれ、死者たちはその本に書かれていることによって、その行いに応じて裁かれました。そして海はその中にいた死者を放棄した。そして死とハデスはその中にいた死者を放棄した。そして彼らはそれぞれ彼の行いに応じて裁かれた。そして死と地獄は火の湖に投げ込まれました。これで二度目の死です。そして命の書に記されていない者は火の湖に投げ込まれた。」（黙示録 20:11-21）。

悪人は永遠に燃え続けることはありません。彼らは完全に消費されて死んでしまいます。「見よ、その日は火のように燃え上がる。高慢な者や悪を行う者はみな無精ひげのようになる。そして、来るべき日が彼らに火を放つ、と万軍の主は言われる、そうすれば彼らは根も枝も残らない…そしてあなたは悪者を踏みにじる、彼らは靴底の灰になるからわたしが造るその日にはあなたの足が立つ、と万軍の主は言われる。」（マラ 4:1、3）。「そして彼らはまるで最初から存在しなかったかのようになるだろう」

（オバデヤ書 1:16）。

この時点で、あなたは自問しているかもしれません。「しかし、メッセージのテキストをどう説明すればよいでしょうか？」「あなたの苦しみの煙は永遠に続くのです。」単純。薪がなくなり火が消えると、煙は立ち上り続けます。火事があったという記憶を私たちに与えてくれます。聖書の表現は、悪人の懲罰は永遠に記憶されることを意味します。罪の完全な結果はすべての人の心に刻み込まれ、誰も再び罪を犯したくなくなります。罪は再び立ち上がることはありません。聖書は、いかなる形であれ、悪人が永遠に燃えるなどと考えてはならないと教えています。ユダ書には、ソドムとゴモラの邪悪な都市が「永遠の火の刑罰を受ける例とされた」(ユダ1:7)と書かれています。

彼らは現在のイラク領土に位置していました。そしてそれらは今日まで燃えていません。現場には硫黄の痕跡があるが、火災はなかった。そして、文字通り永遠に煙が立ち上るなどと考えるべきではありません。というのは、創世記は次のように述べているが、「アブラハムは起き上がり、ソドムとゴモラ、そして平地全体を見た。すると彼は見よ、見よ、かまどから出る煙のように土地の煙が立ち上った。」今日、その場所には当時の火の煙は見られません（創世記19:27、28）。黙示録の意味は象徴的です。繰り返しますが、「彼の苦しみの煙が永遠に立ち上る」という言葉は、彼が罪の結果を永遠に覚えていることを意味します。そしてこのため、彼は二度と立ち上がることはありません。

獣とその像を崇拝する者には昼も夜も休みがありません。また、その名のしるしを受け取る者にも休息はありません。によって定められた休みの日

Machine Translated by Google

神は新約聖書で述べられているとおりです。「ある場所で、神は7日目について次のように言いました。そして、神は7日目にすべての働きを休まれました...したがって、神の民にはまだ休息が残っています。安息に入った者は、神が自分の業から休んだのと同じように、彼自身も自分の業から休んだのである。したがって、誰も同じ不従順の例に陥らないように、その安息に入ることを目指しましょう。」
（ヘブライ人への手紙 4:4、9-11）。 「七日目はあなたの神、主の安息日である。あなたも、息子も、娘も、下男も、召使いも、家畜も、門の中にいる外国人も、いかなる仕事もしてはならない。主は六日の間に天と地と海とその中にあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖化されたのである」（出エジプト記 20:10、11）。神が提案された安息の日を拒否する者には安息はありません。

したがって、獣の崇拝者は安息日を拒否することになります。野獣が誰であるかを明らかにするにつれて、その理由が明らかになるでしょう。

第二の天使のメッセージはバビロンの崩壊を非難し、私たちが見たのはカトリック教会でした。黙示録 17 章では、彼女は女性によって表されています。そしてその女は紫と緋色の服を着ており、その額には『神秘、大いなるバビロン』という名前が書かれていた」(黙示録17:3、4)。彼女が座っている獣は彼女の渇きを表しています。「七つの頭は七つの山であり、そこに女は座っている」（9節）。ローマは 7 つの山からなる都市であり、次の預言に示されています。 「ローマはテベレ川のほとりに沿って広がり、パラティーノ、アヴェンティーノ、カンピドリオ、クイリナーレ、ヴィミナーレ、エスクイリーノ、チェリオの7 つの丘で歴史的中心部を構成しています。」 (出典: Wikipedia、強調を追加)。ローマには教皇庁の本拠地であるバチカンがあります。

他国からは独立国として認められており、教皇が国王となっている。預言の中で、教皇たちは獣の頭に例えられます。「七つの頭は七つの山…彼らは七人の王でもある」（黙示録 17:9、10）。獣のシンボル
教皇庁とその長である教皇を表します。第 13 章で説明されているこの獣の他の特徴は、この解釈を裏付けています。

1 - 獣は崇拝されています - したがって、それは宗教的な力を表しています。誰が彼女と戦えるだろうか？」 （黙示録 13:4）。

2 - 獣は聖人たちを迫害して殺し、国々を支配する権威を持っていました。そしてあらゆる部族、言語、国民を支配する力が彼に与えられた」 （黙示録13:7）。

異端審問を設置した教皇庁は、「異端者」として分類した何百万人もの人々の死に責任を負った。あなたの罪は、聖書を読んで従うことです。教皇庁は迫害する宗教権力であり、預言の仕様を成就しました。
したがって、「獣」というシンボルは教皇権を表していると理解されます。したがって、獣の「刻印」は教皇の権威の刻印なのです。それを特定するのは難しくありません。カトリック文献では次のことが確認されています。

Machine Translated by Google

「日曜日は私たちの権威の証です。教会は聖書よりも上位にあり、安息日遵守の移管はその証拠である」 出典 :The Catholic Record、オンタリオ州ロンドン、1923年9月1日（強調と強調を追加）。

「しかし、プロテスタントは、日曜日を守ることによって、教会の代弁者である教皇の権威を受け入れていることに気づいていないようです。」出典: Our Sunday Visitor、Catholic Weekly、1950 年 2 月 5 日号(強調追加)。

日曜日の遵守は教皇の権威の証です。したがって、それは獣の刻印です。ここでは観察が必要です。「獣」は黙示録 13 章では「迫害する」力として表現されています。今日は起こらないこと。かつてはこの特徴と全く一致していたが、現在では教皇は公然と信者の殺害を命令していない。しかし、黙示録 17 章でイエスは、歴史上 8 人目で最後の教皇が再びこの特権を引き受けると述べています。「獣も 8 人目であり、滅びに行く」(黙示録 17:11)*。現在、教皇庁は迫害を行っていません。

したがって、現教皇が獣の役割を果たしているとは言えない。したがって、彼が宣言した日曜日はまだ「獣の刻印」とは見なされません。しかし、最後の教皇が権力を握ると、預言によれば、彼は迫害者になるでしょう。したがって、イエスは「八番目は獣である」と言います。つまり、日曜日は「獣の刻印」となるのです。それは課せられた義務に変換され、それを守ることを拒否した者は中世の信者と同じように獣によって迫害されるでしょう。 「土曜日×日曜日」という休息日に関する問題は、その周囲に生み出される危機のため、当面の話題となり、地球上のすべての人間は意識的かつ情報に基づいた決定を下す機会を得るでしょう。彼らは安息日を守ることで神に従うか、日曜日を守ることで教皇に敬意を表するかを選択するでしょう。

* このトピックは、「The Eighth」という本で詳しく扱われています。黙示録のこの章をよく理解するために読むことをお勧めします。

第三の天使のメッセージに戻ります。彼は、獣の崇拝者には休息がないと言っています。それは、神が与えた安息日ではなく、獣が定めた安息日を受け入れているからです。彼らは、「獣とその像を崇拝する者には昼も夜も休みがなく、その名のしるしを受け取る者にも休みはない」と言うように、彼らは教皇と日曜日を最終的に選択し、土曜日を永遠に拒否するだろう。安息日を守る者が死の危険にさらされることを考えれば、これは容易に理解できます。そのような状況では、キリストへの真の信仰を持たない人は皆、この世での自分の利益を守るために従順の道を放棄するでしょう。しかし、イエスが、ご自分のためにこの地上で命を失った者は、再び命を取り戻すであろう、と言われたことを思い出しましょう。この地上での自分の利益を優先し、ここで生計を立てるためにキリストを捨てる人は、それを失うことになります。

「獣のイメージ」

Machine Translated by Google

画像はオリジナルのコピーです。獣は迫害する宗教勢力を象徴していたので、そのイメージも同様です。私たちは第二の天使のメッセージの中で、他の教会が日曜日を安息日として教えていることを見ました。これは特にプロテスタントと福音派に当てはまります。そうすることで、彼らは教皇制度を模倣しているのです。第三の天使は、彼らがさらに前進し、反体制派に対する教皇庁のやり方を模倣することを示唆しています。彼らは政府に影響を与えて、かつてと同じように宗教的教義を押し付けるようになるだろう。法王が判決を下し、国家が刑を執行した昔の異端審問法廷が、プロテスタント教会主導で現代版で再現されることになる。今はこれらすべてを信じるのが非常に難しいように思えるかもしれませんが、人間が神の真理と神の御霊の影響を拒否すると、非常に残酷になることは確かです。

第三の天使は、獣の崇拝者も彼の像を崇拝することを示しています。カトリックもプロテスタントも同じことを説くので、権威の証しも同じになるからです。休みの日、つまり人間の権威によって定められた日曜日と、神によって定められた土曜日の問題が、大きな論争のポイントとなるでしょう。彼を通して世界は二つの階級に分けられるだろう。教会と国家の高官たちは団結して賄賂を贈り、転覆させ、あらゆる階級の人々に人間が定めた日に降伏するよう強制するだろう。しかし、第三の天使の警告は地球全体に響き渡り、神の戒めを踏みにじることの恐ろしい結果を明らかに宣言するでしょう。この霊的な戦いの最中に、各人は最終的な決断を下し、正義の人も邪悪な人も、歴史上最も待ち望まれていた出来事であるイエスの再臨を目撃する準備が整います。その大切な日、あなたはどちらの側になりますか？毎日のあなたの選択が、紛争の終わりにあなたの立場を決定します。

彼らがイエスとともに賢く、その戒めに従順でありますように。

第三の天使のメッセージは、終わりの日に神に選ばれた教会がどうなるか、そしてその会員の特徴を示して終わります。彼女に会いたいですか？このコレクションの次の本、『終わりの日の神の真の教会とは何ですか』を読んでください。

第 6 巻: 5 番目の偉大な真理: 終わりの日の神の真の教会とは何ですか?

「ここに聖徒たちの忍耐がある。ここに神の戒めとイエスの信仰を守る人々がいる」黙示録 14:12。

神の戒めは、神がシナイ山でモーセに自らの指で石の板に書かれたものです。これを、新約聖書に示されている律法の概要（神と隣人を愛せよ）や、キリストが述べた「新しい戒め」（互いに愛しなさい）と混同しないようにしましょう。創世記から

Machine Translated by Google

黙示録によれば、聖書は神が与えた唯一の戒めは出エジプト記 20:3-17 の十戒であると教えています。

この戒めは紀元前 1450 年頃にシナイで与えられましたが、ずっと前から知られていました。第四の戒めである安息日は、地球上に罪が存在する前でさえ、創造の週にすでに現れています。彼はやったのだ。

そして神は七日目を祝福し、それを神聖なものとした。なぜなら、彼は神によって創造され造られたすべての働きから休んだからである。」（創世記 2:2、3）。シナイ山では、神は人間に次の戒めを思い出すように命じられます。「安息日を忘れず、それを聖く保ちなさい」（出エジプト記 20:8）。シナイの約500年前、アブラハムは律法を守りました。「アブラハムはわたしの声に従い、わたしの命令、わたしの戒め、わたしの法令、そしてわたしの律法を守ったからである。」（創世記 25:6）。詩篇作者は、戒めは永遠に残ると宣言しました。「神の手の働きは真理と裁きであり、神の戒めはすべて確かである。彼らは世々限りなくしっかりと立っています」（詩篇 11:7、8）。イエスは、律法を無効にするために来たのではないと言いました。むしろ、それは天が続く限り存続することを願っています。本当にあなたに言いますが、天と地が滅びるまで、すべてが成就するまでは、一銭も一銭も律法から外れることはありません。」（マタイ 5:17、18）。パウロは、イエスが律法を成就されたので、私たちもイエスの例に倣って律法を成就した、と述べました。それは、肉に従ってではなく御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の義が実現するためです。」（ローマ 8:3、4）。また彼は、新しい契約においても、戒めは古いものと同じように有効であると述べた。そしてユダの家と新しい契約を結んだ。わたしが彼らの手をとってエジプトの地から連れ出した日に、彼らの先祖たちと結んだ契約によるものではない。彼らはわたしの契約に留まらなかったので、わたしは彼らに注意を払わなかった、と主は言われる。

これが、その日の後にわたしがイスラエルの家と結ぶ契約である、と主は言われる。わたしはわたしの律法を彼らに理解させ、彼らの心の中に書き記すであろう。」

（ヘブライ人への手紙 8:8-10）。

古い契約は十戒でした（申命記 4:13）。指導者と民は戒めに従わないことを決めたため、神の契約に従って歩まなかったのです。したがって、神はそれらを再び人間に提示し、それを「新しい契約」と呼びました。それは、かつて裏切られた夫が妻を許し、忠誠の誓いを新たにした後、同じ結婚指輪を指に戻すようなものです。契約も同じです。それは人間と神との間の同じ約束を扱っており、現在はイエスを信じる者たちとの間で再確立されています。

パウロはまた、次のように宣言しました。「あなたは律法の下ではなく、恵みの下にあるのですから、罪はあなたを支配することはできません。だから何？私たちは律法の下ではなく恵みの下にいるからといって罪を犯してしまうのでしょうか？全くない。"そして、「罪は律法に違反することです。」真に恵みの王国の下にいる人は誰でも資格を持っています。

Machine Translated by Google

法を犯さない精神。恵みの主体は神の戒めに従います（ローマ人への手紙 6:14、15、Iヨハネ 3:4）。

パウロや他の聖書筆者たちと同じように、ヤコブも私たちは「法によって裁かれる」だろうと述べています。そして彼は次のように説明しました。 「律法全体を守りながら、一点でつまずく者はすべての罪を犯したことになります。というのは、「姦淫してはならない」と言う者は、「人を殺してはならない」とも言ったのである。姦淫をせずに人を殺したなら、あなたは法律違反者です。」 （ヤコブ 2:12、10、11）。そして最後に、ヨハネは黙示録で、天からの天使が終わりの日の神の教会として指している人々を、 「神の戒めを守る人々」 （黙示録14:12）と描写しています。

末日聖徒はアダム以来のあらゆる時代の聖徒と同様に戒めを守るでしょう。彼らはまた、イエスがこの地上にいたときに持っていた信仰を持つでしょう -
イエスの信仰。したがって、十戒とイエスの信仰は、いわば神の聖徒たちが手にする「旗」なのです。信仰による従順の経験。大きな課題は、この経験をどのように達成するかにあります。これを理解することは、天国への扉、永遠の命への扉を見つけることに等しい。野獣とそのイメージに対する勝利への道を見つけるために。次は一緒に考えてみましょう。

戒めを守る

黙示録では、獣が海の砂の上に立っているのが見られますが、これは獣に騙された多くの邪悪な人々を象徴しています。 「サタンは...地球の四隅にある国々を欺くために出て行く...その数は海の砂のようだ」 （黙示録 20:7、8）。
サタンが獣に「自分の力と権威」を与えたことを思い出してください（黙示録 13:2）。獣は彼が使う欺瞞の道具です。それらに騙されない者は獣、ひいてはサタンに勝つでしょう。真実に歩む人たち。詩篇作者はこう言います。 「あなたの律法は真理です」 （詩篇 119:142）。十戒の律法に従う者だけが欺瞞から自由です。これが、黙示録の第三の天使が、獣とその像の崇拝について警告を与えた後、神の戒めを守る人々、つまり悪魔の欺きの力に支配されていない唯一の人々を真の神の民であると指摘している理由です。獣はイルミナティとピラミッド型権力構造全体を指揮しているので、悪魔の目を持つピラミッド、つまり私たちが住んでいる「マトリックス」は、その力から自由であり、したがって戒めに従うということは、システムの外側にいることを意味します。ピラミッドと関連シンボルは、銀行、自動車メーカー、フリーメーソン、ミュージックビデオや歌手のショー、スポーツイベント、有名なテレビや YouTube などのインターネットチャンネル、さらには教会のロゴなどで見られます。聖書が次のように述べているのには理由がないわけではありません。世を愛する者がいれば、その人の中に父の愛はありません」ヨハネ第一 2:15。 「そして、私たちが神の戒めを守ること、これが神の愛です」ヨハネ第一 5:2。ここから、世界とその虚栄心とのつながりをすべて断つ人は戒めを守ることがわかります。

Machine Translated by Google

私たちが天国を望むなら、私たちの生活の中で神の十戒に従わないものはすべて捨てなければなりません。戒めを守るための最初のステップは、世と個人の間違いを憎み、それらを喜んで放棄することです。

神は、その意志に反して人を変えることはありません。ヨシュアは主に霊感を受けてこう言いました。 「今日、誰に仕えるかを選んでください...しかし、私と私の家は主に仕えます。 」ヨシュア24:15。そして、私たちが世界を混乱させるとしても、それは神がすでに御霊によって私たちの心の中で働いておられるからであることを私たちは知ることができます。聖霊の働きはこの世に罪を認めることだからである(ヨハネ16:8)。言い換えれば、救いの働きは神の主導で始まるのです。神はイエスに聖霊を与え、イエスは天使たちを通して聖霊を送り、私たちの良心に触れるのです。しかし、自分の間違いを確信し、神に同意し、人生を変えるという神の呼びかけを受け入れることができるかどうかは、私たち次第です。

新しいコンサートの約束

神は、 「わたしはわたしの律法を彼らの心に入れ、彼らの思いに書き記す」と約束されました（ヘブル10:16）。理解して書くということは、戒めが公平であり、従うことが私たちにとって最善の道であると自分自身を納得させることを意味します。
心に文字を書くことで、私たちは主に従うことが好きになります。神は聖霊によって両方のことを行われます。御霊が私たちの良心に罪を確信させるとすぐに、神は彼らに正義を確信させ始めます(ヨハネ16:8)。間違ったことをすることを考えるときに「良心の呵責を感じる」ようになったことで、今では従順の道を歩む動機と力が与えられています。私たちは神に仕えることを選び、神は私たちに必要な助けを与えてくださいます。これが戒めを守る方法です。したがって、私たちには全能全能の神が私たちの助け手であると考えるなら、従うことは難しくありません。ヨハネは、神の戒めは重荷ではないと述べています(1ヨハネ5:3)。彼にはこんな経験がありました。彼は神に自分の人生を導き、助けてもらうことが何を意味するかを知っていました。イエスは、 「わたしは世の終わりまで、いつもあなたとともにいます」と言われました。

（マタイ 28:20）。父親が道を渡る前に手を差し伸べて息子に握手を求めているように、イエスも私たちに向かってそうしてくださいます。イエスは私たちの父である神の代表であり、常に私たちとともに歩み、手を私たちに差し伸べて、問題の真っただ中で困難な道を渡れるように私たちを導いてくださるようにと神にお願いしています。それは猛烈な車のように高速で線路に沿って移動します。 「トラフィック」は重くなる場合があります。ラッシュアワーかも知れません。しかし、父なる神の見えざる手にすがりながら、私たちは必ず無事に向こう側に辿り着くことができるでしょう。

もしかしたら、私たちは幼い子供のように、車の上から次の車の後に車線を横断できる空きがあるかどうかを確認することができないのかもしれません。しかし、神は見て、知っています。
私たちが神を信頼し、神が「来なさい！」と言われるまで待っていれば、すべてうまくいくでしょう。

従順をある点まで固めて、もはや動かされないようにすることによって、私たちは戒めを守ったと言えるでしょう。これが「守る」という言葉の意味です。それは、紛失しないように、安全に保管し、大切に保管しています。聖書の意味では、それは、人も悪霊も、私たちを動かすことができないように、倒れないように神にしっかりとしがみつくことを意味します。イエスは、ご自身の揺るぎない従順と神への愛着に言及して、「わたしは父の戒めを守り、父の愛の中に留まっています」と宣言されました（ヨハネ15:10）。

Machine Translated by Google

神は、私たちが神の律法のある点をすでに同化して遵守していることを確認するとき、これまで知られていなかった別の点を私たちに明らかにします。それは私たちを説得し、従う力を与えるプロセスを続けます。このプロセスは「聖化」と呼ばれます。聖霊を受けるのに比例して、私たちは聖化されます。そしてそれは続きます。私たちの人生は、私たちの性格が浄化され美化されるこの絶え間ないプロセスの中で行われます。神が機能し、私たちは協力し、そのプロセスに身を委ね、私たちの人生に対する神の指示と意志を受け入れます。神から与えられた従う力を利用するのです。私たちは常に従う力を与えられていますが、時々イエスから目をそらして転んでしまうことがあります。私たちは御父の手を放し、一人で渡り続けたいと思っています。それから私たちはつまずいて線路に落ちました。私たちは傷つきます。このようなことが起こっても、神はご自身の霊によって私たちの中で働き続けます。

イエスは天で私たちのために執り成し、神は「言い表せないうめきをもって」私たちの心の中で執り成してくださいます(ローマ8:26)。神は私たちを霊的な困難から救い出してくださるように祈りたいという願いを私たちの心に入れてくださいます。そして、私たちが再び招きを受け入れるまで、私たちの心に誠実さがあれば、イエスは私たちのために執り成してくださいます。心の中で霊の働きを完全に拒否していない人は皆、キリストのとりなしの恩恵を受けます。 「もし誰かが罪を犯したとしても、私たちには父なる神の弁護人、義なるイエス•キリストがいます。」 （1ヨハネ2:1）。そして、私たちが最終的に霊の印象に屈すると、聖化のプロセスが再び始まります。

ほとんどの人にとって、そのプロセスは男性が息を引き取り、墓に眠るときに終わります。パウロは人生の終わりにこう宣言しました。 「私はよく戦いました、自分の歩みを終えました…これからは義の冠が私に用意されており、義なる裁判官である主がそれを与えてくださるでしょう」あの日の私。そして私だけでなく、彼の出現を愛するすべての人たちにも」 （IIテモテ4：7-9）。しかし聖書は、ある集団にとって、霊の働きは生きている間に最終的な目標を達成できると教えています。これは、彼らが神によって特に特権を与えられた人々のグループであることを意味するものではありません。彼らは、生きている間に最後の罪を取り除くまでに、神の働きが自分たちの生活の中で深まることを許すだけである。先ほど、クリスチャンが神に従うという選択を一時的にやめたときに何が起こるかについてコメントしました。クリスチャンは、道に戻るまでキリストのとりなしを頼りにします。クリスチャンがその道を進むと、神に対してますます堅固になり、つまずくことは少なくなります。さて、神とキリストへのこれまで以上の絶え間ない服従を通じて、何ものも彼らを動かして正義よりも悪を選択させなくなる地点に達する人々に何が起こるかを考えてみましょう。この場合、たとえキリストが聖所で執り成しをしなかったとしても、彼らにとっては問題にはなりません。キリストのとりなしは、過ちを犯した者たちのためにあるからです。 「健康な人には医者は必要ない」 (ルカ5:31)と彼は言いました。彼らは仲介者なしでも地球上で生きていけるようになるでしょう。キリストが働きをやめるとき、最後の七つの災いが地上に降りかかる(黙示録15:1、16:1)。この時、神の怒りは悪人たちに注がれます。

そして、このグループの人々はこの期間中、地球上で生き続けるでしょう。黙示録では、彼らは非の打ちどころのないものであると指摘されています。彼らは14万4千人です（黙示録14：1-5）。十戒を守り、神の御霊の導きに完全に従順な人たちです。彼らは、キリストに服従する人々の中で神の恵みが何をなし得るかの証人として残り続けるでしょう。

Machine Translated by Google

疫病が去った後、彼らは大きな報いを受けるでしょう。人生において罪を犯すことをきっぱりとやめた人は、再び神の顔を拝む準備ができています。アダムが罪を犯す前にそうしたように。人間が創造主との個人的で目に見える交わりを失ったのは、不従順のせいだけです。そうすれば、彼らは死を見ることなく神のいるところへ連れて行かれる立場になるでしょう。エノクとエリヤの場合も同じでした。 144,000人が死を見ることなく天国に引き上げられるのはこのためです。あなたも私もこの条件を達成すれば、その偉大な日に生きて、死に対する勝利を共有することになります。 「見よ、私はあなたに謎を言います。私たちは皆眠っているわけではありませんが、最後のラッパの音で、一瞬のうちに、一瞬のうちに、私たちは皆変わります。トランペットが鳴り響くから…そして私たちは変えられるからです。なぜなら、この堕落する者は朽ちない者を着なければならず、この死ぬべき者は不死を着なければならないからである。そして、この堕落する者が朽ちない者を着、この死すべき者が不死を着るとき、書かれている言葉は成就するだろう、「死は勝利に飲み込まれる。」 (Iコリント15:51-54)。アーメン !ハレルヤ！

神の契約: 信仰 - 人間の役割

パウロは、私たちが信仰によって救われると書き、さらにこう付け加えています。 「これはあなた方自身によるものではありません。神の賜物です」 （エペソ人への手紙 2:8）。信仰は「望んでいる事柄の本質であり、目に見えない事柄の確信」です（ヘブライ11:1）。私たちの中に神への信仰と信頼を置いてくださるのは神です。どちらも神との触れ合い、友情の成果であり、私たちは友人の言葉を信じ、これは共存の成果です。そして私たちはイエスと神とともに生きることができるのです。私たちは注意を払えば、イエスが近くにいることに気づくことができます。
私たちを危険から救い、危害を加えないようにしたり、問題についてよく考えて正しい決定を下せたりする「突然の」アイデアに何度出会ったことでしょう。良心の声は毎日私たちに語りかけ、イエスが常に準備ができていることを示し、私たちの父なる神のアドバイスを私たちの心に伝えます。それに従って成功することで、私たちは人生において神の御霊の導きに従うよう自分自身を励ます。次回。聖書はこの経験を次のように描いています： 「行いによって信仰は完全になった」 (ヤコブ2:22)。私たちの多くが、死亡事故、強盗、その他の危険から奇跡的に救われたことを実感する瞬間は言うまでもありません。受けた恵みに感謝し、神が自分たちの守護者であることを認め、神への感謝の言葉がどれほど多くの口から出てくることでしょう。そして、聖書の一節を黙想した後、そこに書かれている真理の強さに心を打たれることが何度もあったことを私たちは忘れることができませんでした。

その日の問題は取るに足らないレベルまで下がり、ヒマワリが太陽の後を追うように、私たちは自然に助けを求めて神に立ち向かうのです。聖書のローマ人への手紙10章17節にあるように、信仰は神の言葉を聞くことによって生まれました。これらすべての経験は、神との接触が信仰を生み出し、増大させるという本当の証拠です。そして神には聖霊という直接的な道があり、それを通して私たち一人一人の心に届きます。したがって、神に触れたことがあるとは誰も言えません。

そして、この接触を通じて、彼は信仰の賜物を与えられなかったのです。神の力を信じ、信頼することで、私たちは常に神に従うことができます。パウロは、 「わたしを強めてくださる方によって、わたしはどんなことでもできる」 （ピリピ4:13）と言いました。

Machine Translated by Google

イエスの信仰

神の賜物は神の信仰ではありません。神は人間の肉体を持った御子を送り、人間の信仰によって勝利を収めました。そして神は私たちをこの信仰、つまりイエスの信仰に与らせてくださいます。
パウロはこう言いました。 「生きているのはもはや私ではなく、キリストが私の内に生きておられるのです。そして私が今生きている人生は、神の御子への信仰によって生きています。」 （ガラテヤ人への手紙 2:20） 「ここに、イエスの信仰を持つ聖徒たちの忍耐がある。」 （黙示録 14:12）イエスの信仰に失敗はありません。彼の信仰は「弱い」ものではありませんでした。彼女は完璧で、いつも強かった。神にとっては、それを通してどんな奇跡でも行い、どんな状況でも戒めに従うよう強めるのに常に十分である。この信仰は、人々が救われるために人々に提供される賜物です。

私たちはイエスの完全な信仰を与えられているので、それを受け取るときはいつでも、神に完全に従います。新しく生まれた人は誰でも、洗礼によって「従順な」信者として生まれます。神に対して「不従順な信者」などというものは存在しません。また、「信仰が弱い」信者もいません。欠陥を信仰のせいにするということは、欠陥を神から与えられたイエスの完全な信仰の賜物に帰して自分の罪を正当化することを意味します。しかし、私たちは欠陥のある信仰を受け取っているわけではありません。神は壊れたおもちゃを子供にプレゼントするような父親ではありません。いいえ、彼はまずそれをテストし、それが機能するかどうかを確認し、何か新しいものを提供します。これが神が信仰の賜物に関して行ったことです。まず、神はそれを御子、つまり人間キリスト•イエスの中で試しました。神は御子を最も厳しい試練にさらしましたが、その試練は他の人が決して受ける必要のないほど厳しいものでした。なぜなら、イエスは全世界の罪の重荷をイエスの上に負われたからである（イザヤ書53:6）。地獄の力がこれほど団結し、これほどの力で他の人間を攻撃したことはかつてなかった。なぜならサタンは、このキリストとの戦いにおいて自分にとってすべてがかかっていることを知っていたからである。そこで勝利すれば人類全体を決定的に支配できるようになる。しかし、神が人間キリスト•イエスに与えた信仰は、その試練に耐えました。イエスは見事に勝ちました。 「この世の君主が近づいてくるが、彼はわたしのうちに何も持っていない」 （ヨハネ14:30）と彼は言うことができました。イエスのうちには、ほんの少しでも神の戒めに違反するようにサタンが頼ることができるものは何もありませんでした。イエスに与えられた信仰の賜物は試され、承認されました。

イエスの信仰は完璧な賜物であり、「天の計量研究所からの品質の証」が付いた賜物であることが判明しました。したがって、私たちがイエスのような厳しい試練に遭うことは決してないので、イエスの信仰が私たちを罪から遠ざけるのに十分でなくなるということは決してありません。私たちが受け取った信仰の賜物に欠陥があるとして、それを「信仰が弱い」と正義を持って非難できる状況はありません。そして、この言い訳が禁止されると、それは神に対する侮辱ですらありますが、不従順は信仰の欠如、つまり「不信仰」によってのみ起こり得ることを事実として認識することになります。これは聖書的なものです。神は不従順を不信仰と同一視します。

そして、彼らは不信仰のために中に入ることができなかったことがわかります。」 「信仰から出ていないものはすべて罪です」 （ヘブライ人への手紙 3:18、19、ローマ人への手紙 14:23）。

信仰は御言葉を聞くことによって生まれます

Machine Translated by Google

私たちに与えられた信仰の賜物に失敗はないのに、信者が試されると不従順に陥ることがなぜ頻繁に起こるのでしょうか。これは 2 つの理由で発生します。 1つ目は、その状況下での神の御心が無知であるためです。この場合、彼はキリストのとりなしの恩恵を受けています。このとりなしはまさにこの種の間違いに対して与えられています。 「もし私たちが光の中を歩むなら…御子イエス• キリストの血が私たちをすべての罪から清めてくれるのです」 （ヨハネ第一） 1:7）。私たちが意識に届いた霊的な光の中を歩むなら、それは理解できます。主がこれまでに戒めについて私たちに教えてくださったことによる。私たちの良心が私たちを何も非難しないのであれば、イエスの血は無知で犯したすべての罪から私たちを清めます。もう一つの理由、二番目は、彼が神の約束を覚えておらず、神の御心に留まるために頼るものが何もないからです。それで、彼は結局、自分なりの方法で、つまり肉に従って状況を解決したいと思うようになります。彼はその状況で神が自分に何を期待しているかを知っていましたが、聖書の研究と祈りが欠けていたため、神はそのような状況で彼に道を与えると約束していました。

聖書が 1,000 ページを超える理由の 1 つは、まさに、人が人生で遭遇するすべての状況を網羅できるからです。したがって、各瞬間に適切なガイダンスがもたらされます。それらを知るためには、人は御言葉を学ばなければなりません。この部分は彼次第だ。神は今日まで聖書を保存しようと努められました。それらを研究するかどうかは人間次第です。たとえ別のバージョンで翻訳が不十分な箇所があったとしても、聖書全体は引き続き一貫性を保っています。創世記から黙示録に至るまで、どんなテーマでも学ぶことで、正式な教育をほとんど受けていない素朴な人でも、真実に到達することができます。したがって、自分の間違いを正当化するために、聖書で教えられている真理を理解するための条件が欠如していると主張する人は誰もいません。天国への確かな道を見つけたいと心から願う人は、熱心に勉強することでそれを見つけることができます。イエスはこう言われました。 「あなたは聖書を調べます。聖書の中に永遠の命があると思うからです。」 （ヨハネ 5:39）

みことばの学習は、信仰の賜物を受け取ることと完全に関連しています。 「信仰は聞くことによって生まれ、神の言葉を聞くことによって生まれます。」 （ローマ人への手紙 10:17）。御言葉を通して私たちは神とその御心と約束を知ります。したがって、それを通して私たちは神との友情の関係、そして神の統治の原則を育むことができます。それを学ぶことによって、神は私たちにイエスへの信仰を与えてくださいます。神の言葉を毎日熱心に研究する人は神によって強められ、問題に直面したとき、神は御霊によって彼に思い出させ、読んだ内容を正しく解釈させてくださいます。ですから、彼は神を喜ばせるために何をしなければならないかを知っています。私がこれについてコメントするのは、神の御心を知ることは必ずしも簡単ではないように思えるからです。私たちが人生で直面するすべてのことが、盗むか殺すか、姦淫するかしないかなどの選択としてすぐにわかるわけではありません。私たちは非常に複雑に見える状況に直面しています。夫婦関係、親子関係、仕事関係など、私たちは戸惑う場面に遭遇することがあります。怠慢または表面的な聖書研究者は、そのような状況で神のご意志を誤解し、サタンの罠に陥ることがよくあります。しかし、創世記から黙示録に至るまで神の御心を知っている勤勉な学生は、正しく識別し、期待どおりに行動して従順の道を歩み続けることができるでしょう。私たちが直面するさまざまな状況

Machine Translated by Google

人生の流れは私たちにとって無限であるように見えます。しかし神は、その知恵によってそれらすべてを聖なるページに載せました。

信仰の尺度

聖書には、神は各人に「信仰の尺度」を与えたと書かれています。しかし、これを扱うとき、彼は聖化のための信仰ではなく、預言への信仰について言及しています。 「わたしたちに与えられた恵みに応じて、それが預言であれば、あるいは信仰の尺度に応じて、異なる賜物を持っています。」 （ローマ人への手紙12:3,6）。預言は、教会の啓発のために、神の御霊の注ぎによってイエスによって与えられた賜物の一つです。それはすべての人に与えられるわけではありません。なぜなら、イエスは、その人およびその影響範囲内の人々の利益のために、最も都合がよいと理解されることに応じて、各人に贈り物を与えるからです（Iコリント12:11）。誰もが預言者になれるわけではありません。 「もしかして……彼らは全員預言者なのでしょうか？」 （ Iコリント 12:28-30）。しかし、さまざまな霊の賜物を持っていても、すべてが神聖化されます。 「そして神ご自身、ある者を使徒として、ある者を預言者として、ある者を伝道者として、またある者を牧師や教師として与え、宣教の働きのため、またキリストの体の徳を高めるために、聖徒を完全にすることを望んでおられました。私たち皆が信仰の一致に達し、神の御子を知り、完全な人間となり、キリストの身長に匹敵するまでに至るまでである。」 （エペソ人への手紙 4:11-13）

未来に関する預言を他の人よりも信じるのが難しい人々がいますが、それは彼らが神聖化されていないという意味ではありません。彼らの多くは、預言を信じるほとんどの人よりもクリスチャンとして優れた証言をしています。

したがって、彼らは、自分たちが聖化のために受けた信仰が他の人が受けた信仰よりも劣っていたり、程度が劣ったりするものではないことを証明しています。神が聖化のために私たちに与えてくださった賜物であるイエスの信仰は、イエスの場合と同様に、私たちの中に従順を生み出すのに完全で十分です。そしてそれは誰にでも分け隔てなく与えられています。それは、神がそれを受け取った人々に分配した「信仰の尺度で」行使される預言の賜物とは異なります。言い換えれば、預言に関して言えば、信じた者は信じた範囲で説教するのです。

そのとき、神の子たちの中で、ある預言を説く者もいれば、そうでない者もいるだろう。預言の説教者の中でも、「信仰の尺度において」他の人よりも詳しく述べる人がいるかもしれません。しかし、神は聖化を目指して、 「キリストの賜物」という尺度ですべての人に信仰を与えます。それは、イエスの完全な信仰であり、それは私たちが主の戒めをすべて守るために私たちに与えられたものです（エペソ4:7）。

したがって、信仰の賜物は常に完全な従順を可能にするので、真の信者は神の約束についての知識が深まるほど従順になります。天国に入る人は皆、条件を満たしているので天国に入るでしょう

神の戒めから受けた光に完全に従順でした。誰もが同じ信仰を受けました。しかし、あなたの従順の尺度は異なります。それは、この地球上で得られ、適用された神の意志の知識に比例します。

Machine Translated by Google

信仰の実証

信仰告白と本物の信仰には違いがあります。悪魔でさえ信仰を告白します。 「悪霊たちも信じておのの く」 （ヤコブ2:19）。しかし、彼らには神から与えられた信仰の賜物がありません。人が救いのために「イエスの信仰」という賜物を受けたことはどのように証明されるのでしょうか。彼が神に従うかどうかをチェックする。なぜなら、これまで見てきたように、この信仰によって常に信者は従うことができるからです。ですから、信仰があれば従順もあるのです。従順がなければ信仰は存在しません。不信仰が代わってしまいました。ヤコブは、アブラハムの従順の業を通して、 「彼女は完全にされた」と述べています（ヤコブ2:22 - シプリアーノ•デ•ヴァレラ訳、1865年）。意味は、「それが完全であることが証明された」、または「信仰が真実であることが示された」です。このことは、彼が次に提示する結論によって証明されています。 「行いのない信仰は死んだものである」 (ヤコブ 2:24)。誰が信仰を持っているか言え。 「私は信じます」と叫んで神に従わないのは、虚偽の発言をすることになります。

使徒パウロによると、人は律法の行いがなくても信仰によって義とされ、赦されますが、この同じ信仰が人の心に律法をもたらします。それは、人間の精神的な家、つまり精神の新しい住人として、それを心の中に確立します。以前は存在しなかった場所です。だからこそ彼は次のように書いている。 「それでは、私たちは信仰によって律法を無効にするのでしょうか？決して～ない！むしろ、私たちは律法を定めたのです」 （ローマ人への手紙第３章３１節）。アブラハムと他の罪深い人間は、彼の行った行いによって神の前に義と認められませんでした。しかし、「イエスの信仰」の賜物を受け、この信仰によって義とされた人は皆、従順の業を生み出します。そして、救いのための信仰はイエスの完全な信仰以外にないので、もし誰かがすでに知っていることに従って神に従わないなら、天国への希望は無駄であると言うのは真実です。信仰によってのみ天国に入ることができます。不従順は信仰がないことの確認です。したがって、神の十戒に意識的に従わない人は天国に入ることができません。誰もが自分の知っていることに従って判断されます。誰も、何も知らなかった、あるいは生涯を通じて何も知ることができなかった神の命令に従う必要はありません。しかし、信仰の賜物を受け取った人は、良心に届くすべての光に従順になります。信者は「神がイエス•キリストによって人の秘密を裁かれるその日に、自分の心に書かれた律法の働きを示し、自分の良心と自分の考えとともに、自分を告発するか弁護するかによって証しするのである」 （ローマ2:15 ） 、16）。したがって、私たち信者全員が「信仰と正しい良心を保ち、ある人たちが信仰を破滅させたものを拒否して」前進できますように（ Iテモテ２：１９）。

信仰の確かさ

聖書は、キリスト•イエスという人間の信仰に植え付けられた「確かさ」を示しています。彼女はとても堅実で完璧だったので、負ける可能性など一瞬たりとも考えなかった。イエスは、人生最大の葛藤に直面したときでさえ、神がご自分を守ってくださるという絶対的な自信を表明されました。そしてまた、サタンと罪に対する神の勝利に関する聖書の約束が成就されるということです。彼の発言のいくつかはこれを示しています。ゲツセマネ、不公平な裁き、そしてカルバリの苦難を目の前にしたとき、彼は必ず勝利するという完全な確信を示しました。

Machine Translated by Google

彼は天に昇ってこう言いました。しかし、彼らは世にいるので、わたしはあなたのところに行きます」 （ヨハネ17:11）。その少し前に、イエスは事前に次のように勝利を宣言されました。わたしは世に勝った」 （ヨハネ16:33）。イエスは、ラザロがすでに死んでいたときでさえ、神がラザロの生涯に働いてくださるという確信を宣言し、弟子たちにこう言いました。「私たちの友人であるラザロは眠っていますが、私が彼を眠りから起こしてみましょう。」そしてマルタには、 「あなたの兄弟は復活します」 （ヨハネ11:11、23）。逮捕の数日前、イエスは自分の勝利と調停者としての働きの終わりを予期し、栄光のうちに到来することを次のように予言した。彼の栄光の玉座に座ってください。そうすれば、すべての国々が彼の前に集められるであろう」 （マタイ 25:31、32）。イエスの命を脅かすかに見えた嵐の真っただ中で、イエスは恐れることのないご自身を示され、地上での務めを果たすまで神がご自身を生かし続けてくださるという完全な確信を持っていました。 「波が船の上に上がり、船はすでに水で満たされていました。そして彼は船尾でクッションの上で眠っていました。そこで彼らは彼を起こして言いました、「先生、私たちが滅んでも構わないのですか？」そして彼は目を覚まして風を叱責し、海に向かって言いました：「静かに、静かに」。そして風も静まり、とても静かになりました。そしてイエスは彼らに言った、「なぜあなたがたはそんなに臆病なのですか」。まだ信仰がないのですか？」 （マルコ 4:37-40）。

イエスは時々、 「私が今、それが起こる前にあなたがたに告げたのは、それが起こったときに信じられるようにするためです」 （ヨハネ14:29)と言われました。そして、私たち信者が受け取ったイエスの信仰は、今日、私たちを、獣とその像に対する神の民の勝利の約束を信じるように導くでしょう。勝利を信じ、どんな状況であっても悪魔の餌食になることを恐れない。イエスの信仰によって、私たちは今日、黙示録の天使によって任命された、終わりの日の神の民の一員となることを知っています。 「神の戒めを守り、イエスへの信仰を持つ」人々

（黙示録 14:12）。そして、信仰を完全に確信して、私たちはあらゆる「国、部族、言語、民族」の人々を招き、人であるキリスト•イエスから同じ信仰の賜物を受け取り、彼らもまた世と肉の征服者となることができるようにします。そして悪魔。このようにして、望む者は皆、この福音、この良いたよりを受け入れて勝利する者のグループに加わることになります。 「そして、御国のこの福音は、すべての国民への証人として全世界に宣べ伝えられ、その後、終わりが来るのです。」（マタイ２４：１４）。アーメン、さあ、主イエスが来てください！

Machine Translated by Google

6番目の偉大な真理 :神の真の安息の日 - イエスが尋ね方を知らない人々を癒す日 - 土曜日

今日、クリスチャンを自称するほとんどすべての人が、宗教的な目的で週の最初の日を守ります。しかし、必ずしもそうではありませんでした。日曜日を守る人が誰もいなかった時代がありました。アダムとイブを創造した翌日、 「神は7日目に自分が行った働きを終え、7日目に自分が行ったすべての働きを休んだ。そして神は七日目を祝福し、それを神聖なものとした。なぜなら、彼は彼の中で、神が創造し創造したすべての働きから休んだからである。」 （創世記 2:2、3）。そして、当時地球に唯一住んでいた最初の夫婦は、神とともに安息日を休み、聖別しました。

その後、アダムとエバは罪を犯しました。その後、彼らには子供が生まれました。彼ら全員が神に従うことを決めたわけではありません。彼の長男カインは弟アベルを殺し、神に反逆しました。彼は最初の反逆者となり、子孫を不従順の道に導きました。その後、アダムにはセツという別の息子が生まれました。 「そしてセトにも息子が生まれました。そして彼は自分の名前をエノスと呼びました。それから人々は主の御名を呼び始めました。」 （創世記 4:26）。その後、世界は 2 つのグループに分けられました。「神の子」と呼ばれる創造主を崇拝し仕える人々と、創造主の権威を受け入れず自ら統治しようとする反逆者たちです。そして聖書は、それがどの時代においてもそうであり、そしてこれからも終わりの時まで続くと教えています。彼らは自分たちが神の子であり神の臣民であることを認識していなかったので、「人の子」と呼ばれました。

「そして、地上で人間が増え始め、彼らに娘たちが生まれたとき、神の子たちは人間の娘たちが美しいことに気づきました。そして彼らは自分たちが選んだ者全員の妻を自分たちで娶ったのです...」そして神の子供たちと反逆者との結婚の結果、悪が非常に増殖し、地球上には真の宗教を代表する者がほとんどいなくなってしまったのです。 「そして主は、人間の邪悪が地上に蔓延しており、人間の心の思いを想像することは常に悪でしかないことをご覧になった。」 「しかし、ノアは主の目に好意を得た」 （創世記6:1-5、8）。神はノアを通して世界に慈悲のメッセージを伝え、洪水の時が来たときに生き残っていた8人、つまりノアの家族が滅びから救われました。神は彼を通してご自身の意志の知識を保たれました。そして洪水の後、神は人類に新たな始まりを与え、アダムとイブのように、ノアによって明らかにされた神の意志に従うことができ、ノアの家族は地球に再住することになりました。

しかし、洪水後の物語の最初のページが展開し始めるとすぐに、人々は再び2つのクラス、従順なクラスと不従順なクラスに分けられました。

ノアの末の息子ハムの子孫は、カインの道をたどることを決意しました。彼の孫であるニムロデは、名前が「反逆者」を意味し、神と戦い、両親の死に復讐することを目的として、天に届く塔の建設に身を捧げました（創世記 10:6-10）。ノアの長男セムの子孫は神に忠実であり続けました。その中で神は、人間と交わした契約である「十戒」を広めるためにアブラハムを選びました（申命記）

Machine Translated by Google

4:13）。神はこう言われました、 「アブラハムはわたしの声に従い、わたしの戒め、戒め、掟、律法を守った。」 （創世記 26:5）。彼と彼の子孫は神に忠実であり続けました。彼らは地球上の「黄金の糸」であり、主の戒めを守り、その中には安息日も守られていました。神はアブラハムに将来の出来事を予期し、彼の子孫がエジプトに行き、そこで「四百年間」苦しみを受けることを明らかにされました(創世記15:13)。期限を過ぎると、イスラエルの子らは「束縛のせいでため息をつき、叫びました。そして彼らの叫びが神に上がった……そして神は彼らのうめき声を聞き、神はアブラハムとの契約を思い出された。」 （出エジプト記 2:23、24）。その後、神は彼らを解放し、砂漠に連れて行き、彼らを神の「黄金の糸」、つまりその世代以降に神の意志の知識を伝えるために選ばれた人々であると確認しました。したがって、イエスは彼らに「彼の契約……十戒」を告げられました（申命記4:13）。そして彼は、罪を犯す前にアダムとイブに与えられた安息日の戒めを繰り返しました。 「安息日を忘れず、それを聖く保ちなさい...」 (出エジプト記20:8)。アダム以来、地球上のあらゆる世代の神の子供たちは、安息日が安息日であるという知識を保持してきました。

安息日の番人たちの物語と並行して、別の物語が展開されました。ノアの曾孫であるハムの反抗的な孫であるニムロデは、一世代の反逆者の指導者となりました。
神の命令に反して、 「地球に豊かに住ませ…地球上に増えなさい」と彼らが広がるように、神は彼らを別の方向に導き、彼らはこう言いました。 「おい、その都市と塔を建てよう。頂が天に触れる……わたしたちが全地の表面に散らばらないように」 （創世記11:4）。

ニムロデには神への恐れがまったくなかったので、自分の母親と寝て、彼女との間に息子タンムズをもうけました。それでも、彼は当時の人々から非常に尊敬されていました。 「それは地球上で強力になり始めました。そして彼は主の前で勇敢な狩人であった」 （創世記 10:8,9）。 「主の前」という言葉は主に敵対するという意味です。つまり、彼は神に敵対する政府を樹立するために積極的に働いたのです。

物語によれば、ニムロデの死後、カルト売春婦だった彼の妻であり母セミラミスが妊娠していることに気づいたという。そして、彼女は死後に肉体を離れて太陽神となったニムロドの霊によって自分が妊娠したという嘘を広め、その後、彼女の息子が息子神、つまり救いの少年神となるのです。したがって、太陽（ニムロド）の崇拝が確立され、少年と母なる女神の崇拝も確立されました。その後、この崇拝システムは、ニムロッド、セミラミス、そして彼らの息子タンムズの 3 人のカルトに発展しました。三位一体崇拝が確立されました。

週の最初の日、太陰月、年の最初は三位一体の崇拝に捧げられました。
したがって、最初の日は「主なる神、太陽の日」として知られるようになりました。

神はニムロデの計画を部分的に挫折させ、バベルの塔の建設者たちの言葉を混乱させ、建設の中断につながりました。そして主は言われた、「見よ、民は一つであり、彼らは皆一つの言語を持っている。そしてこれが彼らがやり始めることです。そしてこれからは、彼らが行おうとするあらゆることに制限がなくなるでしょう。ねえ、下に行って、そこで彼らの言語を混乱させて、お互いの言語が理解できないようにしましょう。そこで主は彼らをそこから全地の面に散らされた。そして彼らは建設を中止した

Machine Translated by Google

市。したがって、彼の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言語を混乱させ、そこから主が彼らを全地の表面に散らしたからである。」
（創世記 11:5-9）。

同じ言語を話す家族のグループに分かれた男性は、植民地となった場所に自分たちの習慣や宗教を持ち込みました。これが、三位一体と太陽の崇拝が事実上すべての古代文明に見られる理由です。そしてそれは、ピラミッド、三位一体の表現、息子タンムズを膝に乗せたセミラミスの小像といった宗教の要素が、世界のさまざまな地域の文明の遺跡で見られる理由でもあります。

三位一体： 最初の人	三位一体： 二人称	三位一体： 第三者
ニムロッド	セミラミス	タンムズ
インド		
ブラフマー	ヴィシュヌ神	シヴァ
バビロン		
マルドゥク	金星	イシュタル
エジプト		
オシリス	ホルス	イシス
ギリシャ		
ゼウス	アポロ	アテネ
ローマ		
木星	マルテ	金星

太陽崇拝に捧げられたこの日は、さまざまな民族を生み出したバベル各地に広がる家族の間では、「太陽の日」または「主なる神、太陽の日」とも呼ばれていました。
人々。英語では週の最初の日を「Sunday」と呼びます。太陽は「太陽」です。日は「日」です。日曜日は「日曜日」です。ドイツ語ではこの日はサンタグと呼ばれ、同じ意味です。スペイン語とポルトガル語では「ドミンゴ」ですが、これはラテン語の「dominvs」に由来します。

Machine Translated by Google

「主なる神、太陽の日」を意味します。フランス語とイタリア語の週の最初の日の名前 (それぞれ dimanche と domenica) もラテン語の dominvs に由来しており、同じ意味を持ちます。

その後、世界は 2 つのクラスの人々に分けられました。ほとんどの国の人々は日曜日を守りました。そして、アブラハム、イサク、ヤコブの系譜に続くセムの子孫、つまり安息日を守るイスラエル人です。安息日は神の最古の制度であったが、ニムロデ崇拝で制定された日曜日が群を抜いて最も広く観察され、最も人気があったことが分かる。

歴史によれば、イスラエルの人々は紀元前 1450 年から 1400 年の間に砂漠を放浪していましたが、アダムの時代は紀元前 4000 年に遡ると考えられています。したがって、人類の歴史の約 2600 年を経て、安息日は信者によって常に守られてきました。日曜日は後から人によって定められました。神の金の糸は安息日を守ったが、ニムロデの反逆的な宗教の信者たちは宗教的な目的のために日曜日を取り分けた。

モーセからキリストへ

砂漠にいる間、神はモーセに、それまでそうであったように、安息日の遵守は永遠に神の民を他の民と区別するしるしとなるだろうと教えました。 「それゆえ、イスラエルの子らは安息日を守り、永遠の契約として代々安息日を祝います。私とイスラエルの子らの間では、それは永遠のしるしとなるでしょう。主は六日の間に天と地を造り、七日目に休んで元気を与えられたからである」 （出エジプト記31:16、17）。安息日を守る理由は、

イスラエル人のニーズをはるかに超えています。それは全人類を包含します。彼らは神を創造者として愛し、崇めることを学ぶために、神を自分たちの創造者として思い出すためにそれを守るべきです。神が安息日を守る理由として被造物を挙げていることに注目してください。 「主は六日間で天と地を造られたからです」、それはイスラエル人だけでなく全人類のためです。 「そして七日目に彼は休んで回復した。」安息日はアダムの子孫全員と関係があります。

さらに1400年が経過しました。この間ずっと、神は神の政府への従順と服従のしるしとしての安息日の重要性を民に繰り返し思い出させました。シナイ半島から約40年後、砂漠での巡礼の終わりに、彼は申命記5章12節の安息日の戒めを繰り返しました。 「あなたの神、主が命じられたとおりに安息日を守りなさい。」キリスト以前の 8 世紀に、預言者イザヤはこの戒めを思い出しました (イザヤ 56:2-4)。約200年後、バビロニア人の最後の侵略の前に、エレミヤは人々に安息日の戒めとその遵守の祝福を思い出させました（エレミヤ17:21）。エゼキエルも同様に、安息日が神と人間との間の契約のしるしであることを指摘しました（エゼキエル書 4:3）。

Machine Translated by Google

20:12、20）。そして、旧約聖書の最後の預言者であるマラキは、安息日を守ることを命じた十戒の律法への従順を放棄した人々を非難しています。 「もし私が父であるなら、私の名誉はどこにあるのでしょう ?もし私が主であるなら、私の恐れはどこにあるのでしょうか？ - 万軍の主はあなたたちに言われます、おお、私の名を軽蔑する祭司たちよ...祭司の唇は知識を保ち、彼らは彼の口から律法を求めるでしょう、彼は万軍の主の天使だからです。しかし、あなたは道からそらし、多くの人を律法からつまずかせました」 （マタイ 1:6; 2:7、8）。

一方、異教の国々は、第四戒の安息日とは対照的に、太陽の日を守りました。キリストが地球に来られた当時、世界帝国の支配者であったバビロニア人、ギリシャ人、ローマ人も同様でした。

イエス•キリストの宣教において

神の子、受肉した言葉であるイエスは、預言されたとおりベツレヘムで生まれました（ミカ 5:2）。それは、安息日を守るユダヤ人のヨセフとマリアによって作成されました。
彼は彼らから指導を受けました。聖書は、イエスが「知恵と身長が増し、神と人に好意的になった」と述べています(ルカ2:52)。彼はすべてにおいて神を喜ばせ、そうすることで土曜日の神の礼拝に参加しました。読んでください」（ルカ 4:16）。このことから、神はこの日に教会が神を礼拝することを喜んでおられると結論付けられます。

イエスは宣教を始めてから最初の偉大な説教の中で、安息日の律法を廃止したり廃止したりするために来たのではなく、天と地が続く限りそれは引き続き有効であると述べられたことを強調しました。私は律法や預言者を滅ぼすために来たのだと。わたしは廃止するために来たのではなく、成就するために来たのです。本当にあなたに言いますが、天と地が滅びるまで、すべてが成就するまでは、一銭も一銭も律法から外れることはありません。」

（マタイ 5:17、18）。

それから間もなく、イエスは安息日の教えを、安息日と結びついていた人々の戒めから解放するために、意図的にパリサイ人との論争を始めました。パリサイ人は安息日に一連の儀式を追加しましたが、それらはすべて聖書に反しており、安息日を守る者にとって文字通り重荷となっていました。 「ミシュナ」と呼ばれるユダヤ教の本からの 2 つの完全な論文は、安息日に関するさまざまな規定を表すために捧げられています。

いくつか引用します。

Machine Translated by Google

— 「仕事」を避けるために、ハンカチを手に持つことはできませんでした。
その端の一方は衣服に縫い付けられているはずです。したがって、それは安息日の一部であると考えられ、それを運ぶことは安息日の違反にはなりませんでした。

- 結び目を解くこと、2 文字以上の文字を書くこと、または 2 文字以上のスペースを消去することはできません。

- 土曜日に鶏が産んだ卵を売ることはできましたが、ユダヤ人はそれを食べることを禁じられていました。

- 土曜日には鏡を見ることは禁じられていました。

- 土曜日は火やろうそくを灯すことは禁止されていました。しかし、その仕事をするために異邦人を雇うこともできます。

- この法律によって植物に水が与えられるのを防ぐために、土曜日に地面に唾を吐くことは禁じられていました。

- 土曜日はおよそ1000メートル以上歩くことができませんでした。したがって、どこに行くかを計画するとき、違反に陥ることを避けるために、人はまずその距離が「安息日の道」 (使徒 1:12)を超えているかどうかを判断する必要があります。

イエスの目標は、安息日に真の教義を提示することでした。イエスは、この日の時間を人間や動物の苦しみを和らげることに充てることができると教えました。それを持ち上げますか？人間は羊よりどれほど価値があるのでしょうか？したがって、土曜日に善いことをするのは合法である。」

（ルカ 12:11、12）。そして聖書は、イエスが安息日に行ったいくつかの癒しの奇跡を報告しています（マルコ 3:1-5; ルカ4:38,39; 13:10-17; 14:1-4; ヨハネ5:1-15; 9:1） -14)。同じように、不可抗力でこの日の食事の準備ができなかった人々のために食べ物を求めることは違反ではないとも言われました。 ;弟子たちはお腹が空いていたので、穀物を集めて食べ始めました。パリサイ人たちはそれを見て、イエスに言った、「見よ、あなたの弟子たちは安息日に禁じられていることをしているのです。」しかしイエスは彼らに言った、「ダビデとその仲間たちが空腹のときに何をしたか読んだことがないのか」。彼はどのようにして神の家に入り、祭司だけが食べることが許されている供えのパンを食べることができたのでしょうか。それとも、土曜日に寺院の司祭は安息日を破っても無罪であるという法律を読んだことがないでしょうか？...しかし、それが何を意味するのか知っていれば、「私は犠牲ではなく慈悲が欲しいのですが、あなたは無実の人々を非難しないでしょう」 」 （マタイ 12:1-7）。

イエスは万物の共同創造者の立場に自らを置き、何が安息日の違反であり何が違反ではないかを決定する権利があると主張しました。彼は安息日を設けました。 「キリストなしには、成されたものは何一つ成らなかった」 （ヨハネ1:3）。そこで彼はパリサイ人たちにこう言いました。 「言っておくが、神殿より偉い方がここにいる…人の子は安息日の主だからだ」 (マタイ12:8)。イエスは安息日の「主」であると主張することによって、自分自身を安息日の所有者と呼びました。イエスが自ら制定したものを廃止するために来たと考えるのは、自分が建てた家や住んでいるまさにその家を人が破壊すると信じるのと同じくらい非論理的でしょう。彼は戒律と模範によって、安息日は礼拝に捧げられるべきであると教えました。

Machine Translated by Google

神へ、そして善行、つまり人間や動物の苦しみを和らげ、福音を宣べ伝えることへ。そして、これに疑いの余地がないように、イエスは安息日の戒めを含む律法を廃止するために来たのではないと言いました。わたしたちは次のことを覚えています。 「わたしが律法や預言者を滅ぼすために来たと考えてはなりません。わたしは廃止するために来たのではなく、成就するために来たのです。本当にあなたがたに言いますが、天と地が滅びるまで、すべてが成就するまでは、一銭も一銭も律法から外れることはありません」 （マタイ 5:17、18）

しかし、この日、彼は模範を示すことはなかったし、自分の利益、つまり家計を支払うために働く方法を教えたわけでもなかった。彼自身がすでにイザヤに次のように書くよう霊感を与えていた。自分のやり方に従わず、自分の意志を貫こうとも、自分の言葉を実行しようともせず、そうすればあなたは主にあって喜び、わたしはあなたを地の高みに乗らせ、受け継いだものであなたを養うだろう。あなたの父ヤコブ、主の口がこう言われたからです。」 （イザヤ書 58:13、14）。土曜日は自分の利益のために働く日ではありません。

十字架の後

イエスの弟子たちは安息日を守ることを学び、イエスの死後もその教えを守り続けました。そこでアリマタヤのヨセフは、亡くなった主に最後の栄誉を捧げるためにイエスの遺体を求めました。ルカはこう述べています。 「それは準備の日であり、安息日が明けた。イエスと一緒にガリラヤから来た婦人たちも後を追って、墓とイエスの遺体がどのように安置されているかを見ました。そして戻ってくると、香料と軟膏を用意し、安息日には戒めに従って休んだ」 （ルカ23:54-56）。彼らは「週の最初の日、朝早く」仕事に戻り、 「用意しておいた香料を持って墓に行きました」 (ルカ24:1)。

イエスご自身も、天に昇られる直前に、 「わたしがあなたがたに命じたことをすべて守りなさい」と人々に教えるよう弟子たちに命じられました（マタイ28:20）。
それまで、イエスは安息日を守る方法について模範を示し、教えていました。弟子たちは土曜日を休息日として教え続けるべきです。イエスの命令と調和して、使徒パウロはヘブライ人の書の中で、キリストを信じる者が安息日を守る必要性を次のように教えています。 7 日目: そして神は 7 日目にすべての働きを休まれました。したがって、神の民にはまだ休息が残っています。
安息に入った者は、神が自分の働きから休んだように、彼自身も自分の働きから休んだのである。ですから、だれも同じ不従順の例に陥らないように、その安息に入るよう努めましょう」 （ヘブライ人への手紙 4:3、4、9-11）。

安息日における使徒たちの教え

十戒と儀式法、どちらの法律が廃止されましたか?

Machine Translated by Google

シナイで神はモーセに道徳と儀式という二つの律法を与えました。一つ目は、石の板にご自身の指で書かれたもので、 「そして彼は（シナイ山でモーセと話し終えたとき）神の指で書かれた二枚の証しの板、石の板をモーセに与えた。」 （出エジプト記 31:18）。彼らを引き渡すとき、彼は安息日の戒めについて特別に言及した。そしてあなたの世代のあなたたち。それは、わたしがあなたを聖化する主であることをあなたが知るためである。したがって、安息日はあなたにとって神聖な日であるため、守らなければなりません。それを冒涜する者は必ず死ぬであろう。というのは、そこで何らかの仕事をする者は誰でも、その魂は民の中から切り離されるからである。その仕事は六日間行われるが、七日目は主にとって聖なる安息日である。安息日に仕事をする者は必ず死ぬであろう…そして彼はモーセに（シナイでモーセと話し終えたとき）神の指で書かれた二枚の証しの板、石の板を与えた。」 （出エジプト記 31: 12-15、18）。第 2 の法律は、動物の犠牲、食べ物や飲み物の提供、不浄とみなされるものに触れたり味わったりしないことなどに関する一連の禁止を規定する条例で構成されていました。また、年に 7 回の「儀式的安息日」を守るという条例も規定していました。宗教暦の期間中。それらは次のとおりです。「1 と 2 - 種なしパンの祝日の最初と最後の日。 3 - ペンテコステの祝日の日。 4 - トランペットの祭りとしても知られる第 7 月の 1 日。 5 - 贖罪の日、第 7 月の 10 日。 6日と7日 - 仮庵の祭りの最初と最後の日。それらは、レビ記 23 章に示されています。

23:3）モーセは、7つの儀式的安息日のそれぞれに定められた儀式について説明しています。儀式法のすべての儀式はヘブライ語の聖域から執り行われた。レビ族のアロンの子孫である祭司たちが積極的に参加しました。

イエスが十字架で命を捧げたとき、神はヘブライ聖所の奉仕をもう受け入れないというしるしを与えました。したがって、儀式法に規定されていたそれとそれに関連する儀式は廃止された。聖書はこう述べています。 「そしてイエスは再び大声で叫び、霊を放棄した。すると見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けてしまった」 (マタイ27:50、51)。聖域のベール、つまりカーテンの天井は高く、高さは 20 メートル以上ありました。それを「上から」から下まで引き裂くことができるのは、超自然的な手だけです。犠牲にされた動物の血がその上に振りかけられました(レビ記4:15-17)。神はそれを引き裂くことで、もう動物の血もヘブライ人の祭司の奉仕も受け入れないことを示されました。世の罪を取り除く神のまことの小羊の血が十字架上で流されました。そしてイエスは人類の祭司として奉仕するために天の真の聖所に入ることになります(ヨハネ1:29; ヘブライ8:1,2)。

聖所奉仕は神によって廃止されたのですから、聖所奉仕を定めた儀式法も同様に廃止されたと言っても過言ではありません。パウロはユダヤ教徒に対して信者たちに警告した際にこう言いました。これらは、信者に儀式法の儀式を課そうとした、おそらくキリスト教に改宗したユダヤ人たちでした。パウロは、儀式法はその儀式とともに廃止され、十字架に釘付けにされたと述べました。十字架の上で...だから、食べること、飲むこと、あるいは来たるべきものの影である祝日や新月や安息日のせいで、だれもあなたを裁いてはなりません。体はキリストのものです。」 （コロサイ 2:14-16）。彼が具体的に言及していることに注意してください。

Machine Translated by Google

この儀式法の戒律。道徳法にはノーです。 「安息日」はユダヤ教の祭りとともに言及されており、それが儀式法に規定されている7つの儀式的な安息日であることを明らかに示唆しています。彼が「土曜日」と書いていることに注目してください。
複数形 - 複数を指します。道徳律は、週の 7 番目の土曜日 (単数形) を 1 回だけ遵守するよう命じています。したがって、廃止された安息日は儀式律法の七戒であり、道徳律の第四戒ではないことが分かります。コロサイ人への手紙には、儀式法とその儀式が廃止されたと書かれています。これは律法に関してキリストが教えたことと一致しています（マタイ 5:17、18）。

ガラテヤ人への手紙の問題

ガラテヤ人への手紙の中で、パウロは、行いを犠牲にして神の好意を得る唯一の手段としての信仰を擁護するために、信者の間で儀式律法の遵守を守ろうとしたユダヤ教徒の誤りにも言及しています。ガラテヤ人はこの誤った教えの影響を受けていました。彼は次のように書いています。あなたは日、月、時間、年を記録します。私があなたのために働いたのが無駄だったのではないかと心配しています。」 （ガラテヤ 4:9-11）。 「日、月、時、年」の遵守を確立したのは儀式法であった。つまり、儀式的な土曜日、月ごとの祭り、収穫と犠牲の時期、そしていわゆる「安息年」、つまり7年に1回の期間が定められていた。特に宗教に特化しています（申命記15章）。上記の文章からは、パウロが安息日の廃止を宣言したとは言えません。

一方、ガラテヤ人への手紙は、救われるために、あるいは神の前に何かに値する者となるために安息日を守る者は誰でも恵みから落ちていると積極的に教えています。あなたは恵みから堕落したのです。」
（ガラテヤ人への手紙 5:4）。祝福は恵みと信仰によってもたらされます。ガラテヤの信徒への手紙の 2 つの目的は、いかなる従順の働きもできないことを実証することでした。 1 - 人間を神の前で何かにふさわしい者にする（例：聖霊を受ける - ガラテヤ 3:1、2、9、14）。 2 - 神の許し（義認）と天国での場所を保証します（ガラテヤ 2:16; 3:11、18、22）。しかし、パウロは同じ手紙の中で、真の信仰を持つ人は誰でも神の律法に従順になると積極的に教えています。決して～ない。もし私が破壊したもの（不従順な老人）を再び建てるなら、私は自分自身を違反者にしてしまうからです」 （ガラテヤ２：１７、１８）。真の信者は信仰の結果として安息日を守ります。なぜなら、彼は信仰によって神の霊を受け、それによって、 「信仰の霊によって、私たちは義の希望を待ち望みます」、そして「あなたの戒めはすべて義です」という戒めに従って、それを守り神聖にすることができるからです。

（ガラテヤ 5:5、詩篇 119:172）。 「もしあなたが御霊に導かれているなら、あなたは律法の下にありません。」つまり、あなたは律法に従っています（ガラテヤ5:18）。 「御霊の実は愛、喜び、平和、忍耐、優しさ、善良さ、信仰、優しさ、節制です。そのようなものを禁止する法律はありません。」言い換えれば、霊は私たちを律法と調和したことを行うよう導いてくれます。彼女はそれを非難しません。律法に従うように私たちを導きます（ガラテヤ 5:22、23）。したがって、ガラテヤ人への手紙は決して道徳律の廃止を示しているわけではないことが理解されます。むしろ、それはローマ人への手紙で以前に与えられた信仰による義認の教義の教えを強化し、改宗したパリサイ人によってそれに関連した誤りを浄化します。

Machine Translated by Google

キリスト教、ユダヤ教徒へ。次に、ローマ人への手紙の福音と安息日との関係について扱います。

ローマ人への手紙における恵みの分配

第一章で筆者自身が明らかにしたこの手紙の目的は、 「福音を宣べ伝える」ことです（ローマ人への手紙1:15）。ローマ人への手紙では、この教義が段階的に示されています。

この手紙を読むと、ユダヤ人は律法によって救われ、異邦人は恵みによって救われるという一般的な教えが真実とは程遠いことがわかります。律法は、ユダヤ人も異邦人も、すべての人に、神の前で自分たちの本当の状況がどのようなものであるかを示すためのものです。 「ユダヤ人もギリシャ人も、すべて罪の下にある、と書いてあるとおり、義人は一人もいない…律法が何を言おうと、ユダヤ人もギリシャ人も皆、罪の下にある」 、律法の下にある者たちに、すべての口が塞がれ、すべての人が神の前で罪に定められるようにと言うのです。したがって、肉なる者は律法の行ないによって神の前に義とされることはありません。」 （ローマ人への手紙 3:19、20）。
律法の目的は、すべての人に「罪の知識」をもたらすことです（ローマ人への手紙 4:20）。みんなに本当の自分を見せてください。ユダヤ人は本質的に非ユダヤ人よりも優れているわけではありません。 「義人は一人もいません...善を行う者もいないし、一人もいません」 （ローマ人への手紙 3:9）。したがって、どちらも同じように赦され、救われる必要があります。

パウロは、 「神は唯一であり、信仰による割礼（ユダヤ人）と、信仰による無割礼（異邦人）を正当化されるお方です」（ローマ人への手紙3:30）と書きました。彼は次のようにも書いているように、 「ユダヤ人もギリシャ人もみな罪の下にあることをすでに証明している」ため、両者は信仰によって義とされる。 「神の義」は、「すべての者とすべての信じる者に対するイエス•キリストの信仰によるものです。違いがないからです。すべての人は罪を犯し、神の栄光を受けられず、神の恵みによって無償で義と認められたからです。」神の恵みはユダヤ人も異邦人も同様に包みます。 「したがって、私たちは、人（ユダヤ人であろうと異邦人であろうと）は、律法の行いとは別に、信仰によって義とされると結論づけます。」 （ローマ人への手紙 3:9、22-24、28）。パウロは、救いのための恵みと信仰の賜物の必要性に関して、ユダヤ人と異邦人の間の条件の平等を擁護し、ユダヤ人の肉の父であるアブラハムでさえ、まだ異邦人とみなされていたときに信仰によって神に赦されたことを思い出しました（割礼を受けていない）： 「アブラハムにとって信仰は義とみなされていました。それでは、それはどのようにして彼に帰せられたのでしょうか？ 「……割礼を受けていないこと」

（ローマ 4:9、10）。そして、アブラハムが「信仰の父」となったとき、彼の信仰は、割礼のあるユダヤ人であろうと無割礼の異邦人であろうと、救いのために信じるすべての人々の信仰の模範となりました。彼らは割礼を受けていませんでした…） [信じる異邦人の]、また、割礼を受けた者だけでなく、[信じるユダヤ人の]アブラハムの信仰の足跡を歩む人々の父親でもありました。」ローマ人への手紙 4:11、12)。 「もし律法を守る者が相続人であるなら、信仰は無駄であり、約束は破られるからです。」 （ローマ人への手紙 4:14)イエス•キリストを信じるユダヤ人と非ユダヤ人だけが新しい地球を受け継ぎます。

イエス•キリストへの信仰は、良心に送られた神の言葉への服従によっても表されることを忘れないでください。イエスは言葉だからです（ヨハネ 1:1、14）。このように、聖書を一度も手にしたことがなかったが、神の霊によって良心に教えられた聖書の真理に服従したインド人であっても、神は信者とみなしてくれます。
そして、人生の終わりまでこの信仰を持ち続けるなら、あなたは救われます。

Machine Translated by Google

パウロはまた、恵みの下にある人は神の律法、したがって第四戒の安息日に従うことができると教えています。恵み。だから何 ?私たちは律法の下ではなく恵みの下にいるからといって罪を犯してしまうのでしょうか ?全くない ！" （ローマ人への手紙 6:14）。 「罪は律法に違反することです」（ヨハネ第一 3:4 アメリカ欽定訳聖書）。 「恵みがもっと豊かになるために、私たちは罪の中に留まり続けるべきでしょうか ?全くない !罪に対して死んだ私たちが、どうして罪の中で生きられるでしょうか？」 （ローマ人への手紙 6:1、2）。 「ですから、今や、キリスト•イエスのうちにある人々、つまり肉に従ってではなく霊に従って歩む人々には、何の罪に定められることもありません。なぜなら、キリスト•イエスにある命の霊の法則が私を罪の法則から解放してくれたからです...神は御子を遣わすことによって...肉において罪を非難されたのは、律法の義が私たちのうちに成就されるためです。彼らは肉に従ってではなく、霊に従って歩むのです。」そして「神の戒めはすべて義である」。したがって、恵みの下にある人は神の霊を受け、それによって罪を犯さず、神の律法に違反することなく生きることができるのです。彼には法律に従って生きる権限が与えられています。恵みの下にある者は誰でも第四の戒めに従い、安息日を守ります(ローマ 8:1-4、詩篇119:172)。あなたが安息日を守るのは、救われるため、あるいは神の前で何かに値する者になるためではありません。ガラテヤ人への手紙 (ガラテヤ人への手紙 5:4) で教えられているように、この目的でそうする人は本当に恵みから落ちています。祝福は恵みと信仰によってもたらされます。真の信者は信仰の結果として安息日を守ります。信仰によって彼は霊を受け、それによって戒めに従って自分を守り、聖別することができました。

新しい契約

最初の、または「古い」契約は十戒です。 「それから神は、あなたがたのために定められたご自分の契約、十戒をあなたに宣言し、それを二枚の石の板に書き記されました。」 （申命記 4:13）。イスラエル人は神の契約に従って歩んでいなかったことが分かります。彼らは戒めを破り、偶像崇拝に走った。したがって、イエスは彼らと新しい契約を結ぶと言われました。神が以前に確立したものを変えたわけではありません。新しい契約は最初の契約の繰り返しであり、それに加えて、人々の思いと心の中に十戒を書き記す責任を負うという約束が加えられていた。「イスラエルの家とユダの家と新しい契約を結びなさい。わたしが彼らの先祖たちを手を取ってエジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約に従ってではない。」と言う。主。

しかし、これこそが、その日の後にわたしがイスラエルの家と結ぶ契約である、と主は言われる、わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心に書き記す。そして私は彼らの神となり、彼らは私の民となるでしょう。そして…誰もが私を知るでしょう…私は彼らの悪を許し、彼らの罪をもう思い出さないからです。」 （エレミヤ 31:31）。

この契約はユダヤ人や旧約聖書の時代に限定されたものではありません。パウロは、神はユダヤ人を、血による子孫ではなく、心を開いて聖霊を受ける者とみなされる、と述べています。しかし、彼は内なるユダヤ人であり、割礼は文字ではなく心の中で、霊において行われるユダヤ人であり、その賛美は人からではなく神から来るのです。」 （ローマ人への手紙 2:28、29）。そして、キリストの司祭としての務めと、恵みの分配における私たちのとりなし者としてのキリストの役割を扱うとき、彼は新しい契約についてのエレミヤの言葉を繰り返します。

Machine Translated by Google

それはより良い契約の仲介者であり、より良い約束によって確認されるので、奉仕はなおさら優れています。なぜなら、最初のものが非の打ちどころのないものであったなら、2番目のものが入る場所は決してなかっただろうからです。彼らを叱責したために、彼は彼らに言った、「見よ、主は言われる、私が彼らの先祖と結んだ契約によらず、イスラエルの家とユダの家と新しい契約を確立する日が来る」わたしが彼らの手を取ってエジプトの地から連れ出したその日、彼らはわたしの契約の中に留まらなかったので、わたしは彼らに注意を払わなかった、と主は言われる。これがわたしがイスラエルの家と結ぶ契約である、と主は言われる、「わたしはわたしの律法を彼らの理解に入れ、彼らの心の中に書き記す。わたしは彼らの咎と彼らの罪を憐れむからである」私はもっと思い出します。新しい高齢者を最初に言います。今、古くなり、古くなったものは終わりに近づいています。」（ヘブライ人への手紙 8:6-13）。そして、新約聖書のヘブライ人への手紙でさえ、神はご自分の子供たちに安息日を守ることを期待していると書かれています。 7日目…もしヨシュアが彼らに休息を与えていたら、その後彼は何も言わなかっただろう、と他の人は言います。したがって、神の民にはまだ安息が残っています。安息に入った者は、神が自分の業から休んだのと同じように、彼自身も自分の業から休んだのである。したがって、誰も同じ不従順の例に陥らないように、その安息に入ることを目指しましょう。」（ヘブライ人への手紙 4:4、7-11）。

つまり、新しい契約は、古い契約で発表されたのと同じ戒めを神が私たちの思いと心の中に書き記すことで構成されています。それはユダヤ人に限られたものではなく、御霊によってキリストに服従するすべての人に当てはまります。実際、それは本質的には古いことの繰り返しです。それが「新しい」と呼ばれるのは、それを提供するシステムの変更だけです。旧約聖書では、契約はヘブライ語の聖所の礼拝によって発表されました。そこでは罪深い祭司が真の祭司（キリスト）を表し、動物の血は世の罪を取り除く神の小羊の血を表していました。

司祭たちは、動物の血は私たちのために罪の赦しと永遠の命を得るために来るメシアを予兆するものであると指摘しました。それから彼らは礼拝者に律法を教え、彼がもう行って罪を犯さないようにしました。 「祭司のくちびるは知識を保ち、彼らはその口から律法を求めます」（マラキ書 2:7）。新しい契約では、イエス•キリストは真の祭司として、礼拝者の罪の赦しを保証するために、その血の功績を神に捧げます。とりなしを通して、神は父なる神から聖霊を受け取り、それを礼拝者に送ります。これは、聖書の研究を通じて神の律法を学ぶよう導き、従う力を与えます。このように、新しい契約は、十字架の死の福音の宣べ伝えと、私たちに代わってキリストが司祭として奉仕することによって発表されます。新しい契約では、キリストは、これから来る救い主としてではなく、すでに来られた救い主として示されています。将来、私たちのために罪と功徳を克服して執り成してくださる方ではなく、すでに克服して「天と地のすべての権威」（マタイ 28:18)を受けておられる方です。言い換えれば、古い契約は、メシアが来るという約束を提示したのです。新しいものは、イエス•キリストがすでに勝利され、今日天国で私たちのために執り成してくださっているという確信を示しています。神が持つ権利と権威によって、 「世の終わりまで毎日」私たちの側に助け主としていてくださるという確信です（マタイ28:20）。キリストは御霊によって、地上で弟子たちと一緒にいたのと同じように近くにいて臨在しておられます。そして、この意味で、さらに、神は私たちの側にいるだけでなく、御霊を通して私たちの中にもおられるからです。 「見よ、私は心の扉のところに立ってノックしています。誰かが私の声を聞いてドアを開けるなら、私は入ります。」

（黙示録 3:20）。聖書が、新しい契約は「より良い約束」に基づいていると述べているのはこのためです（ヘブライ 8:6）。

Machine Translated by Google

古い契約はヘブライ人の祭司であるレビ人の奉仕に基づいていました。神の御子キリストの奉仕における新しい者。肉によれば、ユダの部族に生まれました。キリストが死んだとき、神は神殿の幕を引き裂き、ヘブライ語の聖所の奉仕をもはや受け入れないことを示しました（マタイ 27:50、51）。このように、「人ではなく主が建てられた真の幕屋」（ヘブライ人への手紙 8:2)における、天の聖所におけるキリストとその奉仕に基づく新しい契約が最初の契約に取って代わるものであることが実証されました。この戒めは、人間が十戒（したがって安息日)を守るだろうと予言し続けているため、本質的には最初の戒めに取って代わるものではありません。しかし、それはプレゼンテーションの形で置き換えられます。それは、キリストがこれから何をするかというだけでなく、キリストが何をし、今日何をしているかを示しています。今日、私たちは雄牛やヤギの血ではなく、信仰によって私たちの罪の赦しのために流された神の御子ご自身の血に注目します。

私たちは、私たちと同じくらい罪深い人に、私たちのために神をとりなしてくれるように近づきません。しかし、それは完全な者、すなわち人の子であり神の子である、父の御座の右におられる人間キリスト•イエスに対してです（テモテ第一 2:5）。彼は私たちの唯一の告白者であり、他にはいません。私たちは祈りの中で自分の秘密を神に信頼し、答えが得られ、不安から真に解放されることを望んでいます。

そして主は、天の聖所、新しい契約の務めを通して、私たちの罪を決定的に取り除いてくださいます。「罪は律法を犯すことである」(1ヨハネ3:4)ことを考えると、これはキリストが私たちが律法を守り、第四戒の安息日を守れるようにしてくださることを意味します。これは、ヘブライ聖所の奉仕とキリストの奉仕の間に最も顕著な違いがある点です。パウロは、ヘブライの聖所、古い契約の儀式、そしてそこで奉仕する祭司たちに言及して、「毎年絶えずささげられる同じ犠牲によっては、そこに来る人々が完全になることは決してあり得ません。それ以外の場合は...第10章の終わりまで。」したがって、キリストとその奉仕への信仰によって第四戒の安息日を守り、キリストの助けを信頼し、次の約束を忘れずに最後までそうし続けましょう。命の木に力があり、門を通って町に入ることができる」（黙示録 22:14、原文）。

使徒たちの例

イエスは天に昇る前に、「わたしがあなたがたに命じたことをすべて守りなさい」（マタイ28:19)ように人々に教えるように弟子たちに命じられました。私たちはすでに、神ご自身がどのように安息日を守ったかを学びました。そして、天が続く限り、十戒は今も、そしてこれからも地上で効力を持ち続けると明示的に述べられているので、そうでないはずはありません。彼は、自分は彼らを変えるために来たのではないと言いました。わたしは廃止するために来たのではなく、成就するために来たのです。本当にあなたがたに言いますが、天地が滅びるまで、すべてが成就するまでは、一銭も一銭も律法から外れることはありません」（マタイ 5:17、18）。したがって、弟子たちは、自分たちが主の模範に従い、律法と安息日を守っていることを世界に証明することになります。そして実際、彼らはイエスの死後もすでにそうしていました。主の遺体を十字架から降ろしてすぐの金曜日、「準備の日でしたが、土曜日が明けました。そして、イエスと一緒にガリラヤに来ていた婦人たちも後を追って、墓とイエスの遺体がどのように安置されているかを見ました。そして戻ってくると、香料と軟膏を用意し、戒めに従って安息日には休んだ。」土曜日はイエスの追随者たちにとって非常に神聖なものと考えられていたため、その時間中は主の遺体に栄誉さえ与えられなかった。「最初だけ」

Machine Translated by Google

「曜日」、日曜日、 「朝早く、彼らは用意した香料を持って墓に行った」 （ルカ23:54～24:1）。

キリストの昇天後、弟子たちは師の模範に従い続けました。
イエスは土曜日に会堂で教えました。 「そして、生まれ育ったナザレに来たとき、習慣に従って安息日に会堂に入り、立ち上がって本を読みました」 （マタイ4:16）。使徒行伝は、パウロとキリストの他の弟子たちが同じことをしたと4回の異なる機会に報告しています。そして律法と預言者の教訓の後、会堂の指導者たちは彼らを遣わしてこう言わせた、「皆さん、兄弟たち、もし人々に慰めの言葉があるなら話してください。」そしてパウロは立ち上がり、手で沈黙を求めて言った、「イスラエルの人々、そして神を恐れる人々よ、聞いてください…そして会堂が解散されると、多くのユダヤ人や改宗者がパウロとバルナバに続きました…そして, 次の安息日には、神の言葉を聞くために町のほぼ全体が集まった」 （使徒13:14、16、43、44）。

「そして、彼らはアンフィポリスとアポロニアを通って、ユダヤ人の会堂のあるテサロニケに来ました。そしてパウロは、いつものように彼らのところへ行き、三回の安息日の間、聖書について彼らと論争し、キリストが苦しみを受けて死人の中からよみがえることが適切であることを説明し、論証した。そして、わたしがあなたがたに宣言するこのイエスこそがキリストである、と彼は言いました」 （使徒17:1-3）。

「…パウロはアテネを出てコリントに到着しました…そして安息日ごとに会堂で論争し、ユダヤ人とギリシャ人を説得しました。」 （使徒 18:1、4）。

この最後の記述は、弟子たちが安息日を教会の外であっても祈りと福音の宣べ伝えに捧げていたことを示しています。そして私たちはそこに集まった女性たちに座って話をしました。そして、テアティラ市出身の紫色売りのリディアという女性が、神に仕えていたので、私たちの話に耳を傾け、主は彼女の心を開いて、パウロの言葉に耳を傾けてくださいました。

彼女がバプテスマを受けた後、彼女と彼女の家は私たちにこう懇願しました。「私が主に忠実であると判断したのなら、私の家に来てそこに泊まってください」と。そして彼は私たちにそうするよう強制したのです。」 （使徒 16:13-15）。

したがって、使徒たちは教えと模範によって、第四戒の安息日を真の安息日として宣言し、それがイエスの死後も有効であることを実証したということになります。彼らは、教会員がその日に変化があったと結論付ける余地を与えませんでした。

キリスト教の神権時代における日曜日とキリスト教の異教化における日曜日の役割

使徒たちは真理を明確に教えましたが、預言の霊感の御霊によって、彼らの死後、教会内に背教が起こるだろうと警告されました。そして彼らは信者たちに何度も警告した。パウロはこう言いました。 「神の国を宣べ伝えているときにすれ違ったあなたがた全員が、もう私の顔を見なくなることは分かっています。

したがって、今日、私はあなたに抗議します。私はすべての人の血から清くなっています。というのは、私は神のご計画のすべてをあなたがたに宣言することをやめたことがないからです。したがって、あなた自身とすべての群れの世話をしてください...私はこれを知っているからです :私が去った後、凶暴なオオカミがあなたたちの中に侵入し、群れを許さないでしょう。そして、もしあなた方の間で、

Machine Translated by Google

彼らはひねくれたことを話す人たちを起こして、弟子たちを引き付けるでしょう。
ですから、私は三年間、昼も夜も絶えず涙を流しながらあなたがた一人一人を戒めていたことを思い出して、目を覚ましていてください。」（使徒行伝２０：２５－３１）。ペテロはまた，「あなた方の中に偽教師がおり，彼らはひそかに破壊的な異端を持ち込み，それを買い取ってくださった主を否定し，突然の破滅を自らにもたらすでしょう。そして多くの人が彼らの解散に従うことになり、彼らによって真理の道が冒涜されることになるでしょう。そして強欲によって、彼らは偽りの言葉であなたをだますでしょう」（ペテロ第二 2:1-3）。

パウロとペテロの預言はすぐに成就しました。パウロは西暦66年頃に、ペテロは西暦67年から68年の間にローマで殉教しました。すでにこの時、ジャスティン殉教者は、今日では教会の正統な教祖の一人として多くの人に称賛されているが、予言されたオオカミの一人であり、使徒たちの教え、つまり異教に由来する異端に完全に反することを述べていた。

「私たちは皆、太陽の日に集まりました[ローマ帝国では4世紀まで週の最初の日が太陽の日と呼ばれていました]。それは、その日が神が闇と闇を変えてくださった最初の日だったからだけではありません。物質が世界を創造しただけでなく、まさにこの日に、私たちの救い主であるイエス•キリストが死者の中からよみがえられたからでもあります。彼らは土星の日の前夜に彼を十字架につけました。そしてこの翌日、つまり太陽の日に使徒と弟子たちに現れて、私たちが考慮に値するものとしてあなたたちに提案したことすべてを彼らに教えました。」 -ジャスティン、 66-67、I – 謝罪、 pp. 6、427-31。

残念なことに歴史は、一般に背教が起こると大多数が間違った道をたどることを示しています。イゼベルとアハブ王がバアル崇拝で人々を率いたときも同様でした。エリヤと七千人の膝だけが偽りの神に屈しませんでした。残りの国民、大多数は間違った側に立っていました。これは預言者エリシャ、イザヤ、エレミヤの時代、さらにはイエスの時代にも繰り返されました。神の御子は神の後に大多数を占めたのではなく、カルバリの日に「十字架につけろ」と叫ぶパリサイ人たちの傍らにいたのです。そしてキリスト教の神権時代でもそれは変わりませんでした。ジャスティン殉教者はすぐに、間違いを教えた当時の教会の信者の大多数に数えられるようになりました。言い換えれば、オオカミは真の羊飼いであると考えられていました。一方、変化に同意しない誠実な信者たちは反体制派、反逆者、教会を分裂させ弱体化させようとしている分子とみなされていた。「神の人たち」を非難していた人々。神から出た者ではない人々が、むしろ嘘を説いたのです。このようにして大多数が異教の休息日を支持するようになり、それが徐々に標準として受け入れられるようになりました。日曜日を守ることは、聖書の啓示ではなく、伝統によって受け入れられた教義となっています。そして、その影響で、三位一体、彫刻像の崇拝、振りかけによる洗礼など、他のすべての異教の教義が教会に導入されました。

キリスト教は徐々に異教化されていきましたが、依然として受け入れられず、信者たちは激しく迫害され、殺害されました。異教徒たちは「ナザレのユダヤ人イエス」を神の子、人類の救い主として受け入れることに積極的ではなかったようです。

Machine Translated by Google

彼らはキリスト教徒が皇帝に「カエサル万歳」と挨拶し、彼を神の正当な代表者として認めることを望んでいた。彼らがそうしなかったので、ローマのコロシアムは野獣によるキリスト教徒の殺害のプレゼンテーションで異教徒を楽しませました。キリスト教徒であることは帝国に対して不誠実であることと同じであった。西暦 303 年のディオクレティアヌス帝の命令から 10 年間、迫害はさらに激化しました。
イエスはこの恐ろしい試練の時期について、預言的な言葉でこう言いました。死に至るまで忠実でありなさい、そうすれば私はあなたに命の冠を与えます。」
（黙示録 2:10）。

その後、神の救済のように思われたことが起こりました。しかし、それは敵にとって最悪の武器であることが判明しました。ローマ皇帝は初めてキリスト教を支持する姿勢を示しました。コンスタンティヌス帝は、ミラノで迫害を停止する勅令「寛容の勅令」に署名し、それ以来、キリスト教徒は異教徒と同じ権利を有するようになりました。その後間もなく、キリスト教は帝国の国教として認められることになります。この「寛容」シーンの政治的背景が、誠実な人たちに本当の罠を明らかにしたことが判明した。コンスタンティヌスはイエスを受け入れておらず、自分の人生の主とも認めていませんでした。以前、帝国人口のほぼ50パーセントがキリスト教徒であることを見て、彼はマクシミリアンに対するキャンペーンへの支援を求めた。彼が勝てば、迫害を終わらせ、キリスト教を帝国の国教に変えると約束した。政治的動きが功を奏した。コンスタンティヌス帝が勝利し皇帝となった。彼は約束を果たしましたが、それは部分的でした。政治家として、彼はまた、人口の別の部分である異教徒を喜ばせようとしました。彼は教会の司教たちと協力してキリスト教と異教の混合物を形成することでこれを実現し、それ以来ローマ教会の象徴となっています。これらの方針に沿って行動し、コンスタンティヌスは、キリスト教の安息日を異教の安息日と同じにすることを布告しました。「誰もが崇拝すべき太陽の日を崇拝しましょう」

（コンスタンティヌス、西暦 321 年）。そして、すでに二世紀にわたって背教の道を歩んできた大多数の司教たちは、まさにこの日を崇拝し、権力と金銭と引き換えに皇帝を喜ばせることに喜んで取り組んでおり、この活動に喜んで皇帝に加わった。そのため、皇帝の命令を尊重した司教たち、つまり大多数が支持され、その他の司教たちは徐々に追放されていきました。皇帝は評議会を招集し、司教の過半数、つまりこの時点で既に教会を支配していた背教者が、何を信じるべきか、何を信じるべきではないかについて投票を行った。そして教会はこれらの法令を受け取りましたが、これには従わない人々に対する非難と脅迫が伴いました。聖書は公式のローマ教会の指針ではなくなりました。司教の伝統、教会の教導職の教義はそれより上位にあると考えられていました。

神の言葉に対する人間の権威のこの仮定に疑問を抱く人々が依然としていたため、聖書は禁止されるべきである、つまり人々の手から取り上げられるべきであるという決定が下されました。このようにして、教会の司教は、新しい法令を書き、それを教会に課すことで、信者を自分の意志に従って指揮することができました。そして、このようにして、アダムと旧約聖書のすべての族長たちが守っていた第四戒の安息日は忘れ去られました。イエスが主であり定められた安息の日。イエスは、地上での宣教において模範を守る方法を教えましたが、帝国の教会、ローマ•カトリック使徒教会の指導者たちによって忘却の彼方に非難されました。

Machine Translated by Google

そして世界は歴史上「暗黒時代」と呼ばれる闇の時代に陥った。
神の言葉の光がなければ、暗闇が栄えているように見えました。

しかし、背教が完全に支配的であるように見えたすべての時代と同様に、神は証人なしでは放置されませんでした。北アフリカの教会など、一部の教会は依然として聖書の安息日を守っています。そして何世紀にもわたる背教の後、人々は再び聖書を利用できるようになりました。聖書協会は 1800 年代に設立され、その活動を通じて何千人もの人々が神の言葉を学ぶことができました。その後、神の言葉に示されている安息日、つまり第四戒の安息日を守る教会が繁栄しました。歴史を見ればわかるように、背教者たちが安息日を変更しようと努力したにもかかわらず、神はいかなる変更も認可したり命令したりしなかった。彼はこう言いました。「七日目は主にとって聖なる安息日です...彼らは安息日を守ります...永遠の契約のために世代を超えて...それは永遠のしるしです。主は六日で天と地を造り、七日目に休んで元気を与えられたからである。」（出エジプト記 31:15-17）。そしてそれは、神がそこからあらゆる罪の汚れを取り除くとき、新しく回復された地球上でさえも、永遠に残り続けるでしょう。あなたの子孫となり、あなたの名前となるでしょう。そしてそれは実現する……ある安息日から次の安息日まで、すべての肉なる者はわたしの前に礼拝に来る、と主は言われる」（イザヤ66:22、23）。

安息日の守り方

歴史の初めから、罪を犯す前から、主は土曜日は他の日とは異なる日とみなされるべきだと教えられました。「そして神は七日目に自分が行ったすべての働きを終え、七日目に自分が行ったすべての働きを休んだ。そして神は七日目を祝福し、それを神聖なものとした。なぜなら、その日、神は神が創造し創造したすべての働きから休んだからである。」（創世記 2:2、3）。その中で、人は日曜日から金曜日まで行われた仕事を休まなければなりません。「ある場所で、彼は7日目について次のように言ったからです。そして神は7日目にすべての働きを休んだ...神の安息に入った人は」神が彼の仕事を休んだように、彼自身も自分の仕事を休んだ。」したがって、人は日々の糧を得るために働くべきではありません。「主はあなたに安息日を与えられたので、六日目に二日分のパンを与えられます。皆、自分の場所に留まり、七日目には誰も自分の場所を離れることがないようにしなさい」（出エジプト記１６：２９）。

最初の 6 日間に行われる、家の掃除、料理、衣服の準備、買い物などの他の労働活動も中止しなければなりません。何をすべきか、何をすべきではないかを知るには、聖書の原則を単純に当てはめてください。自分の意志を貫くふりをし、自分の言葉を話すふりをすれば、あなたは主にあって喜ぶだろう」（イザヤ書58:13、14）。したがって、土曜日にメロドラマや主の道を教えていない映画を見たり、スポーツの試合や講堂のプログラムを見たり、パーティーに参加したり、自分の利益のためだけに活動に参加したりするのは適切ではないことは明らかです。。子供のおもちゃやゲームは、家族全員が楽しめるように保管しておく必要があります。

Machine Translated by Google

この日は神に近づくことに専念する機会です。したがって、土曜日の準備は、家族の予定が計画されているときよりずっと早く始まることが理解されます。

聖書は、次の戒めに従ってそれを守るために努力し、率先して行動することが必要であると教えています。「ですから、誰も同じ不従順の例に陥らないように、私たちはその安息に入るよう努めましょう。」（ヘブライ人への手紙 4:10、11）。週が始まるとき、私たちは土曜日が来たときに主の日を逸脱する必要がないように活動を計画しなければなりません。これには、おむつ、薬、食料の在庫の計画、車の充填などが含まれます。最初は「たくさんの」ことを行うのは難しいように思えるかもしれません。しかし、信者が毎週日曜日に一週間の計画を立てることに時間を割けば、数週間後には土曜日の準備がスムーズな日課になることがわかるでしょう。そして、週に計画を立てれば、より多くの収穫が得られます。

すべての勤務日の中で、金曜日は特に準備の日です。「主はモーセに言われた、『見よ、わたしはあなたたちのために天からパンの雨を降らせる。民は毎日出て行ってその日の分を集め、彼らがわたしの律法に従って歩んでいるかどうかをわたしが見るようにする。』そして六日目に、彼らは集めたものを調理することになる。そしてそれは彼らが毎日収穫する量の2倍になるでしょう...それで彼らは毎朝それを収穫しました。それぞれが食べられるものに応じて…そして、たまたま六日目に、彼らは二倍のパンを、それぞれに二オメルを集めました…見よ、主はあなたに安息日を与えられたので、それゆえ主は六日目に一日、二日分のパンを与えてください。七日目にはだれもその場所を離れることがないように、すべての人がその場所にとどまりなさい」（出エジプト記 16:5、6、21、22、29）。イエスの時代まで、真の教会の会員は 6 日を準備の日として数えていました。「ヨセフ…アリマタヤ出身…イエスの遺体を求めました。そして彼を連れ出すと、彼を亜麻布で包み、墓の中に置きました...そして、それは準備の日であり、安息日が明けました。イエスと一緒にガリラヤから来た婦人たちも後を追って、墓とイエスの遺体がどのように安置されているかを見ました。そして戻ってくると、香料と軟膏を用意し、安息日には戒めに従って休んだ」（ルカ24:54-56）。週の計画が正しく行われたことを考えると、土曜日は最終調整の日です。土曜日の食事の準備、家の片付けの最後の仕上げをし、服にアイロンをかけ、靴を磨く。

金曜日の夕焼け

聖書は、安息日の初めに、神の聖所の「内庭の扉」が「開かれる」と教えています。「そして、その地の民は安息日に同じ門の入り口でひれ伏すであろう」（エゼキエル46:1、3）。したがって、土曜日が始まる金曜日の日没時には、信者は団結して神を礼拝し、崇拝しなければなりません。賛美歌で始まり、短い祈り、聖書の短い抜粋を黙想し、次の祈りで終わる礼拝です。子供がいる場合は、聖書の物語を子供たちの言語で語らなければなりません。また、子供たちが礼拝への興味を失わないように、礼拝は長く退屈なものであってはなりません。以来

Machine Translated by Google

そこには罪があり、神に犠牲の奉仕を捧げるかどうかは家族の父親の責任でした（創世記 12:7、8; 13:18）。例に従うと、信者である父親は奉仕を主導しなければなりません。妻と子供たちを祈りの中で神に捧げ、聖別してもらいましょう。ただし、生徒たちに賛美歌をいくつか選ばせ、瞑想のために選んだ聖書の一節についての質問やコメントにも参加させます。

土曜サービス

イエスは土曜日に「習慣に従って会堂に現れ、立ち上がって本を読みました」。そしてその本は彼に与えられたのです」（ルカ4：16）。主の例に従って、信者たちは土曜日に神殿の教会または自宅で集まる教会に集まります(コロサイ4:15)。そこで彼らは神を賛美し、神の御言葉を研究し、永遠の命への道を学ぼうとしています。礼拝中、私たちは小さな子供たちのことを忘れることはできません。イエスは兄弟たちに気を配ることができないほど忙しくはありませんでした。 「それから彼らは何人かの子供たちをイエスのところに連れてきて、イエスは彼らを彼らの上に置いて祈ってもらうことができました。しかし弟子たちは彼らを叱責しました。しかしイエスはこう言われた、「小さな者たちを苦しめなさい。彼らがわたしのところに来るのを妨げないでください。天国はこのような者たちのものだからです。」 「そして、彼らを腕に抱き、手をその上に置いて、彼らを祝福されました。」

（マタイ 19:13、14; マルコ 10:16）。子どもたちが聖書から教えを受け、その平易な言葉で神を賛美する時期が必要です。私たちは礼拝の最初の部分を大人と子供のための聖書学校に捧げます。その後、両親と会い、一緒に説教を聞きます。宗教的な儀式が疲れて退屈にならないように、これも長すぎてはなりません。

メッセージを伝えるには 40 分から 1 時間あれば十分です。

師は、神の言葉の説教に関連する活動に従事することは安息日の違反ではないと教えました。 「法律で、神殿の司祭は土曜日には安息日を破っても罪を犯さないと書かれているのを読んだことがないのですか？」と彼は言いました。
（マタイ 12:5）。祭司の任務は、犠牲の崇拝を行い、神の言葉を人々に教えることでした。祭司たちは「安息日」に、「一歳の傷のない子羊二頭と、油を混ぜた小麦粉十分の二を肉のささげ物として、飲み物のささげ物とともにささげた。全焼のいけにえは、継続的な全焼のいけにえに加えて、安息日ごとに安息日から行われます。」そして彼らはまた律法を教えました、「祭司のくちびるは知識を保ち、彼らはその口から律法を求めるであろう。彼は万軍の主の御使いだからである」（民数記28:9、10；マラキ書2:7）。教会で御言葉を奉仕すること、インターネット、ラジオ、テレビで説教を生中継することに努めること、これらはいずれも安息日の違反を特徴付けるものではありません。特に、土曜日に出かける必要のないことはすべて他の日に行う必要があります。しかし、事前に設定された機器の電源を入れ、最新のオーディオとビデオのテストを実行し、カメラを調整し、礼拝時に実行する必要があるその他の活動は、キリストの目には違反ではありません。

礼拝後 - 土曜日のその他の時間

Machine Translated by Google

礼拝の後、イエスは貧しい人々を訪問し、病人を癒し、「会堂を出て、彼らはヤコブとヨハネとともにシモンとアンデレの家に行きました。そこでペテロの義母は熱で倒れていました。そして、ペテロの義母は熱を出して倒れていました。」それから彼らは彼に彼女のことを話しました。それから彼は彼女のところに来て、彼女の手を取って持ち上げました。すると彼女の熱は下がり、彼女は彼らに仕えた」（マルコ1:29-31）。私たちは彼の模範に従うべきです。

宗教的な儀式を行う日ではありますが、形式張らずに過ごしてはいけません。真の信者は、機会があればいつでも、たとえ安息日であっても、困っている人々に喜んで奉仕し、苦しみを和らげます。

イエスは礼拝中、教会の中で人々を癒しました。「そして再び会堂に入ると、そこには片手が枯れた男性がいました。そして彼らは、イエスが安息日に癒されるかどうかを見守っていた...そしてイエスは、手のなえた男に言った、「起きて、真ん中に入ってください」。そして彼は彼らに尋ねました：安息日に善を行うことは合法ですか、それとも悪を行うことは合法ですか？命を救うか殺すか？そして彼らは沈黙した。そして憤りを持って彼らを見回し、彼らの心のかたくなさに同情を感じながら、イエスはその男に言った、「手を伸ばしてください。」そして、彼がそれを伸ばすと、それは他のものと同じように彼の元に戻りました」（マルコ3：1-5）。

同様に、イエスは、予期せぬ必要が生じ、他の人や動物の飢えや痛みを和らげるために衣服や薬を買う必要がある場合、真の信者はそうしなければならないと教えました。土曜日は他の日と同じように、良いことをする日です。 「そして、イエスが安息日に野原を通りかかったとき、弟子たちは道を進み、穀物の穂を摘み始めたとき、それは起こりました。するとパリサイ人たちはイエスに言った、「わかりますか。」なぜ彼らは安息日に違法なことをするのでしょうか？しかしイエスは彼らに言われた、「あなたは、ダビデも一緒にいた人たちも、お腹が空いていたときに何をしたか読んだことがないのですか？」

大祭司アビヤタルの時代に、どのようにしてイエスは神の家に入り、祭司が食べることが禁じられていた供えのパンを食べ、また主とともにいた人々にも与えたのでしょうか。そしてイエスは彼らに言った、「安息日は人間のためにあるのであって、人間が安息日のためにあるのではない。」 （マルコ 2:23-27）。

子どもたちは長時間じっとしていることが苦手です。彼らは屋外でより快適に感じます。礼拝後の午後の時間を、子どもたちを自然の光景に思いを馳せ、花や木、動物、川や湖に残された神の愛の痕跡を見せることに充てることは、主に敬意を表する仕事です。神の「目に見えないもの」、つまり「神の永遠の力も神性も、創造されたものによって理解され、はっきりと見える」ということを生徒たちに発見させましょう。

（ローマ人への手紙 1:20）。これは、近くの公園、湖、川、山、野原を訪れることで行えます。これは、子供たちが最も多くの指導を受ける方法の 1 つです。このようにして、彼らの小さな心は、キリストの心と偉大な愛の神の心と、優しい絆によって結ばれており、その絆は決して壊れることはありません。次のように書かれているからです。彼はそこから離れることはないでしょう」（箴言 22:6）。

土曜日の夕焼け

Machine Translated by Google

ユダヤ教の神権時代では、「朝の捧げ物」と同様に、犠牲の儀式が「夕方」に捧げられました(出エジプト記29:39、41)。これに倣い、信者は土曜日を含む毎朝と午後に神への礼拝をささげなければならない。賛美歌で始まり、短い祈り、聖書の短い抜粋を黙想し、次の祈りで終わる礼拝です。子供がいる場合は、聖書の物語を子供たちの言語で語らなければなりません。また、子供たちが礼拝への興味を失わないように、礼拝は長く退屈なものであってはなりません。罪があったので、神に犠牲を捧げるかどうかは家族の父親の責任でした(創世記12:7、8; 13:18)。例に従うと、信者である父親は奉仕を主導しなければなりません。妻と子供たちを祈りの中で神に捧げ、聖別してもらいましょう。ただし、生徒たちに賛美歌をいくつか選ばせ、瞑想のために選んだ聖書の一節についての質問やコメントにも参加させます。最後の祈りで、「そして、私の安息日を神聖なものとしてください。そうすれば、安息日は私とあなたとの間のしるしとして機能します。」という約束を信頼して、一週間の間、すべての人が聖のうちに歩むことができるように主の祝福を求めてください。それは、わたしがあなたの神、主であることをあなたが知るためである」（エゼキエル20:20）。

安息日の完全な遵守による聖化: 求める方法を知らない人々を癒す日

安息日を聖く守る人々には神によって霊的な祝福が与えられます。それはこの聖句に表れています：「わたしは彼らに安息日を与えた。それは、彼らがわたしと彼らの間のしるしとなるためであり、わたしが彼らを聖化する主であることを彼らが知るためである。」（エゼキエル20:12）。その意味は、「安息日を聖く守ると、神が私たちの内に特別で異なる働きをしてくださるので、神をよりよく知ることができる」ということです。神は私たちを聖化してくださいます。そしてそれは何を意味するのでしょうか？皮にいくつかの黒い点があるリンゴを考えてみましょう。誰かがそれを食べるために準備するとき、彼らは欠陥のある皮の部分を取り除きます。パルプの内部には、表面には見えない別の損傷箇所があることがわかりました。この場合、料理人は果物を見つけて取り出すまで、さらに果物を開かなければなりません。この小さな例は、私たちの生活におけるキリストを通しての神の働きを示しています。キリストを受け入れるとき、私たちは義とされ、新たな人生を歩む力を与えられます。それ以来、私たちは「神に対しても人に対しても、罪のない良心」を持つよう努めます(使徒24:16)。そして、キリストから受けた力によって、私たちは信仰によって難破を避けるために「信仰と正しい良心」を維持します（Ｉテモテ１：１７）。言い換えれば、私たちは神の御心を知っていることに従う、あるいは自分の持っている光に従って歩むということです。私たちはきれいな皮を持つリンゴのようなものです。しかし、私たちの内における神の働きは、「私たち全員が…キリストの身長に応じて完全な人間となるまで」続けられなければなりません（エペソ4:13）。なぜなら、キリストが教会を取りに来られるとき、教会は「シミやしわなどがなく、聖であり、非難のないもの」でなければならないからです（エペソ5:27）。私たちの人生の内なる髄は浄化されなければなりません。今日私たちに隠されている欠陥、無知から生じる間違いも正さなければなりません。

このプロセスは聖化のプロセスです。それは、私たちの心の髄から「すべての汚れ」が除去されるまで、浄化を深めていく段階的な作業です。このプロセスは信者の人生において継続します。自分の選択によって彼を妨げる人は誰でも、救いの道から外れるでしょう。「すべての者との平和と聖さを追い求めなさい。それなしでは誰も主を見ることはできません」（ヘブライ人への手紙 12:14）。

Machine Translated by Google

ここで、安息日の聖化が信者の生活において重要な役割を果たします。その実として、神はそれを神聖なものとされます。このことは、地上でのイエスの宣教において完全に実証されています。 4つの福音書にはイエスによって行われた癒しに関する報告がたくさんあるため、土曜日に行われた癒しとは顕著な違いを示しています。

私たちは説明します。多くの場合、信者はキリストのところに行き、彼らを癒してくださるようキリストに願いました。あるハンセン病患者は彼に、「もし望むなら、私を清めてもいいよ」と言った。別の中風の人は、天井を開けてベッドを下げてイエスに向かってほしいと頼みました。血の問題を抱えた女性は、主の衣服に触れようと、這って主に近づきました。すると盲人たちは「ダビデの子よ、私たちを憐れんでください！」と叫びました。 （マルコ 1:40; マルコ 2:3,4; マタイ 9:27; マタイ 9:20-22）。しかし土曜日には、イエスが求めなかった人々、主のもとに来なかった人々を癒している姿が示されます。むしろ、それはイエスの道中に、その日イエスが通った場所にありました。いくつかの例を見てみましょう - すべての場合において、病人は癒しを求めていないことに注意してください。

ベセスダのプールにいる麻痺者:

「今、エルサレムには羊の門の近くに、ヘブライ語でベテスダと呼ばれる池があり、そこには5つのポーチがあります...そして、そこに38年間病気をしていた男性がいました。イエスは、彼が横たわっているのを見て、長い間この状態にあったことを知って、彼に言われた、「良くなりたいですか？」病人はイエスに答えました。「先生、私には、水がかき混ぜられたときに私を池に入れることができる人がいません。しかし、私が進んでいると、別の人が私の前に降りてきます。イエスは彼に言った、「起きて、床を担いで歩きなさい」。すぐに男は良くなり、ベッドに乗って出発しました。

そしてその日は安息日であった」（ヨハネ5:2-9）。

生まれつき盲目な男

「そして、イエスが通りかかったとき、生まれつき目の見えない人を見た。そこで弟子たちは彼に尋ねて言った、「ラビ、この人か両親か、生まれつき目が見えなかったのは誰が罪を犯したのですか」。
イエスは、「彼も両親も罪を犯していません。しかし、それは神の御業が彼の内に現れるためでした。 ...彼がこれを言い終わると、彼は地面に唾を吐き、その唾液で泥を作り、その泥を盲人の目に塗りました。そこで彼は彼に言った、「行って、シロアムの池で洗いなさい...そこで彼は行って洗って、見て戻ってきた...そしてイエスが泥を作り、目を開けられたのは安息日であった。」（ヨハネ9: 1-14）。

猫背の女性

「そして彼は土曜日にシナゴーグの一つで教えました。そして見よ、そこには18年間も病の霊を抱えた女性がいた。そして彼女は体をかがめてしまい、まったくまっすぐに伸ばすことができませんでした。イエスは彼女を見ると、彼女を呼び寄せて言われた、「女よ、

Machine Translated by Google

あなたは病気から解放されています。そして彼は彼女に手を置くと、すぐに姿勢を正して神を讃えました。」（ルカ 9:10-13）。

カペナウムの悪魔

「彼らはカファルナウムに入り、安息日にイエスは会堂に行って教えられた。...すると、彼らの会堂に汚れた霊に憑かれた男がいて、叫んで言った。「ああ！」ナザレ人イエス、あなたには何がありますか？私たちを滅ぼしに来たのですか？私はあなたが誰であるかを知っています：神の聖者です。するとイエスは彼を叱責して、「黙って、彼から出て行け」と言われた。すると汚れた霊が彼を揺さぶり、大声で泣きながら彼の中から出てきました。」（マルコ 1:21-26）。

ペドロの義理の娘

「そしてすぐに、彼らは会堂を出て、ヤコブとヨハネとともにシモンとアンデレの家に行きました。そしてシモンの義母は熱で倒れていました。それから彼らは彼に彼女のことを話しました。それから、彼は彼女のところに来て、彼女の手を取って持ち上げました。そして熱が彼女から消えたので、彼女は彼らに仕えました。」（マルコ 1:29-31）。

片手の男は枯れてしまった

「そして別の安息日になると、彼は会堂に入って教えていた。そこには右手が枯れた男がいた。そして律法学者とパリサイ人たちは、安息日にイエスを治してくださるだろうかとイエスに注目していた。しかし、イエスは彼らの考えを知っておられ、手のなえた男にこう言われた、「立って真ん中に立ってください」。そして彼は立ち上がって立ち上がった。そこでイエスは彼らに言われた、「一つ聞いてみましょう。安息日に善を行うことは許されますか、悪を行うことは許されますか。」命を救うか殺すか？そして皆を見回し、その男に「手を伸ばしてください」と言った。そして彼はそうしました、そして彼の手は他の手と同じように健全に戻りました。」（ルカ 6:6-10）。

水滴男

「ある安息日が過ぎたとき、彼がパンを食べようとパリサイ人幹部の一人の家に入ったとき、人々が彼を見ていた。すると見よ、彼の前に水腫のある男が立っていた。そしてイエスは、律法学者たちとパリサイ人たちに向かって、「安息日に病気を治すのは合法ですか?」と言われた。しかし、彼らは沈黙を保った。そして彼を連れて癒し、追い払った。」（ルカ 14:1-4）。

Machine Translated by Google

イエスは肉体的な病気の癒しと罪に苦しんだ魂の癒しを結び付けました。このため、イエスは健康を回復した人々に、「もう罪を犯してはなりません」と警告しました（ヨハネ 5:14）。病気の治療法は、私たちの性格上の欠陥の治療法と同等でした。そして、求めなかった人々に代わって行う働きは、求める方法を知らない人々を聖化する働きを表します。私たちが神に祈るとき、私たちは何を受け取るべきだと思うかを尋ねます。そしてそれが、神が私たちにとって最善であると常に知っているわけではありません。 「私たちは何を祈るべきか分かりません」（ローマ人への手紙8:26)と書かれています。このため、私たちは祈りの中で次のイエスの言葉を繰り返すよう教えられています。「それでも、わたしの思いのままではなく、あなたの御心のままに」（マタイ 26:39）。神は私たちの真の必要を知っていて、私たちの心の「奥底」にある欠点、つまり私たちから隠されている欠点、無知からくる間違いを取り除く方法を備えてくださいました。これは私たちを聖化する神の働きです。もちろん、神は私たちの許可なしにこれを行うことはできません。これは私たちの自由意志を奪うことになり、神の政府の提案に反することになるからです。ですから、神は御言葉によって、私たちが神にそのような働きをする許可を与えることができると教えておられます。私たちは安息日を聖く保つときにそれを与えます。そしてそれは次のように起こります。安息日を聖別することによって、私たちは信仰によって日中イエスに同行することになります。私たちは主が行かれるところならどこにでもいます。「会堂」教会にいて、他の人たちと一緒に御言葉を学び、困っている人々のために主の御業を行い、子供たちを連れて自然について熟考させます。そして、土曜日に主の道を歩んだ人々が、求めなくても癒されたのと同じように、私たちも性格上の欠陥が癒されるでしょう。言い換えれば、私たちは気づかないうちに「神の似姿に」変えられるのです。このようにして、毎週土曜日の終わりに、私たちは神の目に事実上さらに神聖化されるのです。もっとキリストと彼に似ています。

これは、定期検査の指示を受けるために医者に行き、検査を受けた結果、疑っていなかった病気と診断される人にも似ています。医師は適切な処方箋を出し、時間内に治療すれば病気は治ります。

イエスは偉大な魂の医者です。私たちは毎週土曜日に主との面会や定期検査を予定しています。彼らの中で、神は私たちを調べ、私たちから隠されている欠点を知るでしょう。そして必要な薬を塗ります。

この取り組みは土曜日まで続き、土曜日には教会員14万4,000人の生活の中で完成することになる。彼らだけが救われるのではなく、むしろ大患難を経験する人々であり、最後の世代で救われたすべての人々の中で特別な報酬を受け取ることになります。彼らの額には父の御名が刻まれます(黙示録1:1)。この名前は、彼らが死を見ることなく神を体験することを表しています。そして、彼らはキリストに似た性格を持つでしょう。彼らは神の御座の前に非がないからである」（黙示録 14:4、5）。そして、彼らの準備が整うと、神はイエスが戻ってくる前に、善と悪の力の間の最後の衝突を許可します。彼については次の章でお話します。

日曜法とキリストとサタンの最後の戦い

Machine Translated by Google

聖書は、イエスの人格が教会員の心の中に生まれると、最後の患難が訪れると教えています。足には12の星の冠が頭上にあります。そして彼女は妊娠していて陣痛があり、産みたいという願望で叫びました...そして彼女は息子を産みました、その男は鉄の杖で諸国を統治するでしょう。そして彼の息子は神と神の御座に捕らえられました。そこで女は荒野に逃げ、そこには千二百六十日間養われるように神が備えてくださった場所があった。」（黙示録 12:1、2、5、6)記号の翻訳:

女性 = 教会:

「それゆえ、男は父と母を離れて妻と結ばれる。そして彼らは二人で一体となるでしょう。この謎は素晴らしいです。しかし、私はキリストと教会についてこれを言います。」
（エペソ人への手紙 5:31、32）。

女性が産む息子 = キリストが教会員の性格の中に生まれる:

「私の幼い子供たちよ、あなたがたのうちにキリストが形づくられるまで、私は彼らのために再び働きます」（コロサイ4:19）。

息子は神とその王座に携挙されました = この勝利の教会の会員に与えられる報酬:

「私が勝利して父とともに御座に座ったように、勝利する者には、わたしとともに御座に座ることを許します」（黙示録3:21）。

さて、これらの部分をまとめると、黙示録 12 章のメッセージが明らかになります。

大きなしるしが空に見えました（天国の住人たちは気づきました）：女性…陣痛で妊娠しています（真の教会の会員たちは、キリストが自分たちの内に形成され終えることができるように、祈りと神への従順に奮闘しています）。そして彼女は息子を産みました（彼らの性格はイエスの性格を完全に反映するようになりました）。そして彼の息子は神に捕らえられました（天の裁きで彼らの報酬が決定されました - 彼らは王座に座ることになります -
キリストとともに統治するでしょう）。そして女性は砂漠に逃げました。そこには、千二百六十日間（教会員は大艱難を経験することになります)食べ物を与えられるように神が用意してくださった場所がありました。黙示録の著者であるヨハネは、「砂漠」と聞いたとき、間違いなくイスラエルの人々がイスラエルの地に到着した後の巡礼を連想したでしょう。

Machine Translated by Google

エジプトから出国する。 「砂漠」の時代は、人々がカナンの地を占領するための最終的な準備に捧げられました。同様に、教会が艱難時代を通過することは、携挙と神が約束された永遠の相続財産への参入に向けた準備の最終段階となります。砂漠の時代が獣の統治と一致していることに注意してください。

「全地はその獣に驚嘆し…そして彼らはその獣を崇拝した…そして四十二か月間続ける権威が彼に与えられた。」（黙示録13:3-5）。聖書の数え方によれば (1 か月は 30 日相当)、42 か月は 1,260 日に相当します。

42 x 30 = 1260 日

* 聖書の月の長さを確認するには、創世記 7:24 と 7:11 を比較してください。 8:4 (5 か月で 150 日: 150 割る 5 = 30 日)。

そして聖書は、両方が同じ時期であると教えています。獣の統治の42か月が終わるとき、1,260日間の砂漠が終わり、教会はキリストとともに勝利するでしょう。

「そして、あなたが見た10本の角は10人の王であり、まだ王国を受け取っていませんが、獣と一緒に1時間だけ王としての権力を受けるでしょう。これらは同じ意図を持っており、彼らの力と権威を獣に引き渡します。彼らは小羊と戦い、小羊は彼らに打ち勝つでしょう。なぜなら、彼は主の中の主であり、王の中の王だからです。神とともにいる者、召され、選ばれ、忠実な者は勝利するであろう」（黙示録 17:12-14）。

理解を容易にするために、上記をグラフに表します。

1260日の砂漠（大艱難）

|---------- ----------|

十人の王が届ける　　治世42ヶ月　　キリストの勝利

獣に力を与える　　そして聖者たち

獣について

イエスは預言的説教の中で、艱難は「預言者ダニエルが語った荒廃という忌まわしいものが聖なる場所にあるとき始まる…そのとき…かつてないほどの大きな苦しみが起こるだろう」と述べました。 」 （マタイ 24:15、16、21）。彼はダニエル 12 章の預言に言及しました。祝福とは何か

Machine Translated by Google

千三百三十五日まで待ちなさい」（ダニエル12:11、12）。この期間は黙示録で述べられている期間よりも少し長くなります。ダニエルによれば、両方の期間は同時に終わります。なぜなら、ダニエルによれば、その終わりに人々は祝福され（=幸福になり）、黙示録によれば、獣に勝利するからです。

「待って1335日を迎える人は幸いです」（ダニエル12:12）

「神と共にいる者、召され、選ばれ、忠実な者たちは勝利するであろう」（黙示録17:14）

したがって、2 つのタイムラインを含むグラフは次のようになります。 1260 日は、ダニエルのカウントが開始されてから 75 日後に始まることに注意してください。

1260日の砂漠（大艱難）

|---------- ----------|

十人の王が届ける　　治世42ヶ月　　キリストの勝利

獣に力を与える　　そして聖者たち

獣について

75日

|----------|---------- -----|----------|

連続描画　　1290日　　1335日

に置かれます

忌まわしい

荒涼とした

聖書は、荒廃をもたらす忌まわしいこと、あるいは「荒廃をもたらすもの」は、太陽の崇拝に関連した法律を課すことであると教えています。 ..例..彼らは太陽を崇拝しました」と神は預言者に言いました：「人の子よ、見たことがありますか？ユダの家にとって、彼らがここで行っているこれらの忌まわしい行為以上に軽薄なものがあるでしょうか?... したがって、私は激怒して話を進めます。私の目は容赦せず、慈悲もありません。彼らがわたしの耳で大声で叫んでも、わたしには聞こえません」（エゼキエル8:16-18）。預言者イザヤにこう言いました。「見よ、主は地を空にし、荒廃させ、その表面を覆し、その住民を散らす…地は嘆いて枯れ、世界は弱って枯れる…実際、地球はその住民のせいで汚染されています。彼らは法律に違反し、法令を変更し、永遠の契約を破ったからです。それゆえ、呪いは地を焼き尽くし、そこに住む者たちは荒廃するだろう」（イザヤ書）

Machine Translated by Google

24:1-6）。地球上の政府が団結して太陽崇拝を強制することで「法令を変える」努力をするとき、神は地球に裁きを送り、地球は荒廃するでしょう。彼らはどうやってこれを行うのでしょうか？私たちはすでにそれを目にしています。ヨハネ•パウロ二世が回勅「ドミニ」を発布した西暦二千年以来、世界のさまざまな地域で、法律に基づいて日曜日を宗教目的に捧げる休息日として課す取り組みが行われてきました。ブラジルでも、日曜日の営業を禁止する「日曜法」を制定している都市がいくつかある。この日曜擁護運動は世界各地で勢いを増している。日曜日は本来、太陽を崇拝する日であり、その日の名前自体がそれを思い出させます。いくつかの言語で、週の最初の日の名前はこの異教の崇拝を表しています。英語での名前は「Sunday」で、「太陽の日」を意味します。

太陽 = 太陽。日 = 直径;日曜日 = 太陽の日

ドイツ語の名前「ソンターク」も同じ意味です。ポルトガル語、スペイン語、フランス語、イタリア語（ドミンゴ、ディマンシュ、ドメニカ）の名前は、「主なる神、太陽の日」を意味するラテン語の「dominvs」に由来しています。したがって、日曜日の遵守を課すことは、太陽崇拝を確立することと同じであり、そうすることで、そのような法律は神の律法の第 4 番目の戒めである「安息日を忘れず、守ること」に矛盾するため、その支持者たちは「法令を変更」することになる。それは神聖です。 6日間働き、すべての仕事をこなします。しかし七日目はあなたの神、主の安息日である」（出エジプト記20:8-10）。世界中に日曜日法（または世界規模の日曜日法）を課すことは、地球に荒廃をもたらすでしょう。日曜法は、キリストの王国を確立するために、地球の最終的な破壊と神による地上の政府の転覆へのカウントダウンの始まりとなる。したがって、最終的なイベントのグラフは次のようになります。

1260日の砂漠（大艱難）

|---------- ----------|

十人の王が届ける　　治世42ヶ月　　キリストの勝利

獣に力を与える　　そして聖者たち

獣について

75日

|----------|---------- -----|----------|

日曜法　　1290日　　1335日

世界

(忌まわしい

荒涼とした）

Machine Translated by Google

どうやら、これまでのところ、最後の危機は1335日間続くことがわかっています。彼らの終わりに、キリストはご自分の忠実な民に獣とその仲間に対する勝利を与えてくださいます。私たちは、このシリーズの前の本で、獣が誰であり、その刻印が何であるかについての研究をすでに紹介しました。
私たちは獣の刻印が日曜日の遵守であることを知っています。そしてこれは、この章で私たちが学んだこと、そして私たちの周りで観察される政治的宗教的運動と一致しています。 1335日間、神の子と邪悪な者の対照は、第四戒の安息日を守るか守らないかによって明らかになります。ある階級は、獣に率いられた地球の力と同盟を結び、日曜日を受け入れ、人間の地上の権威のしるし、つまり「獣の刻印」を受け取ります。一方、神の僕たちには、次のような神のしるしが与えられます。「彼らは安息日を守ります...永遠の契約として世代を通して安息日を祝います。私とイスラエルの子らの間では、それは永遠のしるしとなるでしょう。主は六日の間に天と地を造り、七日目に回復されたからである」（出エジプト記31:16、17）。

ダニエル 12 章に示されている期間中、神は悪人が権力を掌握することを許可されます。サタンは世界を支配し、その政府の真の成果が何であるかを完全に示す機会を得るでしょう。現時点では、このため、神の僕たちは厳しく試みられ、抑圧され、社会から追放され、中傷され、裁かれ、没収され、さらには死刑を宣告されることになります。しかし最終的には、神はご自分の民の運命を永久に逆転させます。ヨハネは預言的な幻の中で、「獣とその像とその刻印とその名の数に勝利し、ガラスの海のほとりに立ち、神の竪琴を持った人々」を見た。 」

（黙示録 15:2）。 「わたしが見ると、見よ、あらゆる国、部族、民族、言語から来た、誰も数えることのできない大勢の人々が、白い衣を着て、手に棕櫚の枝を持ち、御座の前と小羊の前に立っていました。そして彼らは大声で叫びました、「玉座に座っておられる私たちの神と小羊に救いを」と言いました...すると長老の一人が私にこう言いました、「白い着物を着ている人たちは、彼らはどこから来たのですか？そして私は彼に言った、「主よ、あなたはご存じです。」そして彼は私に言った、「これらは大患難から出てきて、衣服を洗い、小羊の血で白くした人たちです。」それが、彼らが神の御座の前に立って、昼も夜も神の神殿で神に仕える理由です。そして王座に座る者は彼らを覆うであろう。彼らは二度とお腹が空くことも、喉が渇くこともありません。太陽も静けさも彼らに降り注ぐことはありません。なぜなら、王座の真っ只中にいる小羊が彼らを牧し、命の水の泉に導くからです。そうすれば神は彼らの目から涙をことごとくぬぐってくださるでしょう」（黙示録 7:9-17）。

かつてイスラエルの指導者ヨシュアは、自分の死の日が近づいているのを見て、次のような言葉で民に呼びかけました。あなたたちの先祖が川の向こうやエジプトで仕えた神々、そして主に仕えなさい。しかし、主に仕えることがあなたの目には邪悪に見えるなら、今日誰に仕えるかを選びなさい。川の向こうにいたあなたの先祖が仕えていた神々か、それともあなたが住んでいる土地のアモリ人の神々か。しかし、わたしとわたしの家は主に仕えます」（ヨシュア記２４：14、15）。

私たちは読者であるあなたにあなたの言葉を伝えます。あなたの目の前に未来が明らかになったので、あなたは、安息日を守り、神聖なものとし、神の保護と救いのしるしを受ける、忠実で祝福された勝利を収めた神のしもべの一員になることを選びたいですか?それとも、神の政府と戦う人々の中で自分の運命を勝ち取りたいですか？

Machine Translated by Google

異教の日、偽りの安息日を制定する法律？選択はあなた次第です。 「神の民にはまだ休息が残っています。安息に入った者は、神が自分の業を休んだのと同じように、ご自身も業を休まれたのです」（ヘブライ人への手紙 4:9、10）。 「今日、私は天と地を証人として呼びます...私があなたの前に生と死、祝福と呪いを設定しました。したがって、あなたが生きるために人生を選択してください...あなたの神、主を愛し、主の声を聞き、主に近づきなさい。神はあなたの命だからです」（申命記30:20）。神のお恵みがありますように。

7番目の偉大な真実: サタンの最も恐ろしい毒に対するイエスのワクチン

最初の嘘

男と女を創造してすぐに、神は彼らに、彼らの魂を滅ぼそうとする敵、サタンがいると説明されました。善悪の知識の木は、彼らが神の側と反逆の側のどちらを選ぶかを証明するためのテストとして置かれました。さらにこう付け加えました。「園のどの木も自由に食べてよいが、善悪の知識の木だけは食べてはならない。それを食べる日にあなたは必ず死ぬからである」（創世記２：１６、１７）。

人類が初めてサタンと遭遇したとき、サタンの政府と神との対比が顕著でした。彼は嘘をつきました。蛇を媒介として、彼はエバにこう言いました。そこで女は蛇に言った、「私たちは園の木の実を食べます。しかし、園の真ん中にある木の実については、神は言われました、それを食べたり、触ったりしてはならない」 、死なないように。すると蛇は女に、「あなたは決して死なないでしょう」と言いました。

（創世記 3:1-4）。イブはその実を食べてアダムに与え、彼も食べました。そして二人とも亡くなった。最初のペアは、苦い経験を通じて、神が真実を語られたことを発見しました。しかし、彼らはその嘘に信憑性を与えました。

死んだら何が起こるのか

Machine Translated by Google

アダムは罪を犯した後、死すべき者となりました。 「ですから、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同じように、このためにすべての人が罪を犯したのです」（ローマ5:12）。したがって、不死の人間は存在しません。
すべての人が罪を犯しており、「罪を犯した魂は死ぬ」（エゼキエル 18:20)ため、人間の魂は死すべきものです。

聖書は生命の起源と死の際に何が起こるかを説明しています。命について：「そして神である主は土の塵で人を形作り、その鼻に命の息を吹き込まれた。そして人間は生きた魂となった」(創世記2:7)。つまり：

地球の塵 + 命の息吹（神の力） = 生きた魂（生きている人間）

そして、人が死ぬと、「塵は元どおり地に帰り、霊はそれを与えてくださった神のもとに帰ります」（伝道者12:7）。墓が掘られているときに墓地を訪れること。
この真実を確認できるようになります。死体は腐って「肥料」、つまり地球の一部となります。
魂は生命の息吹と大地の塵とが結合したものでした。息が「神に戻り」、塵から離れると、魂はばらばらになります。もう存在しません。もう一度言いますが、罪深い人間の魂は死すべきものであると結論付けます。

「魂」とは何か、死後の状態とは何か

神は、魂とはその人自身の肉体的な命であると説明されます。「イスラエルの家の者、またはあなたがたの間に滞在する外国人の中で誰でも、血を食べる者は誰でも、わたしはわたしの顔を立てて、その者をその民から断つであろう。」なぜなら、肉の魂は血の中にあるからです。」
（レビ記 17:10、11）。そして、イエスを通して良い人格を形成した人は永遠の命を受け継ぐことになるので、パウロは人格を指すのに「魂」（命)という言葉を使っています。そして私たちの主イエス•キリストの来臨の際に、あなたの霊、魂、体のすべてが罪のない状態に保たれますように」（ Iテサロニケ5:23）。
「スピリット、ソウル、ボディ」とは、心、性格、体*を意味します。聖書では、魂が人間の体から切り離された存在として特定されることはありません。そのような教えはもっぱら古代の異教の伝統に由来しています。

イエスはかつてたとえ話を用いて、死後、私たちの運命は定められており、変えることはできないという事実を説明しました。たとえ話は架空の話であり、現実の話ではありません。起こらなかった事;しかし、それは道徳的真理を教える目的で語られています。そのたとえ話は次のとおりです。 「さて、金持ちの男がいた。彼は紫と上質の亜麻布を着て、毎日王冠を着て華麗に暮らしていた。ラザロという名の物乞いもいて、門のところに傷だらけで横たわっていました。そして彼は、金持ちの食卓から落ちたパンくずで自分自身を養いたかったのです。すると犬たちもやって来て彼の傷をなめました。そして物乞いは死んで去ってしまった

Machine Translated by Google

アブラハムの懐に抱かれました。そして金持ちも死んで埋葬された。そしてハデスで彼は苦しみながら目を上げ、遠くにアブラハムとその胸にラザロを見た。
そして彼は叫んで言った、「父よ、アブラハムよ、私を憐れんでください。そしてラザロを遣わして、指先を水に浸し、私の舌を冷やしてください。私はこの炎の中で苦しんでいます。」しかし、アブラハムは言いました、「子よ、あなたは人生で良いものを受け取りましたが、ラザロは悪いものだけを受け取ったということを覚えておいてください。そして今、彼は慰められ、あなたは苦しんでいます。さらに、私たちとあなた方の間には大きな隔たりがあり、ここからあなた方へ通ろうとした人も、向こうから来た人もここへ通ることはできません。そして彼は言った、「お父様、だからお願いです。どうか彼を私の父の家に送ってください。私には5人の兄弟がいます。彼らがこの苦しみの場に来ないように、彼らに証しをしてくれるようにしてください。」アブラハムは彼に言った、「彼らにはモーセと預言者がいます。私たちの話を聞いてください。そして彼は言った、「いいえ、私の父アブラハム。しかし、死者の誰かが彼らのところに来たら、彼らは悔い改めるでしょう。」しかしアブラハムは彼に言った、「モーセと預言者の言うことを聞かなければ、たとえ死者の中からよみがえったとしても、彼らも信じないだろう。」 （ルカ16:19-31）。この話が現実ではなかった、そして現実ではないという証拠は、いくつかの詳細から得られます。文字通り、人は他人の「懐に入る」ことはできません。そして聖書は、アブラハムはまだその約束を受け継いでいないと教えています。パウロはヘブライ人への手紙で、「アブラハムは…信仰によって異国の地のように約束の地に住んだ…それは彼が基礎を備えた都市、その建築家であり建設者が神である都市を待っていたからである」、つまり新しい都市を待っていたからであると述べています。エルサレム。さらにパウロは、彼の時代、アブラハムとその子孫は「これらすべては…神が私たちにもっと良いものを備えてくださるという約束を受け入れませんでした。そうすれば、彼らは私たちなしでは完全にされないでしょう」（ヘブライ11:8)と述べています。 -10、39、40）。言い換えれば、アブラハムとその子孫は、パウロと他のイエスを信じる者たち（私たちを含む)に、私たち全員が一緒に聖都を受け継ぐことを期待していたのです。彼らはまだ「約束を果たしていない」のです。

アブラハムも、たとえ話の中ででっち上げられた登場人物である下品なラザロも、今日は祝福を受けていません。

死者の状態、したがって死後の魂の状態に関して、聖書の教えは次のとおりです。彼らの愛、憎しみ、ねたみさえも滅んでしまい、この時代、太陽の下で行われるあらゆることに関与することはありません。」（伝道 9:5、6）。 「雲が溶けて消え去るように、墓に下りた者は二度とよみがえることはない。彼は決して自分の家に戻ることはなく、再び自分の場所を知ることもないだろう」（ヨブ7 :9、10）。 「墓はあなたを賛美することはできませんし、死もあなたを賛美することはできません。穴に落ちていく者もあなたの真実を望みません。生きている者、生きている者、彼らは今日私がしているようにあなたを賛美するでしょう」（イザヤ38:18、19）。

ダビデは姦淫を犯し、一緒にいた女性は妊娠しました。
彼の過ちに対する罰として、神は預言者ナタンを通して、その子が死ぬと宣言されました。そこで彼は断食して神の前にへりくだり、判決が覆されることを望んだ。しかし、子供が死んだことを聞くと、「ダビデは地から起き上がり、身を洗い、油を注ぎ、衣服を着替え、主の家に入って礼拝した。それから彼は家に来てパンを求めました。そこで彼らは彼にパンを与えると、彼は食べた。そこで家来たちは彼に言った、「あなたは何をしたのですか？」あなたは生きている子供のために断食し、泣きました。でも子供が死んだ後、あなたは起きてパンを食べました。そして彼は言った、「子供がまだ生きている間、私は断食して泣いた、と言いました、主が私を憐れんで、子供が生きているかどうか誰が知っていますか？」しかし、彼女が亡くなった今、なぜ今断食する必要があるのでしょうか？できるようになります

Machine Translated by Google

彼女をまた戻って来させますか ?私は彼のところに行きますが、彼女は私のところに戻ってきません」（サム下12:20-23）。

イエスは、死者の状態についての聖書全体の教えに矛盾することなく、黙示録の中で再びそのたとえ話を教材として用いられました。しかし、そこでは、彼が地上にいたときのように、その物語を語る代わりに、預言者ヨハネに幻の中でそれを提示し、これは神が聖人を殺害した者たちに与える報復と、殉教者たちが受けるであろう報酬を表していました。未来。その記述は次のとおりです。「第五の封印を解いて、私は祭壇の下に、神の言葉と彼らが立てた証しのために殺された人々の魂を見た。そして彼らは大声で叫んで言った、「おお、真の聖なる支配者よ、あなたはいつまで裁き、地上に住む者たちに対して私たちの血の復讐をしないのですか？」そして、一人一人に白いローブが与えられ、そのまま殺される仲間の召使や兄弟たちの数が終わるまで、もう少し休むように言われた。」

（黙示録6:9-11）。

聖なる、公正で慈悲深い神が、生前神のために多大な苦しみを与えた聖なる殉教者たちを死後に祭壇の下で逮捕するとは誰も思わないでしょう。この幻が明らかにしているのは、神が彼らの悪行に対して邪悪な報復を与える時を定められたということです。そして、それが実現しない間に、調査と裁きの働きが天で行われ、聖徒たちが復活するときにどのような報酬が与えられるかが決定されます。この場合、「白衣を受け取る」と判断したことが分かる。この啓示は、捜査判決について語った他の聖句と一致しています。そうすれば、わたしは父とその天使たちの前であなたの名前を告白します。」 「ですから、人々の前でわたしを告白する者は誰でも、わたしは天におられるわたしの父の前で告白します。しかし、人々の前でわたしを否認する者は誰でも、わたしは天におられるわたしの父の前でもその者を否認するであろう。」 「そして、あなたがたに言いますが、人の前でわたしを告白する者は誰でも、人の子も神の天使の前で告白するでしょう。しかし、人々の前でわたしを否認する者は、神の御使いたちの前でも否認されるであろう」（黙示録3:5、マタイ 10:31、32、ルカ 12:8、9）。したがって、祭壇の下で叫ぶ聖徒たちの「魂」は、神が聖徒たちの殺害を無罰のまま放置しないことを表しているに過ぎないことは明らかである。黙示録の教えは、創世記の教えとも一致しており、カインに対する神の言葉として次のように与えられています。そこで主はカインに言われた、「あなたの兄弟アベルはどこにいるのか」。すると彼は、「分かりません」と言いました。私は兄の番人ですか？そして神は言いました：「あなたは何をしたのですか？」あなたの兄弟の血の声が地から私に叫びます。そして今、あなたは地から呪われています。地面はあなたの手からあなたの兄弟の血を受けようと口を開いたのです」（創世記4:8-11）。アベルの「血の声」も文字通りの表現ではありません。黙示録と同様に、この行為は神がその行為に気付かなかったわけではなく、神が悪人を罰することを示しているだけです。

* 「霊」と心の関係については、次の聖句をご覧ください。 Iコリント 2:11)。

Machine Translated by Google

眠っている"

イエスは死の状態を眠りに例えました。ラザロの死について彼はこう述べました。「私たちの友人であるラザロが誕生しますが、私は彼を眠りから目覚めさせます。それで弟子たちは言った、「主よ、彼が眠っていれば救われます。」しかしイエスは自分の死についてこう言いました。しかし彼らは、彼が残りの睡眠について話しているのだと思った。そこでイエスは彼らにはっきりと言われた、「ラザロは死んだ、わたしは幸せだ」（ヨハネ11:11-14）。神のために、死んだ人は皆眠ります。そして、イエスが二度目に地球に戻ってくるまで、彼らはそのまま残ります。パウロは愛する人を失った人たちを慰めようとして次のように書きました。なぜなら、もし私たちがイエスが死んで復活したと信じるなら、それでも神はイエスと共に眠っている人々を再び連れて来てくださるからです。ですから私たちは主の御言葉によってあなたたちに言います、私たちは生きていて、神の来臨まで留まります。主よ、私たちは眠っている人たちに先んじることはしません。なぜなら、主ご自身が叫び声と大天使の声と神のラッパの音とともに天から降って来るからである。そして、キリストにあって死んだ人々が最初によみがえります。そのとき、生きて残っている私たちも、彼らとともに雲に引き上げられ、空中で主に会い、常に主とともにいることになります。」（Ⅰテサロニケ4:13-17）。

復活

聖書は、「人間には一度死ぬことと、死後に裁きを受けることが定まっている」（ヘブル書9:27)と教えています。眠っている人はみな復活を待っています。ただし、義人と悪人の復活は異なる時期に行われます。イエスは、「墓の中にいるすべての人が神の声を聞く時が近づいています。そして、善を行った人々は、命の復活のために出てきます。悪を行った者は復活して罪に定められることになる」（ヨハネ5:28、29）。黙示録 19:11-21 では、聖書は象徴的な言葉でイエスの再臨を示しています。それから、神が聖徒たちに与えるであろう報いを熟考しながら、こう言います。彼らの額にも手にも彼の刻印は受けていなかった。そして彼らは千年間キリストとともに生き、統治した。しかし残りの死者は千年が終わるまで生き返らなかった。」（黙示録 20:4、5）。以下のグラフで説明されているように、2 つの復活の間には 1,000 年の間隔があります。

再臨　　1000年

天に義なるキリスト、キリストと共に統治するキリストのこと

|---------- ----------|

Machine Translated by Google

義人の復活　　悪者の復活

最初の復活　　二度目の復活

聖書は依然として同じ主題を扱っており、次のように付け加えています。第二の死はこれらに対して何の力もありません」（黙示録 20:6）。ここから、いくつかの教訓を学びます。

- 悪人が「第二の死」を経験したとすれば、それは彼らがすでに「第一の死」を経験しているからです。
  言い換えれば、彼らは二度死ぬことになる。

- したがって、すでに死んだ悪人は、1000年後に復活し、再び死ぬでしょう。

復活の後、悪人は宣告を受けるでしょう。預言者ヨハネはこう言います。「そしてわたしは、大きな白い玉座と、そこに座っておられる方を見た。その御前から地も天も逃げ去り、彼らの居場所はどこにも見つからなかった。そして、私は死人が大なり小なり玉座の前に立っているのを見た、そして本が開かれた。そしてもう一つの本が開かれました、それは人生の本です。そして死者たちは、その書物に書かれていること、その行いに応じて裁かれた。そして海はその中にいた死者を放棄した。そして死とハデスはその中にいた死者を放棄した。そして彼らはそれぞれ彼の行いに応じて裁かれた。そして死と地獄は火の湖に投げ込まれました。これで二度目の死です。そして、いのちの書に記されていない者は火の湖に投げ込まれた」（黙示録20:11～）

20）。第二の死である火の湖については、次のように書かれています。高慢な者や悪を行う者はみな無精ひげのようになる。そして、来るべき日は彼らに火を放つ、そうすれば彼らは根も枝も残らない、と万軍の主は言われる。そして、あなたは悪者を踏みにじる、彼らはあなたの足の裏の下で灰になるからである。わたしが造るその日には足が伸びる、と万軍の主は言われる」（マラヤ4:1-3）。悪人は永遠に燃え続けるわけではありません。 「彼らは、まるで最初から存在していないかのようになるでしょう」（オバ 1:16)*。以下は、理解を容易にするために、義人と邪悪人の復活と運命について私たちが研究したことの概要を図で示したものです。

2番　　1000年　　最終的な判断

到来　　天の義人　　の非難

キリストとともに統治するキリストの　　永遠の第二の死に至るまで邪悪です...

|----------|------ ----------|----------

復活　　復活　　火の湖

正義の二人　　悪者の　　邪悪な死

初め　　2番　　まるで

Machine Translated by Google

復活　　復活　　決して持っていなかった

存在した

※「永遠の火」については、このシリーズの第5巻「三人の天使のメッセージ」に詳しく解説されています。

神は生きている者の神である - 説明

私たちは、主にある死者は主によって「眠っている」とみなされるという聖書の説明を見ました(ヨハネ11:11-14; Iテサロニケ4:13-17)。神は言葉を通して、彼らが完全な意識不明の状態にあり、「太陽の下で行われる何事にも関与していない」にもかかわらず、彼らを永遠の命の相続者であるとみなしておられることを示されました。サドカイ派に対するイエスの反応も同じことを示しています。「よみがえらされる死者について、神が藪の中で彼にこう言われたのをモーセの書で読んだことがありませんか。『わたしはアブラハムの神であり、イサクの神とヤコブの神？さて、神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です」（マルコ12:25-27）。イエスは、イサクとヤコブと同様に、「アブラハムは息を引き取り、死んだ」(創世記 25:8)ことを知っていましたが、神は、彼らが死の眠りについたとしても、第二の人生で目覚めて永遠を楽しむだろうと考えていました。 。彼女に比べれば、墓の中にいる時間はほんの一瞬の眠りだろう。神にとって、イエスを受け入れる者は、墓を通り抜けるかどうかに関係なく、永遠の命を持っています(ヨハネ3:16)。

死の時は、永遠に、つかの間の休息としてのみ考えられます。
罪人の魂は死すべきものです。しかし、「神はご自分の独り子をお与えになったほどに、世を愛されました。それは、彼を信じる者が一人も滅びず、永遠の命を持つためです。」（ヨハネ3:16）。罪を犯した魂は死ぬでしょう、なぜなら罪の対価は死だからです。 「しかし、神の無償の賜物は、キリスト•イエスにおける永遠の命です」（ローマ6:23）。イエスが「生きていてわたしを信じる者は決して死ぬことがない」(ヨハネ5:26)と言われたのもこの意味です。それは信者が決して墓に行かないという意味ではありません。しかし、その前に、たとえ墓に下がったとしても、永遠の命が保証されており、キリストの再臨の日に復活します。信仰によって、最後まで耐え忍ぶなら、私たちは再び不死を得るでしょう。神のために、信仰をもって死んだアブラハム、イサク、ヤコブには永遠の命の約束が保証されていました。つまり、神にとって、彼らは両方とも生きていたのです。あなたが目覚めるのは時間の問題です。黙示録の「最後のラッパ」が鳴り響くと、「死者は朽ちないものとしてよみがえります」、つまり、彼らは不死性を持ってよみがえります（ Iコリント15:52）。

キリストの第二の生涯の間に起こる信者の体の変化について、パウロは次のように述べています。なぜなら、この堕落する者は朽ちない者を着なければならず、この死ぬべき者は必ず服を着なければならないからである。

Machine Translated by Google

不死。そして、この堕落する者が不死をまとい、この死ぬ者が不死を着るとき、書かれている言葉は成就する、「死は勝利に飲み込まれる」（ Iコリント15:52-54）。

真実と誤りのコントラスト

これまで見てきたように、聖書は魂は死ぬものであると明確に説明していますが、「全世界を欺く、悪魔およびサタンと呼ばれる古代の蛇」（黙示録 12:9)は、次のような嘘を主張してきました。歴史のあらゆる時代を通じて、地球上の善と悪の対立は、「あなたは死なない」という主張を主張してきました。罪人の遺体が墓に下がっていくのを見て、人は「人間の体」は死なないと信じるように仕向けられるはずがありません。その後、敵はその欺瞞を洗練させ、それを異教の宗教体系に導入しました。肉体は死んでも、生命は別の形で、つまり「魂」の状態でまだ続いていると言われていました。したがって、魂は不滅であるという考えが今日まで伝わっています。異教の国々は、死者は別の状態で生きており、彼らとコミュニケーションをとることができると信じていました。したがって、魔術、つまり死者と交信するふりをする芸術であるネクロマンシーが発展しました。魔術師たちは死者から「知恵やアドバイスを引き出す」ことができると主張した。

神がアブラハムを呼び出して契約を結んで以来、イスラエルがエジプトに到着するまで、彼の子孫の中に男女がこの異教の慣習に関わったという記録はありません。しかし、人々がこの異教の国とより密接に接触するにつれて、徐々にその習慣の多くを同化していきました。このため、神は彼らをエジプトから連れ出し、ご自身の意志を教えたとき、この慣行に対して明確に「魔女を生かしてはいけない」と警告されました。

「魂が占い師や魔術師に頼って、彼らに従って売春しようとするとき、私はその魂に顔を向けて、それを私の民の中から切り離します。」したがって、男性でも女性でも、自分の中に神の霊が宿っていたり、魅惑的であれば、必ず死ぬでしょう。彼らは石で自分自身を石で打ちます。彼らの血は彼らにかかっています。」（出21:18、レビ20:6、27）。そしてモーセは死ぬ前に、次のような戒めを伝えさせました。あなたたちの中には、自分の息子や娘を火の中に入らせる者も、占い師も、予言者も、予兆を告げる者も、魔術師も、魔法を使う者も、神霊に相談する者も、魔術師も、死者の相談をする者も、そのようなことをする者は皆、主にとって忌まわしいことだからである。これらの憎むべきことのために、あなたの神、主は彼らをあなたの前から追い出される。あなたはあなたの神、主のように完全になるでしょう。あなたが所有することになるこれらの国々は、予言者や占い師の言うことを聞いてください。しかしあなたの神、主はあなたにこのことを許されなかった」（申命記18:9-14）。

Machine Translated by Google

神の警告にもかかわらず、イスラエル人は何世紀にもわたって、何度も何度もこの異教の習慣に引き込まれました。イゼベル女王は魔術の愛好家でした (列王上 9:22)。マナセ王は「予兆を示し、占い師や魔術師を任命し、主の怒りを買うために主の目の前に悪を行い続けた」(列王下21:6)。

神は監視塔を建てることを忘れず、やがてこの狂気に対して人々に警告を与えました。預言者イザヤを通して、彼は次のように言いました。 - 人々は自分たちの神に立ち返ることはないでしょうか？死者は生者を支持して自問するだろうか ?法と証言に !この言葉に従って語らなければ、彼らは決して夜明けを見ることができない」（イザヤ書 8:19、20）。

特筆すべきはサウルの場合です。神聖な歴史は、誰が亡くなった親戚や友人のふりをし、「死者に相談する」人たちに応答するかを私たちに理解させます。預言者「サムエルは死に、全イスラエルは彼のために悲しみ、彼を埋葬した...そしてペリシテ人は集まってやって来て、シュネムに陣を張った。そこでサウルは全イスラエルを集めてギルボアに陣を張った。サウルはペリシテ人の軍勢を見て恐れ、心は大きく震えた。サウルは主に尋ねたが、主は夢によってもウリムによっても預言者によっても答えられなかった。そこでサウルは家来たちに言った、「魔女の霊を持つ女を見つけてください。彼女のところに行って相談したいのです。」すると家来たちは彼に言った、「見よ、エンドールに占いの霊を持つ女がいる。」そこでサウルは変装して別の服を着て、二人の男を連れて行き、夜に女のところに来た。そして彼は、「お願いです、魔女の霊で私を占い、私を連れてきて、あなたに告げてください」（ Iサムエル28:3-8)と言いました。ここで、神がサウルに何の反応もなかったことから、彼女が神を呼び求めるのではなく、神の側の誰でもないことは明らかです。王は神以外の別の情報源を探していました。物語は次のとおりです。そして彼は言った、「私をサムエルのところに連れて行ってください...すると、女性はサウルに言った、「神々が地から昇っていくのが見えます」（ Iサムエル28:11、13）。注 :真の神は天におられます。彼女が見たのは、悪魔の他者だった。 「そして彼はこう言いました、『あなたの姿はどんな感じですか？』そして彼女は言った、「老人が近づいてくる、そして彼は包まれている」

表紙に。サウルはそれがサムエルであることを理解し、地面に顔を下げてひれ伏しました。サムエルはサウルに、「なぜ私のことを持ち出して不安にさせたのですか」と言いました。 （私はサムです。
28:14、15）。ここから、それがサムエルではないことがすでにわかります。それはサムエルのふりをした悪魔でした。ここから、死者と交信する習慣が人間を悪魔と直接接触させることがわかります。一般に信じられていることに反して、彼らは男性よりも賢いのです。このようにして人間と対峙することによって、彼らは自分の意志に従って彼らを欺くことができるのです。

サウロの訪問は、今日多くの人が霊のセッションに参加することに匹敵します。
それらの中で、霊媒は死者とコミュニケーションをとり、死者から知恵を得ることを目的としています。そのような出会いの最終的な結果は、サウルの一連の物語の中に見ることができます。預言者の宣教でも、夢によるものでもありません。そこで、どうすればよいか教えていただくために電話させていただきました。そこでサムエルは言った、「主があなたを見捨て、あなたの敵になったのに、なぜ私に聞くのですか」。主はわたしの口であなたに語られたとおりのことをあなたにし、主は王国をあなたの手から引き裂き、

Machine Translated by Google

あなたの仲間のデイビッドに与えられました。あなたが主の声に耳を傾けず、アマレクに対する激しい怒りを実行しなかったため、主は今日あなたにこのようなことをされたのです。
そして主はあなたとともにイスラエルをペリシテ人の手に渡されるでしょう。そして明日あなたとあなたの子供たちは私と一緒にいます。そして主はイスラエルの陣営をペリシテ人の手に渡されるであろう。するとサウルはすぐに地にひれ伏し、サムエルの言葉を聞いて非常に恐れた」（ Iサムエル 28:15-20）。

神がイスラエル人に、自分たちの領土の範囲内で魔術を容認しないよう強く命令されたのは、それが魔術に従事する者たちに壊滅的な影響を与えることを知っていたからです。サウルもその同じ日に戦争で亡くなりました。
彼はこの命と優しい人生の機会を失いました。彼は失われた運命を封印し、永遠に失われた。しかし、それはまったく不要でした。もし彼が主に従い、主を信じ信頼していたら、彼は今日救われた者の一人になっていたかもしれません。

時代は多くの面で変わりましたが、善と悪の対立の本質は変わっていません。この現代でも、サタンは同じ欺瞞を主張しています。彼は、公言するキリスト教会の信念の中で、魂は不滅であるという信念を維持することに成功しました。次のステップは、「死者がまだ生きているのなら、なぜ彼らとコミュニケーションが取れないのか」と人々に信じさせることです。サタンとその天使たちは、亡くなった人々に似せて簡単に姿を変え、彼らの声や態度を完璧に真似するだけでなく、ほとんど誰も知らなかった彼らの人生の非常にプライベートな詳細を提示することができます。このようにして、彼らは何千人もの人を騙し、自分たちの仲間に引きずり込むことに成功しました。パウロは神の霊感によってこう書きました。「それも不思議ではありません。サタン自身が光の天使に変えられるのです」(2コリント2:14、15)。それは、天の熾烈なセラフィムの栄光であっても、人間の前に現れることができます。したがって、天使の出現を、彼らのメッセージが神から来たものであるという確かな兆候として信頼すべきではありません。 「法と証言に対して !この言葉に従って語らなければ、彼らは決して夜明けを見ることができないでしょう」（イザヤ書 8:20）。

現代のスピリチュアリズムの本質は死者とのコミュニケーションです。そして、それに対する唯一の防御策は、悪の芽を摘む真理です。「死者は何も知りません...そして、この時代、太陽の下で行われるあらゆることに関与しません。 」(伝道の書9:5、6)。したがって、彼らとコミュニケーションを取ろうとするのは無意味です。魂は死ぬという聖書の信念は、スピリチュアリズムの基盤を傷つけ、それを覆します。そして、非常に多くのキリスト教会によって支持されている魂の不滅の教義は、現代性の層で覆われた古代の魔術にすぎないスピリチュアリズムの誤りへの扉を開くものです。 「聖者の出現」について聞いたことがない人はいないでしょうか。彼らがどれだけ信用されているかに気づいていますか?しかし、「死者は何も知らない」という聖書の教えは、そのような御出現の神聖な主張を損なうものです。それはそれらが神から来たものではないことを示しています。過去にどれほど正しい人生を歩んできたとしても、男性も女性も、この世代の人々の救いのために再び働くことはできません。

イエスはこのことを、この本ですでに取り上げた金持ちとラザロのたとえを通して教えました。最後に、私たちは金持ちのアブラハムへの願いを読み、ラザロが死から戻ってきて親戚たちに次のように警告します。彼らを証しし、彼らもこの苦しみの場に来ないように。アブラハムは彼に言った、「彼らにはモーセと彼らがいる」

Machine Translated by Google

預言者。私たちの話を聞いてください。すると彼は、「いいえ、私の父アブラハムです。しかし、死者の誰かが彼らのところに来たら、彼らは悔い改めるでしょう。しかしアブラハムは彼に言った、「モーセと預言者の言うことを聞かなければ、たとえ死者の中からよみがえったとしても、彼らも信じないだろう。」
（ルカ 16:27-31）。

神が私たちや私たちの愛する人たちを悔い改めに導くためにどのような手段で協力すべきかを私たちは決めることができません。選ぶのは神です。イエスはこう言われました。「あなたが聖書を調べているのは、聖書の中に自分には永遠の命があると思っているからであり、聖書こそがわたしについて証しするものだからである。」（ヨハネ5:39）。それらは「キリスト•イエスへの信仰を通して救いのためにあなたを賢くすることができる聖なる手紙」（2テモテ3:15）です。救われたいと思うなら、自分で聖書を深く研究しなければなりません。私たちの努力は、永遠の命という賞品の価値に比例するものでなければなりません。勉強するとき、私たちは神に御霊を与えて、それを正しく理解できるよう助けてくださるよう祈りのうちに求めるべきです。したがって、多くの人が言うように、聖書から「誰もが自分の解釈を得るのと同じように、私たちもそこから解釈する」ということは起こらないでしょう。

それどころか、私たちはその中に、神によって御言葉によって伝えられた真理を見つけるでしょう。これは、神の導きを求めて研究する人なら誰でも見つけるであろう真実です。このようにして、誰もが同じ道に沿って神によって導かれることになります。なぜなら、「神は混乱の神ではない」からです（ Iコリント14:33）。それぞれの教会の信条が非常に一致していないため、それぞれの教会がすべて正しいわけではありません。各人は、自分の説教が聖書の内容と一致している限りにおいてのみ正しいと言えます。

死者のテーマに戻り、結論として、スピリチュアリズムのもう一つの一般的な教えに反して、聖書は、死者は墓の後に別の体に生まれ変わることはないと述べています。
神は、「人間には一度死ぬことと、死後に裁きを受けることが定まっている」（ヘブル書9:27)と言われています。誰もが自分の運命を決めるのはこの人生です。誰にも二度目のチャンスは与えられません。

最後の日々に

神は、死者に関する真実と、魂の不滅性、スピリチュアリズム、魔術の誤りとの間の対立は今後も続くと教えています。黙示録のラッパは、人間に対する神の恵みが終わる前の最後の出来事についての啓示です。啓示者はこう述べています。「そして、私は七人の天使が神の前に立っているのを見た。そして七つのラッパが彼らに与えられた……そして七人の天使たちは、七つのラッパを持って、それらを吹く準備をしていた。」（黙示録 8:2、6）。聖書は、最後のラッパの7番目が吹かれた後、イエスが戻って来られると教えています。ラッパが鳴り響き、死人は朽ちない者としてよみがえらされ、わたしたちは変えられるからである。」

15:51、52）。そうなると、人間にとってはもう恵みはなくなるでしょう。最後のチャンスは第6ラッパを鳴らすときです。そして、どの階級の人々がそれを利用せず、天国を受け継ぐ最後の機会を失うのかが私たちに明らかになります。「そして、第6の天使たちがラッパを吹き鳴らしました、そして私は別の天使の祭壇の4つの角から声が聞こえるのを聞きました」神の前にいて、神はラッパを持った第六の天使に言った、「四人を放してください」

Machine Translated by Google

天使たち…そして四人の天使たちは、人間の三分の一を殺すために、時、日、月、年に備えて解放されました...そして、これらの疫病によって殺されなかった残りの人間たち、彼らは、悪霊を崇拝しないように、自分たちの手の業を悔い改めませんでした...そして、彼らの殺人も、彼らの魔術も悔い改めませんでした。 」 （黙示録13-15、20）。

神が聖徒たちが住むために形成される新しい天と新しい地について説明するとき、ヨハネはイエスの命令に従って次のように書いています。火と硫黄で、それは第二の死である。 」

（黙示録21:8）。さらにこう付け加えています。「主の戒めを守る人たちは幸いです。それは彼らが命の木に力を持ち、門を通って町に入ることができるからです。彼らは取り残されるだろう…魔術師たち」（黙示録22:14、15）。

神は事前に未来を明らかにすることで私たちの破滅を防ぎ、私たちの救いを保証しようとしておられます。選択は私たちにあります。私たちはどちら側になりたいでしょうか？今日、生きることを選択してください。これまであなたが間違いを信じてきたなら、魂の救いのために、それを捨てて真実を選ぶ機会が与えられます。イエス様があなたを助けてくださいます。彼はあなたを含め、皆のために死んだのです。たとえあなたが最終的に敵の道にどれだけ進んだとしても。あなたが彼と協定を結んだかどうかは関係ありません。イエスにおいては、これらすべてが打ち破られました。彼の血は全人類をサタンに結びつける鎖を打ち砕いた。そして、神の羊ではなかったが、今日神を選んだ人々に関してさえ、神はこう言われました。これらを集めるのはわたしにとっても好都合であり、彼らはわたしの声を聞き、羊の群れと羊飼いがいるだろう…彼らは決して滅びず、誰もそれらをわたしの手から奪うことはない。それを私に与えてくださった父は誰よりも偉大です。そして、誰もそれらを父の手から奪うことはできません」（ヨハネ 10:16、28、29）。したがって、私たち全員が、今日そして私たちの人生の毎日において、私たちの魂の全面的かつ完全な救いのために、間違いを放棄してイエスを選択できますように。

アーメン！

神のお恵みがありますように。

付録 1

聖地からの家具

Machine Translated by Google

イエスが天に昇られたときに奉仕を始めた「聖なる」場所には、金の燭台、供えのパンの台、香の祭壇という三つの家具がありました（ヘブライ 9:2、出エジプト記 30:1-3）。私たちはこれから、天の聖所と救いの計画をより深く理解するために、これらの家具の意味を研究することに焦点を当てていきます。

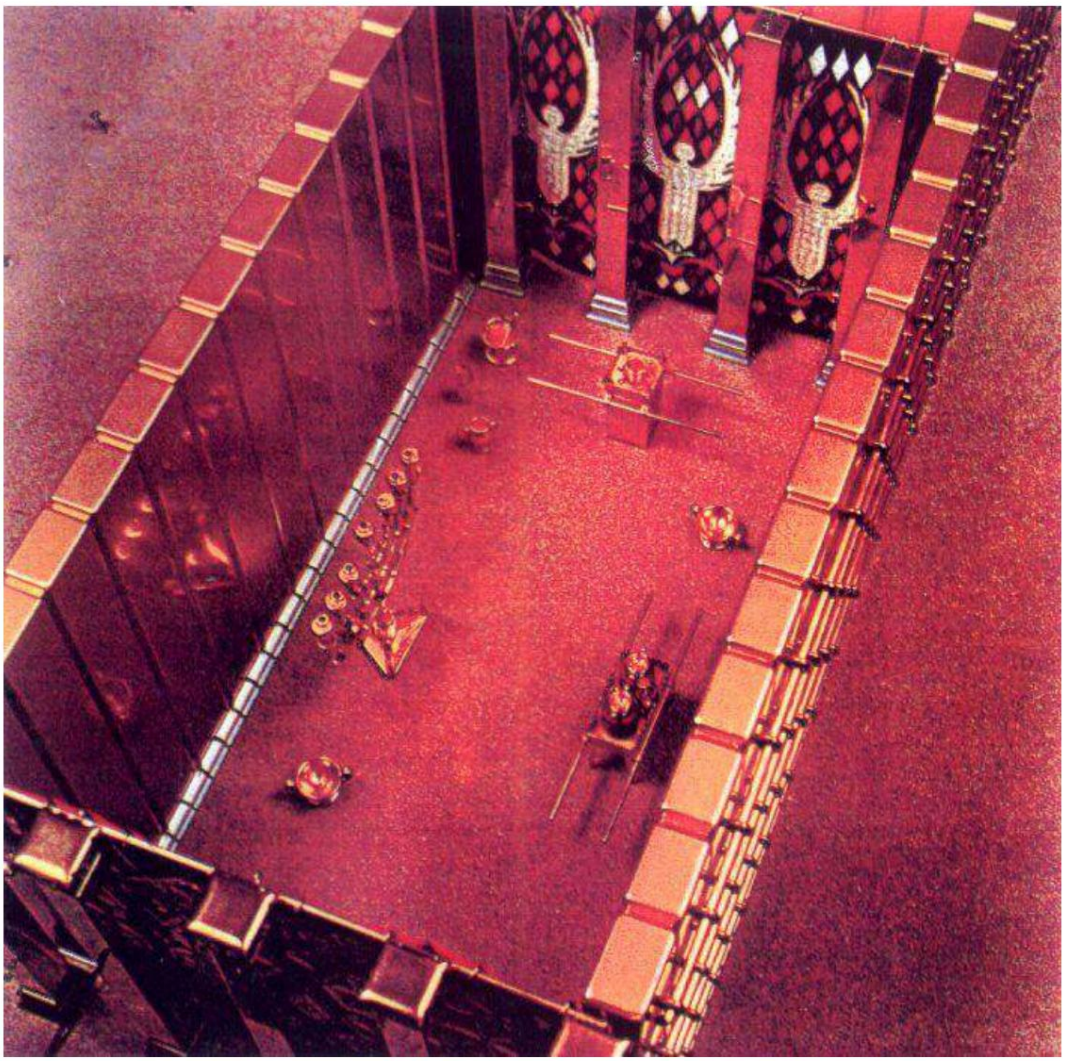

図 1 - 7 つのランプを備えたシャンデリア (左側) を含む聖なる区画の上面図。香の祭壇 (図の上部) には 2 本のポールが付いており、ショーブレッドのテーブル (右側) には 2 本のポールが付いています。

Machine Translated by Google

図 2 – 黄金のランプ

金の燭台についての詳細な説明は出エジプト記 25:31-39 にあります。それは天国の真の聖域の7つの燭台に対応します。イエスは、これらは黙示録で示されている7つの教会を表していると言い、「あなたが見た7つの燭台が7つの教会です」と述べました。アポック。 1:20。聖書では数字の 7 は全体を表します。完全な 1 週間は 7 日間あります。
同様に、7 本の燭台は、地上の神の真の教会の会員全員を表しています。

ランプの7つのランプは絶えず燃え続け、ランプの管を流れる油、油で養われました。「主はモーセに言われた、「イスラエルの人々に命じて、オリーブ油を持ってくるように」 、純粋、打ちのめされた、ランプのために、ランプを灯し続けること。」 （レビ記 24:1、2）。ランプが灯り続けるためには常に油が注がれなければならないのと同じように、教会は良い行いで輝くために常にキリストの聖霊が注がれなければなりません。イエスはランプに含まれる象徴を用いて，「あなたの光を人々の前で輝かせてください。そうすれば，人々はあなたの良い行いを見て，天におられるあなたがたの父に栄光を帰すことができます」。マタイ 5:16。

この国の聖所では、ともしびに油を注ぎ、ともしびが常に燃え続けるように芯を維持する責任が大祭司の責任でした。夕方から朝まで、証言のベールの外、集会の天幕の中で。それはあなたがたの世代を超えて永遠の法である」（レビ記２４：３）。同様に、私たちの真の大祭司であるイエスも、私たちが神の導きを拒否しないように、常に御霊を私たちに送って私たちの心の中に執り成してくださいます。そして、神の御霊が私たちを動かして良い行いをさせていただけるように、神と協力しましょう。忍耐、優しさ、善良さ、信仰、柔和、節制。そのようなことを禁止する法律はありません。」 （ガラテヤ 5:18、22、23）。

Machine Translated by Google

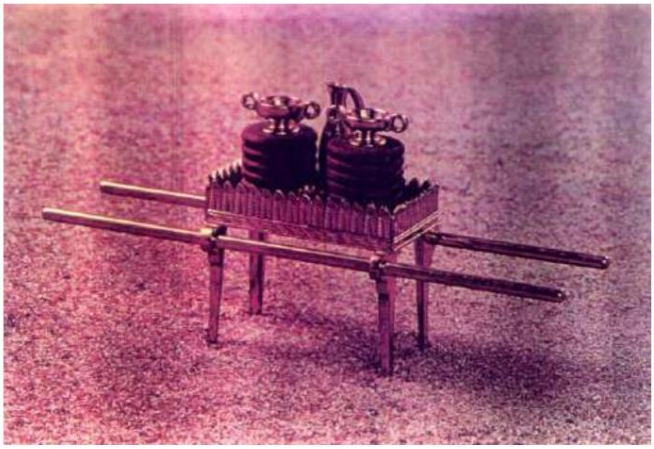

図 3 – showbread のテーブル

ショーブレッドのテーブル。この表の詳細な説明は出エジプト記 25:23-30 にあります。それはサテンの木でできていて、純金で覆われており、端には王冠が彫られていました。聖書は人間を木に例えています。主は人間のそれぞれの階級に対して何をなさるのかについて、こう言われました。「それで、主であるわたしが高い木を切り倒し、低い木を起こし、緑の木を枯れさせたことを野のすべての木が知るでしょう。」そして、枯れた木を再び成長させました」（エゼキエル17:24）。テーブルを構成する金で覆われた乾いたサテンの木は、神の聖霊を奪われた人々を表しており、彼らは金のように貴重な信仰を通してそれを受け取り、聖さのうちに歩みます。朽ちて火で試される金よりも貴重なものであり、イエス•キリストの啓示によって賞賛と栄誉と栄光の中に見出されなさい」（Ⅰペテロ1:7）。テーブルの端に描かれている王冠は、イエスが「死に至るまで忠実であれ、そうすれば命の冠を与えましょう」(黙示録2:10)と言われているように、勝利の象徴です。したがって、この表は、金のような信仰によって勝利し、福音の約束に従って永遠の命の相続人となった人々で構成されたキリストの教会も表していることが分かります。

図から、テーブルの天板が長方形であることに注意してください。
出エジプト記 25 章の本文によれば、幅は 1 キュビト、長さは 2 キュビトでした。その長さは二キュビト、幅は一キュビトである」（出エジプト記 25:23）。男性を代表する木の独楽、この寸法にも意味があります。 「キュビット」は長さを測る単位で、肘から中指の先までの前腕の長さに相当します。それは各人間の大きさに基づいていたため、聖書はキュビトを人間の寸法と呼んでいます。「そして彼は自分の城壁を測った。人間の寸法に従って、百四十四キュビトだった」（アポック 4:11）。 21:17）。テーブルトップは、

Machine Translated by Google

サテンのボードのセットなので、一定数の人々を表します。幅は1キュビト、つまり人間の寸法であり、したがって人間の集団を表します。ただし、テーブルの長さは 2 キュビトあり、これは 2 つのグループを表します。これらは、イエスの犠牲の結果として集められた信者の 2 つのグループです。

ユダヤ人と異邦人。どちらも同じ板の一部であり、キリストの同じ体の一部であり、統一された全体を形成しています。そして十字架を通して両者を一つの体として神と和解させ、神との敵意を滅ぼすのです。」 （エフェソス 2:14-16）。ユダヤ人も異邦人も、すべての人のために死んだ神の小羊への信仰という唯一の手段によって神のもとに来ます。

テーブルの上には12個のパンがありました。それらは臨在のパン、または継続的なパンと呼ばれていました。「青い布をショーのテーブルの上にも広げます...また、継続的なパンがその上に置かれます。」 (1つ目。
4:7）。聖書では、パンは真の教会の信者のグループを表しています。
キリストの体：「私たちは大勢であるので、パンは一つであり、体も一つです。」 (Iコリント
10:17)。 12個のパンは神の民であるイスラエルの12部族を表しており、それが「臨在のパン」であるという事実は、神の真の教会が信仰によって神の臨在の中で絶えず生きていることを意味します。イスラエルの 12 部族は、12 使徒と同様、人間が持つ 12 の異なる気質を表しています。12部族の起源となったヤコブの息子たちそれぞれの気質と、イエスの12人の弟子たちの気質を研究すると、このことが明らかになります。今日の科学は、人間には 12 通りの異なる気質の組み合わせが存在することを認めています。聖所のキリストの御前に常にある12のパンは、真の教会に属し、物理的には地上にいますが、信仰によってキリストの御臨在の中で生きている、あらゆる気質の人々がいることを示しています。これは、あなたがどのような気質を持っていても、また他人との関係で自分の立場がどれほど不利に見えても、あなたも彼らと同じようにキリストの御前で、キリストが歩まれたように歩むことができるという天から与えられた証拠です。

ただ神の力を使ってください。また、この図から、12 個のパンが 6 個のパンを 2 列に並べて配置されていることにも注目してください。各ケーキは10分の2になります。そしてそれを主の前の清い台の上に、各列六個ずつ二列に並べなければならない。」レビ記 24:5、6。 パンを 2 つに分けることは、テーブルの寸法を研究することですでにわかった真実を裏付けています。教会に属するものとして 2 つの階級、すなわちユダヤ人と異邦人が表されています。この象徴を通して、今日多くの人が説いているように、神はユダヤ人と異邦人を区別して見ていないことがわかります。どちらも同じ方法で、つまり信仰を通して神に近づくことができます。そして、信者、ユダヤ人も異邦人も、今日では神の側から平等に配慮される対象となっています。なぜなら、すべての人は罪を犯し、神の栄光を受けられないからです...神はユダヤ人だけでしょうか？そしてそれは異邦人にとっても同じではないでしょうか？もちろん異邦人からもです。もし神が、信仰を通して割礼を義とし、また信仰を通して[つまり、同様に信仰によって]無割礼を義とされるお方であるならば。」
「この神秘は、啓示によって明らかにされました。つまり、異邦人は共同の相続人であり、同じからだであり、福音によるキリストにある約束にあずかる者であるということです。」（ローマ
3:22、23、29、30。エフェソス 3:3、6)。

Machine Translated by Google

天の聖所の霊的意味が分かる文書はパウロの著作、この場合はローマ人への手紙とエペソ人への手紙であることに注意してください。イエスはパウロに、神の前で福音を受け入れた異邦人がどのような状況にあるのか、また異邦人を神がどのように見ているかを理解できるようにしてくださいました。パウロはどのようにしてこれらのことを理解したのでしょうか。

私たちは、彼が説いたことは、聖域の象徴性を正しく理解した結果として得られた霊的真理にほかならないことに気づきました。パウロはユダヤ人でした。したがって、彼は天国のコピーである地上の聖域を知っており、それを研究しました。
これまで見てきたことから、イエスはパウロに、聖所の象徴によって明らかにされる真理、そして信じる異邦人の立場と特権についての啓示を与えられたと結論づけます。

パンに関しては，「それはアロンとその子らのものであり，彼らは聖なる場所でそれを食べるであろう。それは最も神聖なものだからである」とも書かれています。
（レビ記 24:9）。これらの言葉は、神が地上の教会を「最も神聖なもの」であるとどのように考えているかを示しています。それらを絶えず反省することによって、今日の信者たちは、日常のことにおいてさえ、より慎重に行動し、常にキリストの御心を確実に実行するように努めるようになるでしょう。

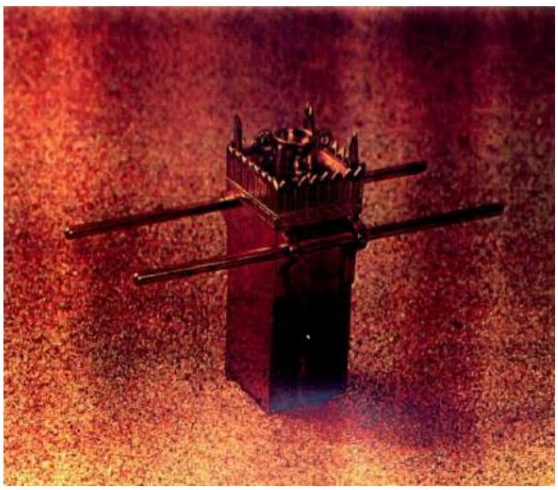

図 3 – 香壇

香壇。香の祭壇についての詳しい説明は出エジプト記 30:1-8 にあります。それはサテンの木で作られ、純金がかぶせられ、端の周りには王冠が彫られていました。木は人間を表し、それを覆う金は信仰を表し、それによって人間は勝利し、端に刻まれた王冠を獲得します。それは正方形で、幅1キュビト、長さ1キュビトでした。キュビトは人間の大きさでした。

したがって祭壇は、天の御父に対する金のような完全な信仰によってサタンを打ち破り、勝利の冠を得て、今日神の御前に立っている私たちと同じ人間、イエス•キリストを表していました。

Machine Translated by Google

香壇は神の臨在が現される最も聖なる場所に最も近い家具でした。その上で、司祭は香の煙を立ち上らせましたが、その香りは、司祭がカーテンやベールに振りかけた、告白した罪を象徴する血の不快な臭いを打ち消しました。同じように、キリストも私たちの祈りを香の祭壇の上で神に捧げ、神の義と私たちの罪の不快な匂いを混ぜ合わせてくださいます(ヘブル9:5-9)。この義は、私たちと同じように罪を犯す傾向を持って生まれ、罪人であるマリアから生まれ、この地上で生きた神が、33年間にわたる神の律法に対する完全な従順に相当します。

私たちの祈りは天国で心地よいものであり、イエスが得たこの勝利の功績により、神は応えてくださるでしょう。私たちの大祭司としてのイエスに、その従順の生涯の記録を提示することによって、サタンは恥をかかされ、私たちの祈りは神のご意志に従って答えられます。

イエスのこの働きを描写して、黙示録は次のように明らかにしています。そして、すべての聖徒の祈りとともに玉座の前にある黄金の祭壇に置くために、たくさんの香が彼に与えられました。そして聖徒たちの祈りとともに、神の御前で天使の手から香の煙が立ち上った。」（黙示録 8:3）。祭壇はキリストを表しているので、それが「キリストの体、すなわち教会」（コロサイ 1:24)も表していることがわかります。

最も神聖な場所

「しかし、第二の幕の向こうには至聖所と呼ばれる幕屋があり、そこには金の香炉と、周囲を金で覆われた契約の箱があり、その中にはマナの入った金の器があり、アロンの杖があった。芽吹き、そして契約の食卓。そして箱の上には栄光のケルビムがあり、慈悲の座を覆っていた」（ヘブライ人への手紙 9:3-5）。